

白河市文化財保存活用地域計画



令和4年3月

白 河 市

白河市文化財保存活用地域計画

令和4年3月

白 河 市

ごあいさつ

古くから交通の要衝として発展してきた白河には、古文書や美術工芸品、祭礼や行事、あるいは遺跡や希少植物など、さまざまな文化財が残されています。

これらはいずれも、これまで地域の先人たちが築き上げた歴史文化の証であり、地域への愛着や誇りを醸成するとともに、日々の生活に癒しと活力を与えるかけがえのない財産です。

このため、白河市では「歴史・伝統・文化」を活かしたまちづくりを柱のひとつに据え、2期にわたる「白河市歴史的風致維持向上計画」の策定など、文化財をはじめとする歴史的・文化的資源の保存と活用に積極的に取り組んでまいりました。

そしてこのたび、文化財保護法に基づく「白河市文化財保存活用地域計画」について、国の認定を受けました。

これを契機に、市内の文化財について改めて見つめ直し、より磨きをかけ、活かすことで、まちの魅力や市民の活力を高めてまいります。

また、貴重な文化財を次世代へ継承するための基盤づくりにも、より力を入れてまいりたいと考えております。
結びに、本計画の策定にあたり御協力を賜りました関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

白河市長 鈴木 和夫

目 次

第1章 計画の位置づけ

| | |
|-----------------|---|
| 1 計画作成の背景と目的 | 1 |
| 2 本計画の位置づけ | 2 |
| 3 作成の体制と経過 | 7 |
| 4 計画期間 | 8 |
| 5 本計画における文化財の定義 | 9 |

第2章 市の概要

| | |
|------------|----|
| 1 自然・地理的環境 | 11 |
| 2 社会的環境 | 14 |

第3章 白河の歴史と文化財の概要

| | |
|------------------|----|
| 1 白河の歴史 | 23 |
| 2 各地域の歴史 | 29 |
| 3 暮らしの移り変わり | 31 |
| 4 白河の文化財の概要（まとめ） | 34 |

第4章 文化財把握の現状

| | |
|-------------------|----|
| 1 指定・登録文化財の現状 | 35 |
| 2 既存文化財調査の概要と成果 | 36 |
| 3 地域文化財把握のための追加調査 | 37 |
| 4 地域ごとの文化財把握の現状 | 37 |

第5章 白河の歴史文化の特徴

| | |
|--------------------|----|
| 1 歴史文化の特徴 | 39 |
| テーマ1 みちのくの入口 白河 | 40 |
| テーマ2 白河結城家の治世 | 43 |
| テーマ3 歴代藩主と城下町 | 46 |
| テーマ4 松平定信の藩政と文化事業 | 49 |
| テーマ5 戊辰戦争白河口の戦いと慰霊 | 52 |
| テーマ6 白河の近代化遺産と文化振興 | 54 |
| テーマ7 白河の産業と諸職 | 57 |
| テーマ8 白河の暮らしと祈り | 60 |

| | |
|---------------------------|----|
| 第6章 文化財保存・活用の課題と方針 | |
| 1 文化財の保存・活用に関する将来像と方向性 | 63 |
| 2 文化財保存・活用の現状と課題 | 64 |
| 3 文化財の保存・活用に関する基本的方針 | 68 |
| | |
| 第7章 文化財の保存・活用の措置 | |
| 1 文化財の全体像を把握する | 71 |
| 2 文化財を次世代へ継承する | 73 |
| 3 文化財を地域のために活用する | 74 |
| | |
| 第8章 文化財保存活用区域 | |
| 1 文化財保存活用区域について | 77 |
| 2 文化財保存活用区域 | 79 |
| | |
| 第9章 保存・活用の推進体制 | |
| 1 現状と課題 | 93 |
| 2 文化財保存・活用の推進体制 | 93 |
| 3 評価方式 | 96 |
| | |
| 資料 | 97 |

- ・本計画は、令和3年12月17日に文化庁の認定を受けた。
- ・本計画の作成および計画書刊行の事業費については、令和3年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）による。

第1章 計画の位置づけ

1 計画作成の背景と目的

白河は関東と東北の境界に位置する交通の要衝であり、古代には白河関しらかわのせきが置かれるなど、「みちのくの入口」として時代を通じて重要な役割を果たしてきました。現在に至るまで、白河は多くの人と物が行き交う土地として栄え、多くの文化財が残されています。

しかし、近年は社会状況の変化や人口減少などにより、歴史的建造物や地域の祭礼・行事など、各種文化財の維持や継承が難しくなっています。

こうした背景を受けて白河市では、平成23年（2011）に「白河市歴史的風致維持向上計画」を策定し、歴史的建造物や伝統産業、地域の祭礼・行事を含む歴史的風致の保存・活用が図られています。同計画においては、小峰城跡こみねじょうあとや南湖公園なんここうえんなど市内の主要な国指定史跡を歴史まちづくりの中核に位置づけており、文化財がまちづくりにおける重要な役割を担っています。

一方、文化財行政においては、小峰城跡、南湖公園、白河舟田・本沼遺跡群しらかわふなだ もとぬまいせきぐん、白河官衙遺跡群しらかわかんが いせきぐんなどの国指定史跡について、個別に「保存管理計画」「整備基本計画」「保存活用計画」などを策定し、保存や整備・活用を進めてきました。また、福島県指定文化財については、市と県で連携して保存・活用に取り組んでいます。市指定文化財については、指定を計画的に行いながら保存・活用を図っています。

しかしながら、文化財保護に関する事業は指定文化財を主な対象としており、未指定文化財の把握や保存・活用に関する施策は十分ではありません。指定・未指定を問わず、文化財を総合的に把握し、保存継承を図ることは、喫緊の課題となっています。

平成31年4月の改正文化財保護法施行によって、都道府県における文化財保存活用大綱の策定、および市町村における文化財保存活用地域計画を作成することができるようになり、令和2年3月には「福島県文化財保存活用大綱」が策定され、福島県における文化財の保存・活用について指針が示されました。

これらを踏まえ、市内の文化財を地域の無二の財産と位置づけ、これを適切な形で保存し、次世代に継承するとともに、地域資源として活用するため「白河市文化財保存活用地域計画」（以下「本計画」）を作成しました。市内に所在する指定・未指定の文化財を総合的に把握し、その価値を明らかにし、自治体と地域が総がかりで保存・継承・活用していくための方針と施策を定めるものです。本計画により、市の中心部のみならず、各地域に蓄積されてきた歴史文化の豊かさを再認識し、その所産である文化財を地域づくりの資源として活用するための基盤づくりを目指します。

2 本計画の位置づけ

本計画は、市の最上位計画である「白河市第2次総合計画」の文化財分野における個別行政計画であり、「文化財保護法」など関係法令や「福島県文化財保存活用大綱」に則り、市の文化財行政における総合的な指針を示す計画と位置づけられます。

白河市第2次総合計画および市の関連する行政計画では、文化財について以下のように位置づけています。

(1) 「白河市第2次総合計画」(計画期間：平成25年度～令和4年度)

同計画の基本構想においては、市の将来像を「**みんなの力で未来をひらく 歴史・文化のいきづくまち 白河**」と定め、まちづくりの基本要素の一つを「歴史・文化」に求めています。

また、各分野における基本目標の中でも、文化財の保存・活用について触れています。

①「産業・雇用分野」

「地域固有の恵まれた観光資源を活かした着地型観光」を推進し、交流人口の拡大を図るとしています。

②「教育・生涯学習分野」

基本目標「1 生きる力と思いやりを育む教育の充実」においては、「郷土に誇りを持ち、白河の未来を拓く子どもたちを育むため」の教育環境を整備することを目指し、基本施策として「まつねいさだのぶ松平定信等の歴史上の偉人に関する学習や、史跡など文化財の見学等を通じた郷土の歴史教育の充実」を図るとしています。

基本目標「5 歴史や伝統文化の保存・継承」においては、歴史文化に関する施策として「郷土の歴史や伝統、芸術文化にふれることのできる環境づくりやその保存・継承を担う人づくり」を進めるとし、祭礼・行事の記録や継承支援など「郷土の歴史や伝統文化の保護・継承」、展示施設の活用など「文化・芸術・歴史の公開・普及」、史跡整備や埋蔵文化財包蔵地の開発指導・調査を含めた「埋蔵文化財の保護」など、文化財の保存・活用に関する各種施策が盛り込まれています。そして、市民や町内会等団体と協働で地域の歴史文化への愛着を深め、地域ぐるみで文化財の管理に取り組むこととしています。

③「都市基盤分野」

後述の「歴史的風致維持向上計画」や「景観計画」を踏まえ、「本市が育んできた地域固有の歴史・文化・風土を活かした魅力ある街並み・景観づくり」を推進するとしています。

④「環境分野」

史跡指定地を含む公園の保存管理や観光拠点の整備を通じて「豊かな自然環境や歴史的・文化的遺産などを活用した憩いの空間づくり」を推進するとしています。

(2) 「白河市都市計画マスタープラン」(計画期間：平成21～令和10年度)

「第5章 都市づくりの方針」における土地利用の基本的な考え方として、小峰城や南湖公園などの文化財の景観を守るため、高度制限や地区指定などによりながら都市計画を進めるとしています。また、歴史的街並み景観の保全のため、歴史的・文化的遺産を活用したまちづくりを進めるとしています。

(3) 「白河市文化芸術推進基本計画」(平成30年3月策定)

基本施策の一つとして「文化芸術資源の継承」を掲げ、「文化財・伝統芸能等の保存・継承の支援・活用」及び「地域に残る文化芸術資源の掘り起こし」に取り組むこととしています。

(4) 「白河市景観計画」(平成23年3月策定、令和2年12月一部変更)

小峰城跡と中心市街地(旧城下町)、南湖公園など文化財が形成する歴史的景観を重要と位置づけるとともに、「白河市固有の歴史、文化、自然景観を活かしながら、地域の風土や文化を尊重した魅力あふれる景観形成の推進」を目指すとしています。

(5) 「第2期白河市創造みらい総合戦略」(計画期間：令和2～6年度)

同計画は、「第2次総合計画」の重点戦略プランと位置付けられ、市のさまざまな課題の背景となる人口減少の抑制を図るため、人口の転出の抑制、転入・定着の促進、交流人口の増加などを目指すものです。

基本目標Ⅱ「若い世代の活躍を支える」では、教育において歴史文化に触れ学ぶ機会を創出し、地域への愛着と誇りを育み、若者の定着や回帰につなげていくとしています。基本目標Ⅲ「人と地域のつながりをつくる」では、小峰城や南湖公園、白河関などの文化財を活用した着地型観光の推進により、市の交流人口の増加を図るとしています。

(6) 「白河市国土強靱化地域計画」(計画期間：令和2～6年度)

起きてはならない最悪の事態(リスクシナリオ)の一つとして「貴重な文化財の喪失」「地域コミュニティの崩壊等による有形・無形の文化の衰退・損失」を想定し、それを避けるために「社会・経済が迅速かつ従前より強靱な姿で復興できる条件を整備する」としています。

(7) 「白河市観光振興計画」(計画期間：令和2～6年度)

国指定史跡である小峰城跡、南湖公園、白河関跡を市の三大観光地と位置づけ、「保存管理計画」などの個別計画を踏まえたうえで、魅力の向上を図るとしています。また、その他の史跡や歴史的建造物等についても、保存保護に努めつつ、観光地としての魅力向上

を図っていくこととし、観光振興による交流人口の増加と地域経済の活性化を目指すものとしています。

(8) 「第3次白河市環境基本計画」(計画期間：令和3～12年度)

基本目標の一つとして「地域環境の保全活動の拡大」を挙げ、白河関跡や南湖公園、小峰城跡に代表される魅力ある地域資源に恵まれた白河を未来に引き継ぐため、市民・事業者・市が協働して環境保全運動に取り組むことが目指されています。

また、個別目標4「快適な街並みの形成」では、歴史遺産の保存・育成を通じた魅力あふれる景観づくりを推進するとしています。

(9) 「白河市歴史的風致維持向上計画(第2期)」(計画期間：令和3～12年度)

「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」に基づく計画です。同法で「歴史的風致」とは、「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史的価値の高い建造物及びその周辺の市街地が一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義されています。歴史的風致を形成する要素のうち、史跡や建造物などの「歴史的価値の高い建造物」は有形の文化財として、祭礼・行事などの「人々の活動」は無形の文化財として捉えることができます。

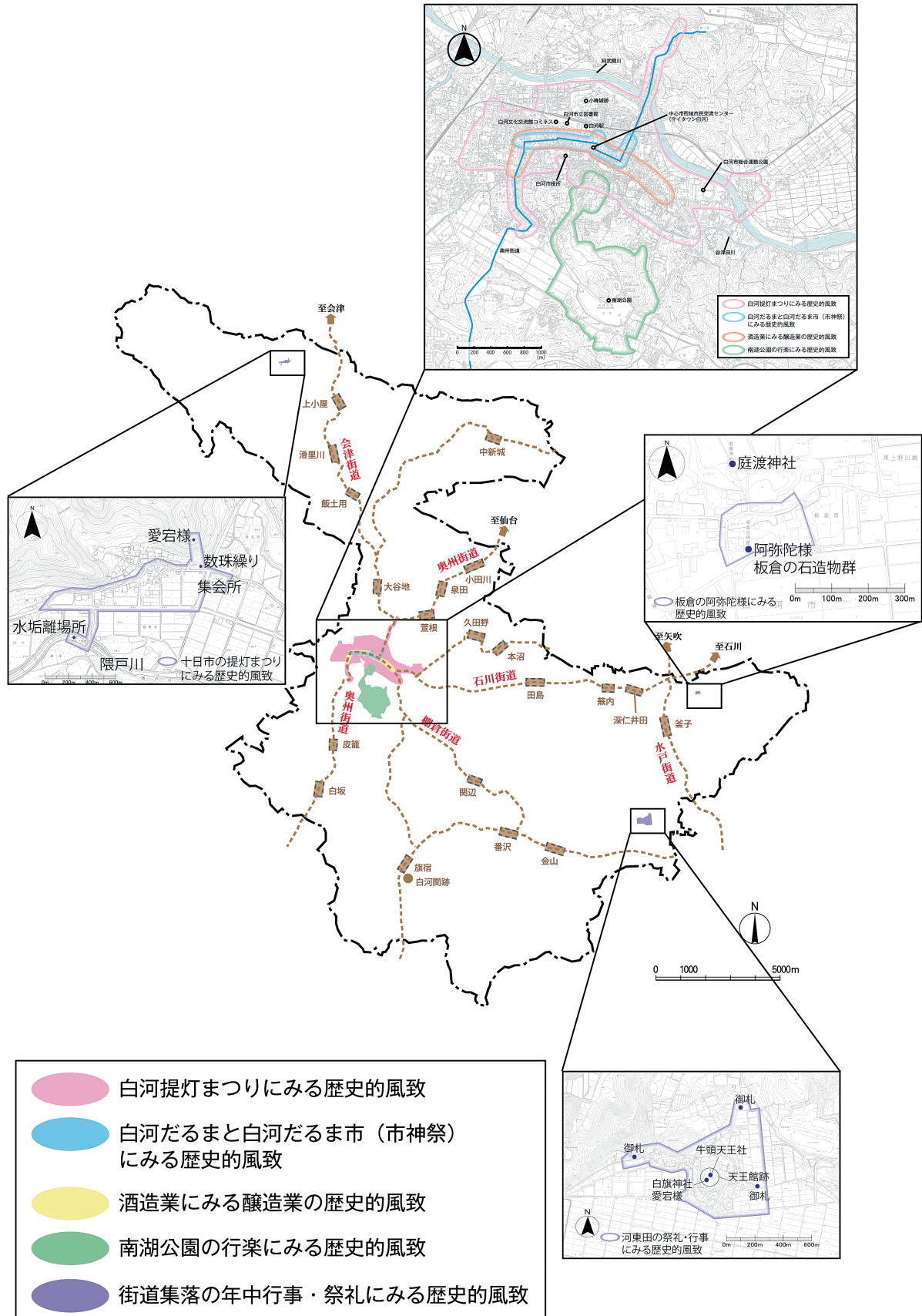
同計画では白河市の維持向上すべき歴史的風致を以下のものとしています。

- ①白河提灯まつりにみる歴史的風致
- ②白河だるまと白河だるま市(市神祭)にみる歴史的風致
- ③酒造業にみる醸造業の歴史的風致
- ④南湖公園の行楽にみる歴史的風致
- ⑤街道集落の年中行事・祭礼にみる歴史的風致

また、5つの歴史的風致のうち、①～④までが集中している小峰城跡を中心とした2つのエリア(城下町エリア・南湖公園エリア)を重点区域に位置づけ、歴史的風致の維持及び向上を図るための施策を重点的かつ一体的に推進しています。

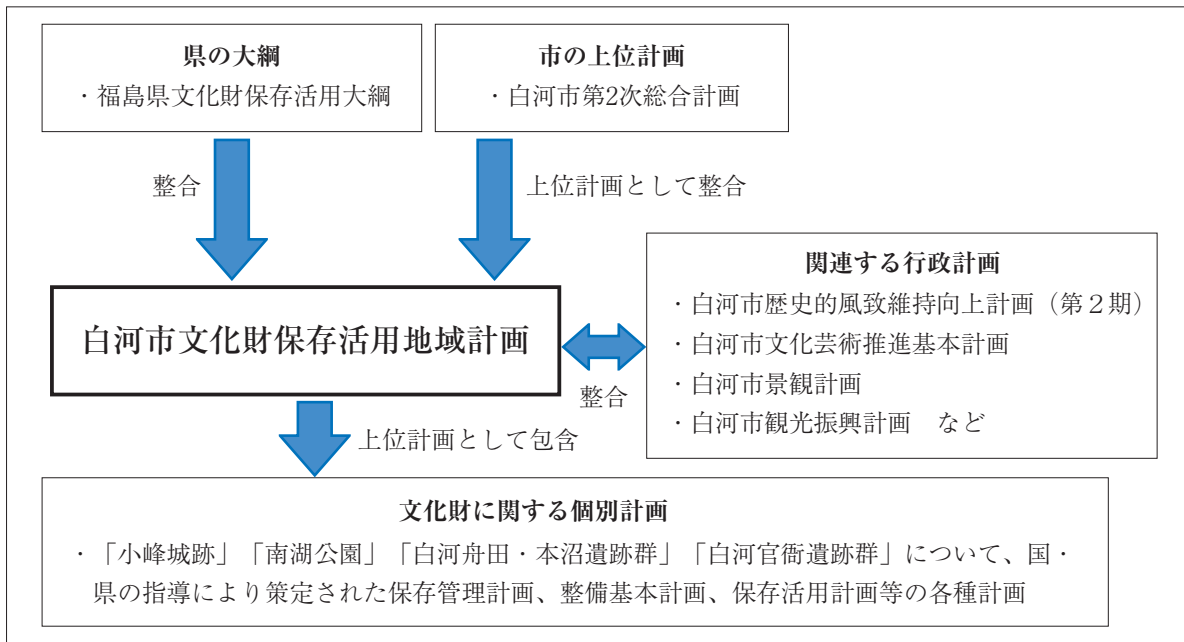
以上のように、歴史文化は、都市計画、文化振興、観光、環境、まちづくり、教育などの各分野で重要な要素として挙げられ、その保存や活用を通じて市の政策の実現が目指されています。ただしその多くは、市の都市形成や景観形成に大きな役割を果たしている小峰城跡や南湖公園など、一部の国指定文化財について触れるにとどまっています。

一方で、郷土の歴史文化をより深く理解し、各種施策に活かすためには、市内に所在する未指定を含む文化財の全体像を把握し、その価値や特色を明らかにした上で、次世代に継承していくことが求められます。



「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）における風致地区・重点区域

本計画は、市内の文化財を総合的に把握し、その包括的な保存・活用を目指すためのもので、白河市における文化財行政の総合計画として位置づけられます。



各計画の相関図

3 作成の体制と経過

本計画作成にあたっては、白河市建設部文化財課が事務局となり、文化財に関する学識経験者や地域の博物館・教育等の関係者からなる白河市文化財保護審議会において計画案の審議検討を行いました。

白河市文化財保護審議会 委員名簿

| 氏名 | 役職 | 専門分野 | 所属等 |
|------|-----|------------------|----------------|
| 若林 繁 | 会長 | 仏教美術史 | 福島県文化財保護審議会委員 |
| 佐川庄司 | 副会長 | 地域史・ 歴史資料（中世） | （公財）藤田記念博物館学芸員 |
| 阿部俊夫 | 委員 | 歴史資料（近世） | 福島県文化財保護審議会委員 |
| 一柳智子 | 委員 | 民俗芸能 | 郡山女子大学短期大学部教授 |
| 川延安直 | 委員 | 近世絵画史 | 福島県立博物館副館長 |
| 鎌水 実 | 委員 | 民俗学 | 福島県立白河高等学校教諭 |
| 中村琢巳 | 委員 | 建築史 | 東北工業大学建築学部准教授 |

作成の経過

| 年月 | 作業内容 |
|---------------|------------------------------|
| 令和3年 7月13日 | 第1回白河市文化財保護審議会開催（素案について審議検討） |
| 8月2日～22日 | パブリックコメントによる住民意見の聴取 |
| 8月26日 | 第2回白河市文化財保護審議会開催（素案完成） |
| 9月～11月 | 文化庁・各省庁との修正協議 |
| 11月25日 | 第3回文化財保護審議会を開催（最終案について報告） |
| 12月 | 文化庁文化審議会開催、計画認定 |

また、計画が市の各施策と関わることから、庁内関係各課との連絡調整を適宜行いながら、内容の検討を行いました。

白河市文化財保存活用地域計画にかかる庁内連携体制

| 区 分 | 課 所 名 |
|-------|----------------|
| 事務局 | 建設部文化財課 |
| 連携担当課 | 建設部都市計画課 |
| | 建設部まちづくり推進課 |
| | 市長公室企画政策課 |
| | 市長公室文化振興課 |
| | 産業部観光課 |
| | 教育委員会生涯学習スポーツ課 |
| | 教育委員会学校教育課 |

4 計画期間

本計画においては、実施事業に短期・中期・長期の内容を含み、それらを段階的に実施する必要があることから、計画期間を10年（令和4年度～令和13年度）とします。

なお、計画期間中においても必要に応じて計画の見直しを行います。

本計画の上位計画となる「白河市第2次総合計画」の計画期間が令和4年度までとなっているため、その切り替えに合わせて本計画も見直しを行います。

また、計画の内容を変更する際は、軽微なものについては県を通じて文化庁へ報告することとし、それ以外については文化庁長官に変更の認定を受けることとします。

5 本計画における文化財の定義

本計画における「文化財」とは、以下のものとします。

まず、文化財保護法に規定される文化財の類型として、以下の6つがあります。

- ①有形文化財
- ②無形文化財
- ③民俗文化財
- ④記念物
- ⑤文化的景観
- ⑥伝統的建造物群

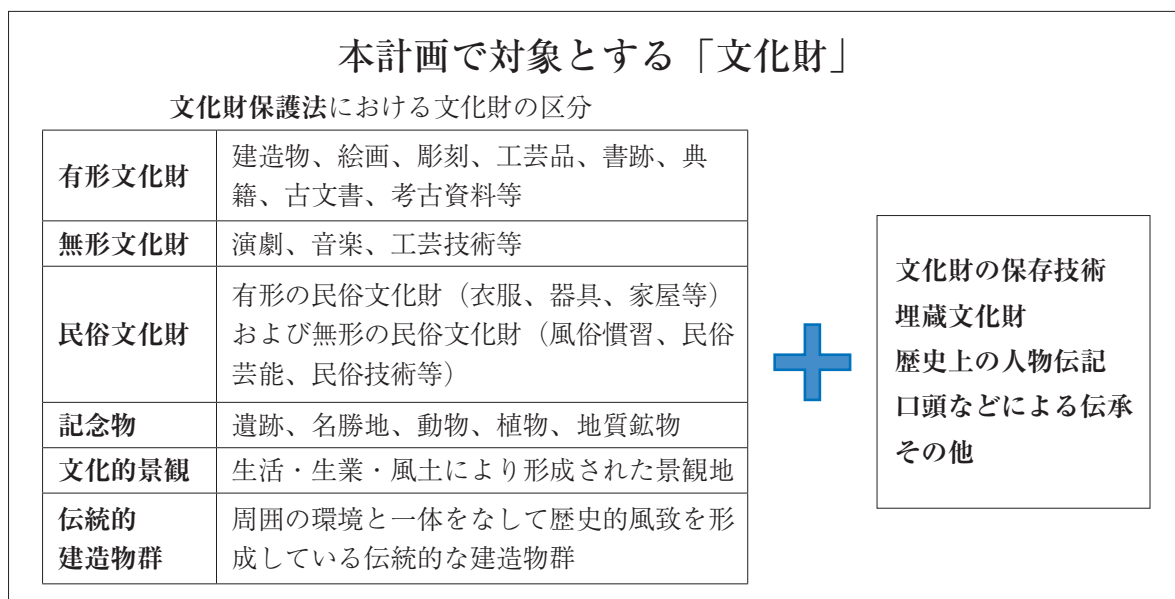
上記以外で文化財保護法に記載されるものとして、以下の2つがあります。

- ⑦文化財の保存技術
- ⑧埋蔵文化財

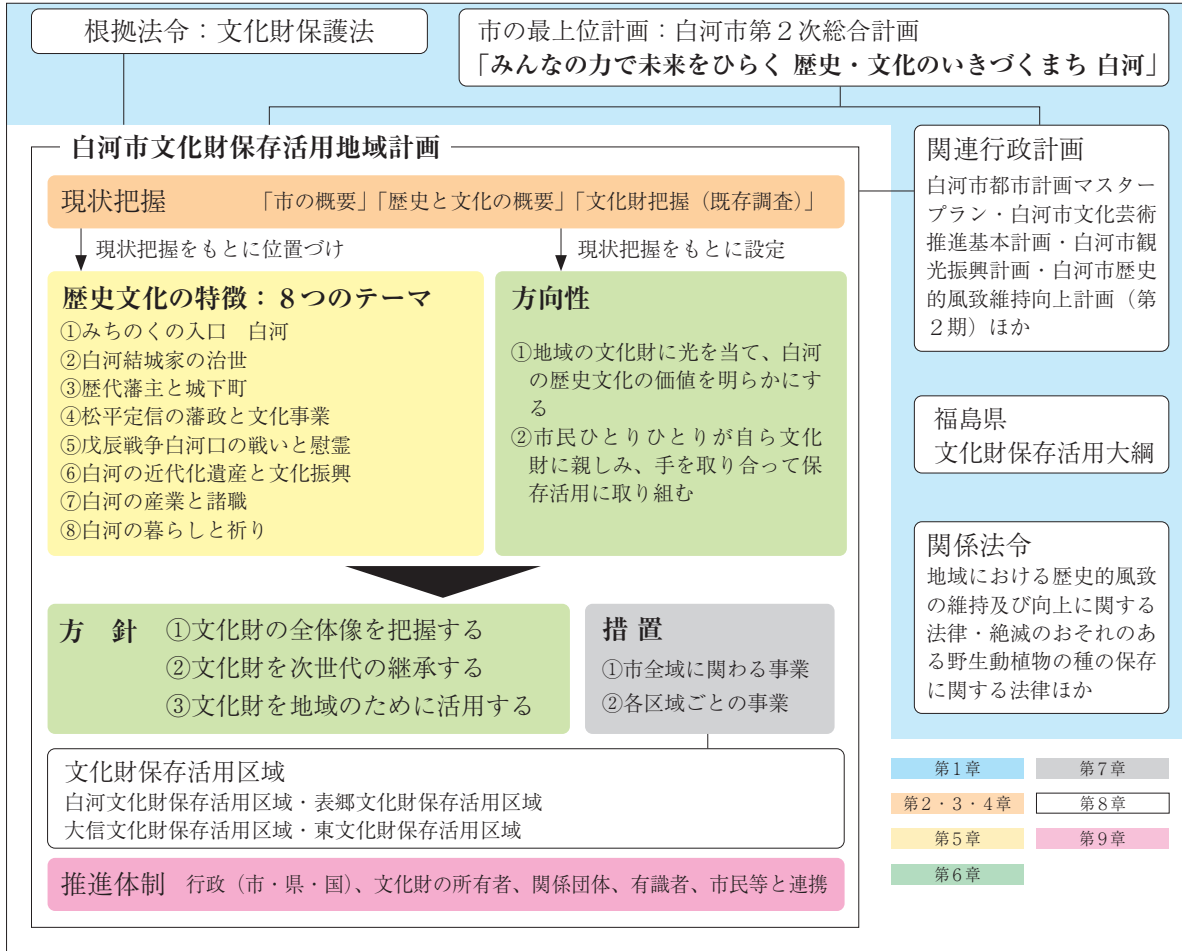
この他に、地域の歴史文化が生み出した以下のような事物があります。

- ⑨歴史上の人物伝記
- ⑩口頭などによる伝承
- ⑪その他、地域の歴史的・文化的所産（地名など）

上記①～⑪を広く包含したものを、本計画における「文化財」と位置づけることとします。



本計画の体系



本計画の体系

第2章 市の概要

1 自然・地理的環境

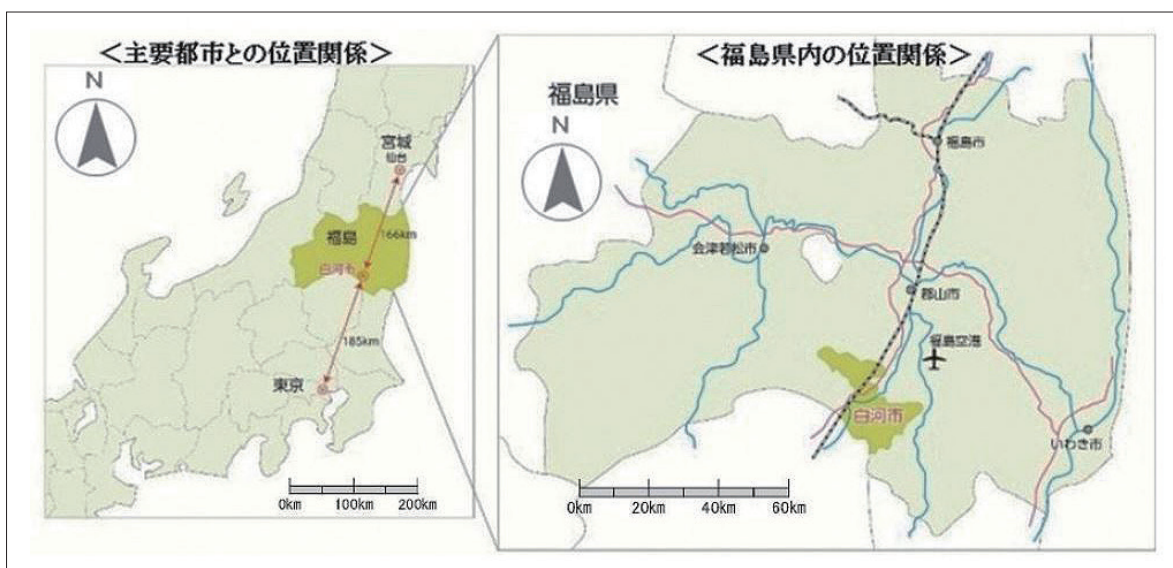
(1) 位置

白河市は、福島県の中央部南端に位置し、東は矢吹町・泉崎村・中島村・石川町・浅川町、西は西郷村、北は天栄村、南は棚倉町・栃木県那須町に接しています。市の中心部から福島市まで約90km、郡山市まで約40kmの距離にあります。また、東京までは約185kmで、新幹線で約1時間20分の距離にあります。

現在の市域は、平成17年（2005）に合併した白河地域（旧白河市）、表郷地域（旧表郷村）、大信地域（旧大信村）、東地域（旧東村）の4地域で構成されており、白河地域以外の3地域には庁舎が置かれています。東西は約30km、南北は約30kmにわたります。



白河市周辺の自治体



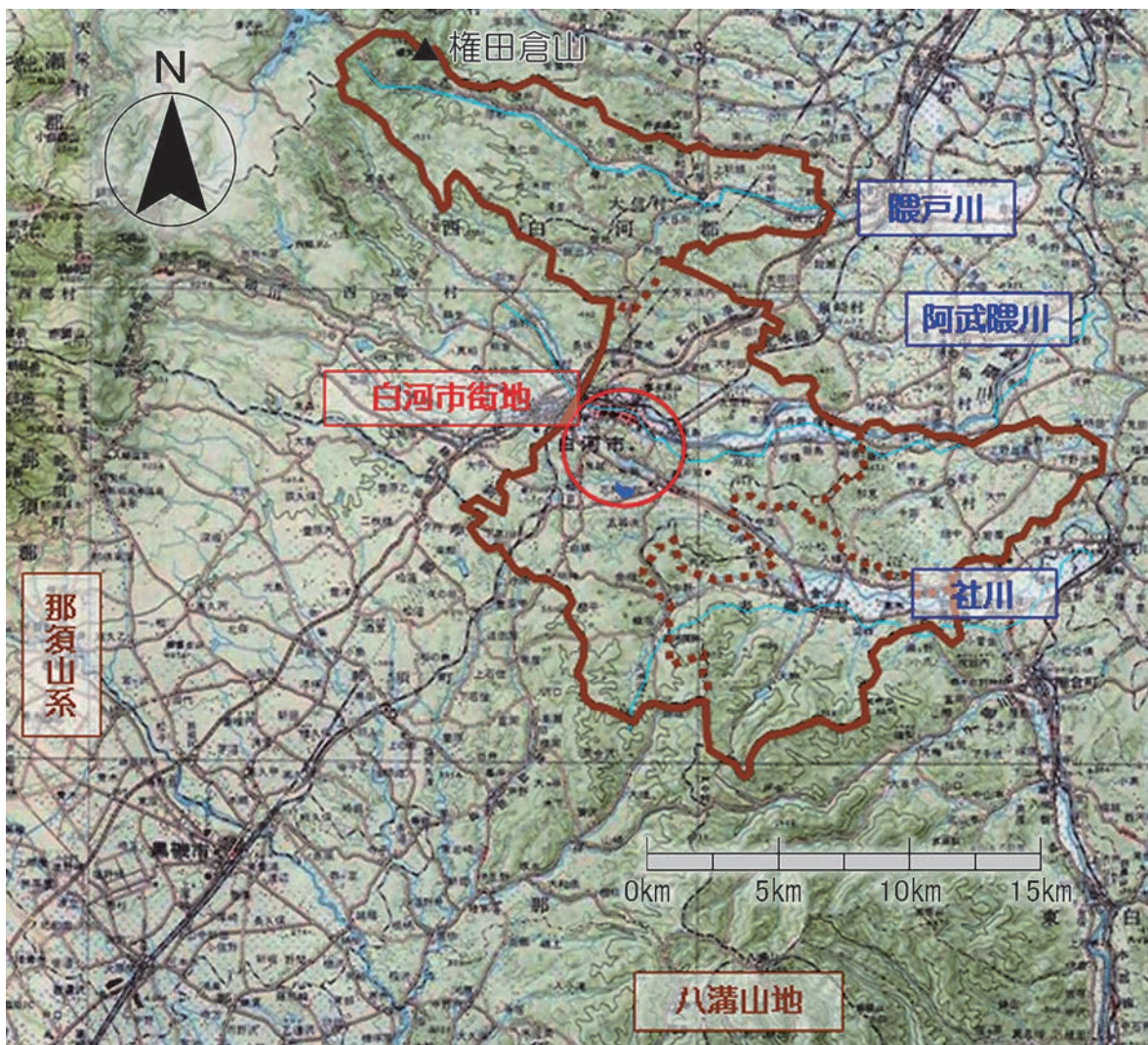
白河市の位置

(2) 地形・地質

本市の面積は305.32km²で、田園風景が広がる海拔300～400mの平地と400～600mの丘陵・山岳地帯で大部分が形成されており、最も高いのは大信地域西北端にある権太倉山の976.3mです。

西に那須山系、南には八溝山地が連なり、1級河川には市内中央を東西に流れる阿武隈川、南部を流れる社川、北部を流れる隈戸川などがあります。これらの山林や河川に囲まれた標高300～1,000mにある高原地帯で、阿武隈川の源として那須山系が蓄えた清冽な水が豊富な地域です。

市街地は、阿武隈川の河川流域を中心に形成されています。また、市域北東部の流域には広大な農地が広がっています。



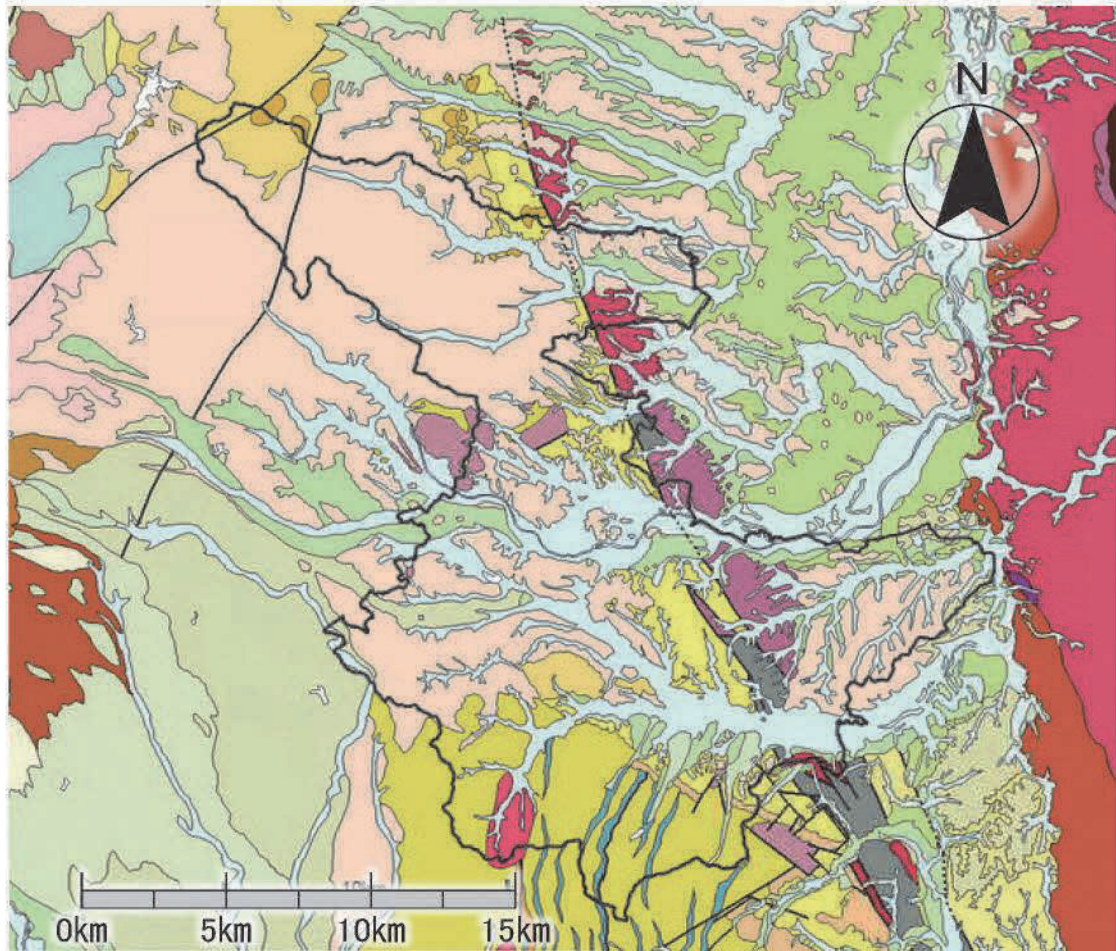
白河市の地形

本市の地質は、もっとも古い時代のものは、約2億年前の中生代ジュラ紀までさかのぼり、この時代を示す砂岩やチャートなどの堆積岩とそれに貫入する中生代白亜紀（約6,500万年前）の花崗岩が市の南方に広がる八溝山地を中心とした地域に分布しています（八溝層群）。

市北部を中心とした地域には、海底の火山活動によって形成された新第三紀中新世（約1,600万年前）のグリーンタフ（緑色凝灰岩）からなる小田川層が分布しています。

第三紀末には隆起がはじまり、第四紀に入ると隆起部での火山活動が激しくなりました（約160～140万年前）。市北部を中心とした地域には、那須山系の^{ふたまたやま}二岐山付近を中心にした噴火の火砕流堆積物から成る^{せきえいあんざんがんしつようけつぎょうかいがん}石英安山岩質溶結凝灰岩が分布しています（白河層）。この凝灰岩は「^{しらかわいし}白河石」と呼ばれ、古くは古墳の石室に用いられ、小峰城の石垣、灯籠や墓石などの石造物の材料として、市内各地で利用されています。

更新世の半ば（約70万年前）からは、阿武隈川とその支流の浸食とその後の砂礫の堆積により、河岸段丘が形成されました。現在、この段丘面が住宅地や農地として利用されています。



【凡例】

| | | | |
|-----------------|--|------------|---|
| J24-K11_sx_J3 | 中生代 中期ジュラ紀 カロビアン期～前期白亜紀バレミアン期 混在岩 後期ジュラ紀-前期白亜紀付加体 | N1_vas_al | 新生代 第三紀 中新世 バーディガリアン期～前期ランギアン期前期 デイサイト・流紋岩 大規模火砕流 |
| J24-K11_soss_J3 | 中生代 中期ジュラ紀 カロビアン期～前期白亜紀バレミアン期 海成層 砂岩 後期ジュラ紀-前期白亜紀付加体 | N1_sbc | 新生代 第三紀 中新世 バーディガリアン期～前期ランギアン期前期 汽水成層ないし海成・非海成混合層 礫岩 |
| J24-K11_som_J3 | 中生代 中期ジュラ紀 カロビアン期～前期白亜紀バレミアン期 海成層 泥岩 後期ジュラ紀-前期白亜紀付加体 | Q12_vas_ap | 新生代 第四紀 更新世 カラブリアン期 デイサイト・流紋岩 大規模火砕流 |
| K12_pim_a | 中生代 前期白亜紀 ワブチアン期～アルビアン期 花崗閃緑岩・トーナル岩 塊状 島孤・大陸 | Q31_std | 新生代 第四紀 後期更新世前期 段丘堆積物 |
| K12_pin_a | 中生代 前期白亜紀 アプチアン期～アルビアン期 花崗閃緑岩・トーナル岩 片麻状 島孤・大陸 | Q32_33_std | 新生代 第四紀 後期更新世中期～後期更新世後期 段丘堆積物 |
| K22_pam_a | 中生代 後期白亜紀 カンパニアン期～マーストリヒチアン期 花崗岩 塊状 島孤・大陸 | Q33-H_sfd | 新生代 第四紀 後期更新世後期～完新世 扇状地・崖錐堆積物 |
| K22_pim_a | 中生代 後期白亜紀 カンパニアン期～マーストリヒチアン期 花崗閃緑岩・トーナル岩 塊状 島孤・大陸 | H_sad | 新生代 第四紀 完新世 谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物 |
| N1_sbs | 新生代 第三紀 中新世 バーディガリアン期～前期ランギアン期前期 汽水成層ないし海成・非海成混合層 砂岩、砂岩泥岩互層ないし砂岩・泥岩 | Q2_V_ad | 新生代 第四紀 中期完新世 火山岩 岩屑なだれ堆積物 |
| N1_vis_al | 新生代 第三紀 中新世 バーディガリアン期～前期ランギアン期前期 安山岩・玄武岩貫安山岩溶岩・火砕岩 | | |

(資料: 国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質図Navi)

白河市の地質

(3) 気象

本市の気候は、夏は涼しく、冬は季節風の影響で寒さは厳しいですが、積雪量は多くありません。

平成22年から令和元年（2019）までの期間における統計では、年間平均気温は12.1℃、最高気温は平成27年8月の35.9℃、最低気温は平成30年1月の-10.3℃であり、年間平均降水量は1,462mmとなっています。

また、過去5年間（2015～19）における月別の気象では、8月の平均気温が最も高く23.9℃、1月の平均気温が最も低く0.8℃であり、降水量が最も多いのは10月の214.2mm、次いで9月の211.0mmとなっています。



平均気温及び降水量（2015～2019年）

2 社会的環境

(1) 白河市の変遷

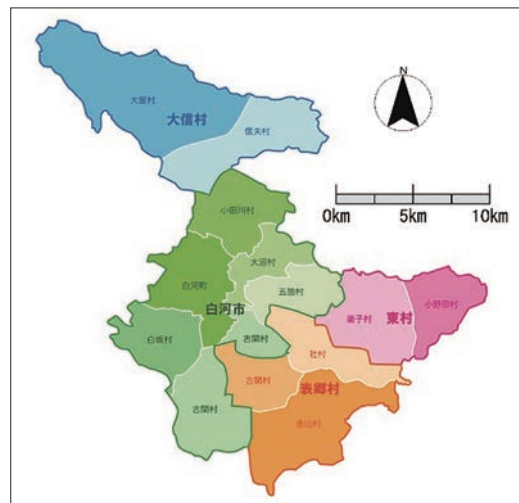
明治22年（1889）4月に、町村制施行により「白河町」（当時の町の人口は約1万1千人）が成立しました。同時に表郷地域には金山村・社村・古関村が、大信地域には信夫村・大屋村が、東地域には小野田村・釜子村がそれぞれ合併により誕生しました。

昭和24年（1949）4月、白河町は大沼村と合併して市制を施行、のちに白坂村・小田川村と合併し、昭和30年の3月に五箇村、8月に表郷村の一部を編入して旧白河市の枠組みができました。

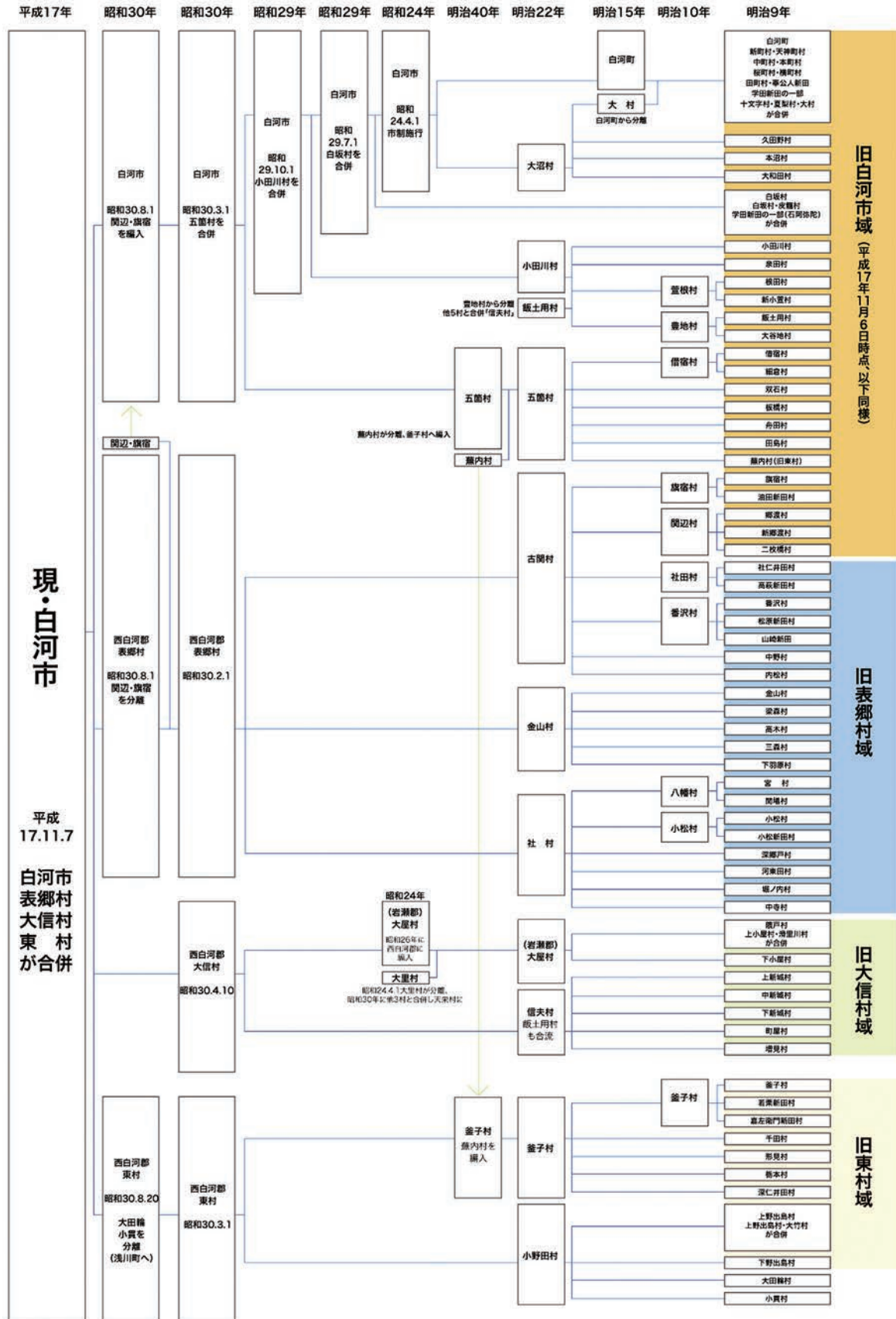
また、同年に表郷地域で金山村・社村・古関村の3村が合併して「表郷村」が、大信地域では信夫村・大屋村の2村が合併し「大信村」が、東地域では小野田村・釜子村の2村が合併し「東村」が、それぞれ成立しました。

昭和44年（1969）には、白河市・表郷村・大信村・東村を含む西白河郡の1市1町6村が県内で初めて「広域市町村圏」の指定を受け、翌45年には東白川郡の3町1村を加え、県南地方の均衡ある発展を目指しました。

そして平成17年11月7日、白河市・表郷村・大信村・東村が合併し、新たな「白河市」が誕生しました。（以下、旧表郷・大信・東村域を「地域」、それ以前の旧村域を「地区」と呼称する）



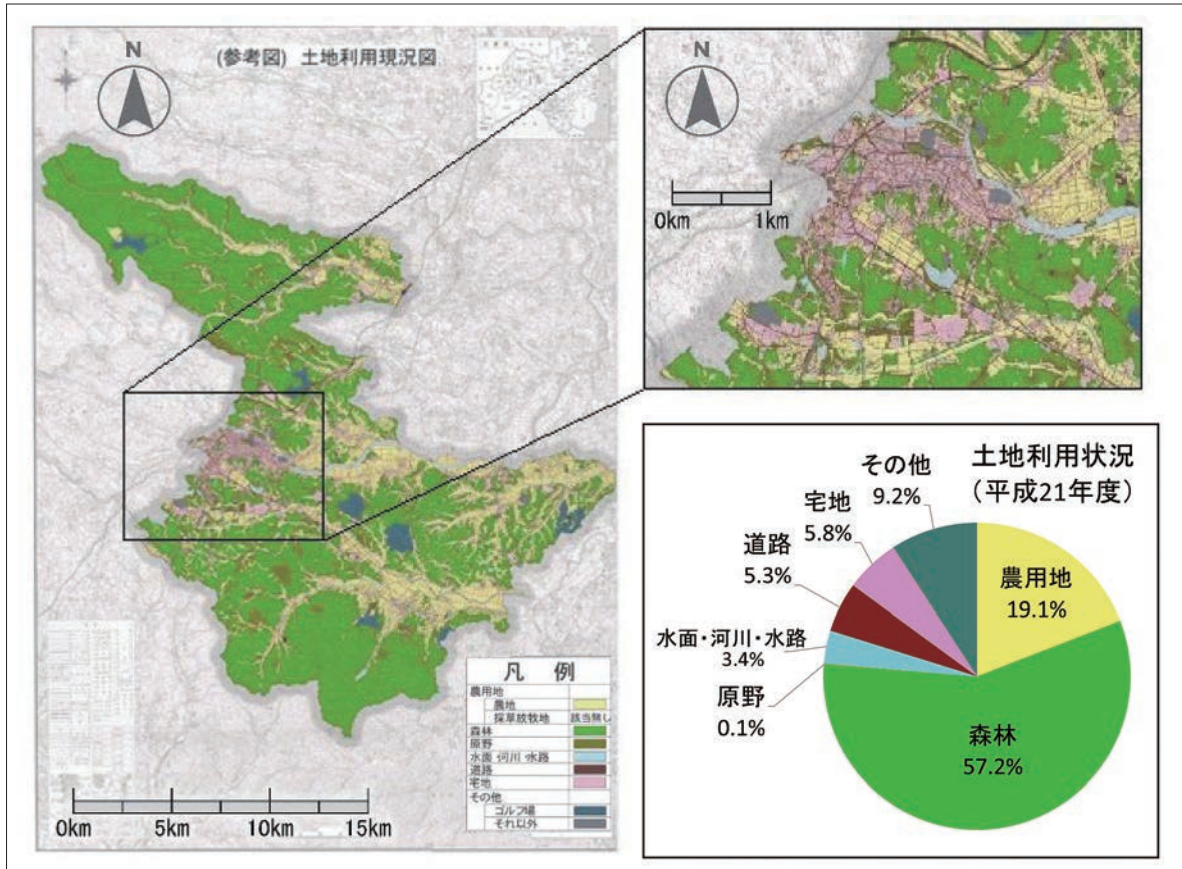
白河市域の旧行政区



市町村合併の経緯

(2) 土地利用

本市域の土地利用状況は、森林が57.2%、農地は19.1%で、合わせて全体の4分の3以上を占めます。また、宅地の全体に占める割合は5.8%となっています。



白河市の土地利用状況

(3) 人口動態

平成27年の本市の人口は61,913人で、平成2年から平成27年までの期間における国勢調査結果によると、平成12年までは人口が増加傾向にありましたが、平成17年以降は減少に転じています。

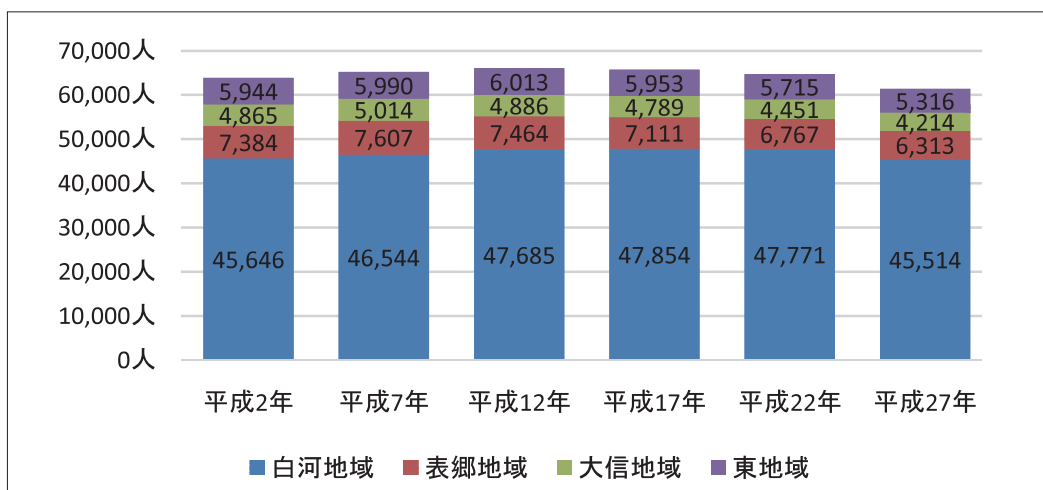
また、年齢別人口の推移については、0～14歳の年少人口と15～64歳の生産年齢人口が減少しているのに対し、65歳以上の老年人口が増加しており、少子高齢化の傾向が顕著に見られます。

「白河市人口ビジョン」（令和2年度）によれば、国の将来人口の推計仮定に準拠した場合の本市の将来人口は、令和42年には33,845人まで減少すると予想されています。また、同ビジョンにおいては、若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望の実現や、他地域への人口流出の抑制、首都圏在住者等の転入の促進等の各種施策により、令和42年（2060）に44,000人程度の人口を維持することを目指しています。

※参考値：令和3年4月1日時点での現住人口は58,878人（なお、令和2年度国勢調査の速報値では、59,531人）

白河市の人口推移（地域別）

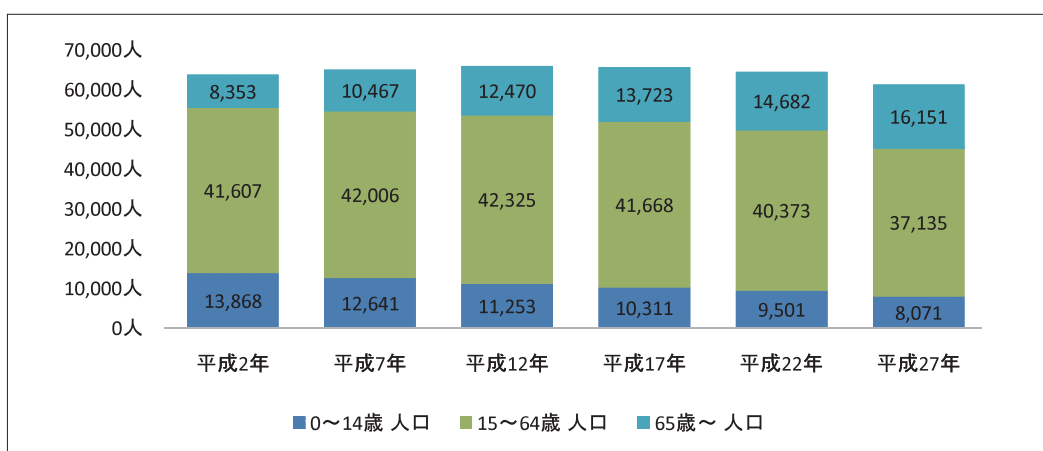
| | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 白河地域 | 45,646 | 46,544 | 47,685 | 47,854 | 47,771 | 54,514 |
| 表郷地域 | 7,384 | 7,607 | 7,464 | 7,111 | 6,767 | 6,313 |
| 大信地域 | 4,865 | 5,014 | 4,886 | 4,789 | 4,451 | 4,214 |
| 東地域 | 5,944 | 5,990 | 6,013 | 5,953 | 5,715 | 5,316 |
| 総人口 | 63,839 | 65,155 | 66,048 | 65,707 | 64,704 | 61,913 |



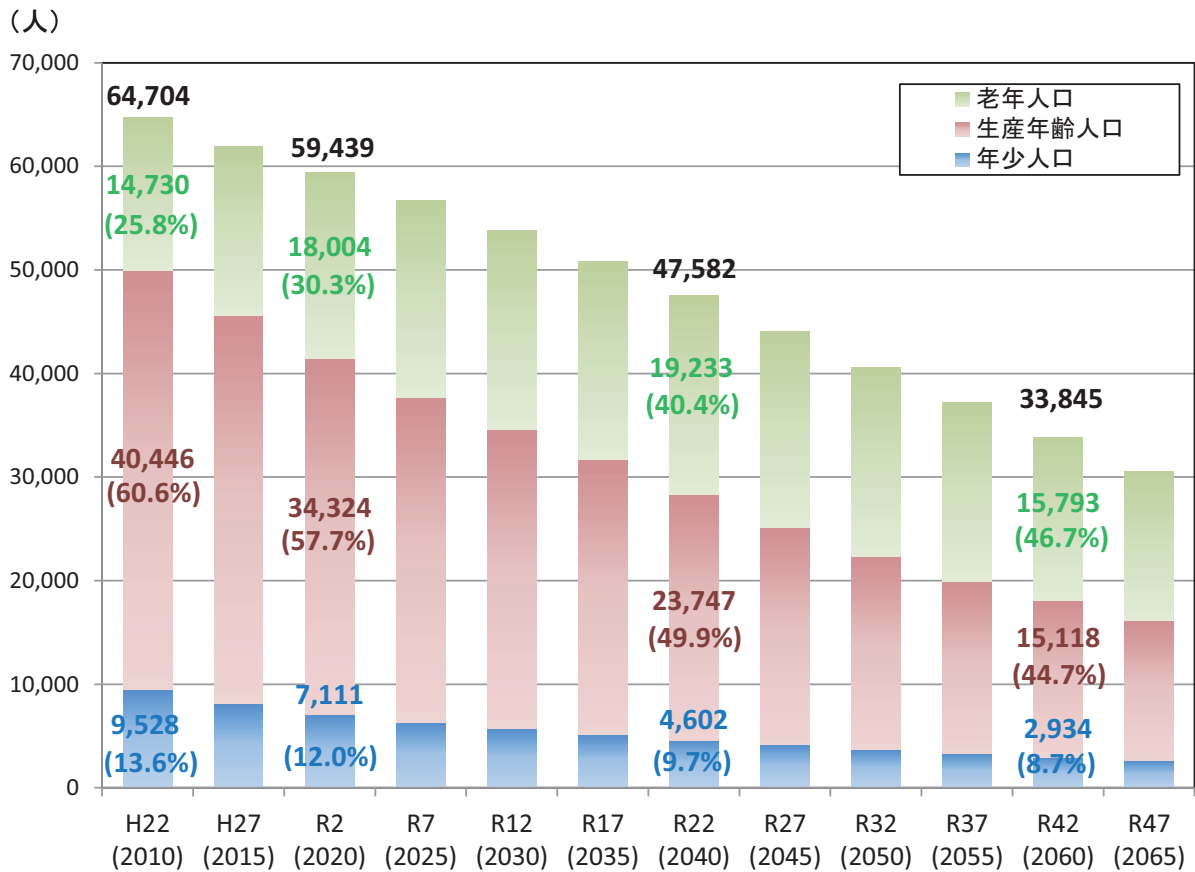
（単位：人）
資料：国勢調査

白河市の人口推移（年齢別）

| 年齢別 | | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 |
|--------|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 0～14歳 | 人口 | 13,868 | 12,641 | 11,253 | 10,311 | 9,501 | 8,071 |
| | 割合 | 21.7% | 19.4% | 17.0% | 15.7% | 14.7% | 13.0% |
| 15～64歳 | 人口 | 41,607 | 42,006 | 42,325 | 41,668 | 40,373 | 37,135 |
| | 割合 | 65.2% | 64.5% | 64.1% | 63.4% | 62.4% | 60.0% |
| 65歳～ | 人口 | 8,353 | 10,467 | 12,470 | 13,723 | 14,682 | 16,151 |
| | 割合 | 13.1% | 16.1% | 18.9% | 20.9% | 22.7% | 26.1% |
| 人口合計 | | 63,828 | 65,114 | 66,048 | 65,702 | 64,556 | 61,357 |



（単位：人）
資料：国勢調査



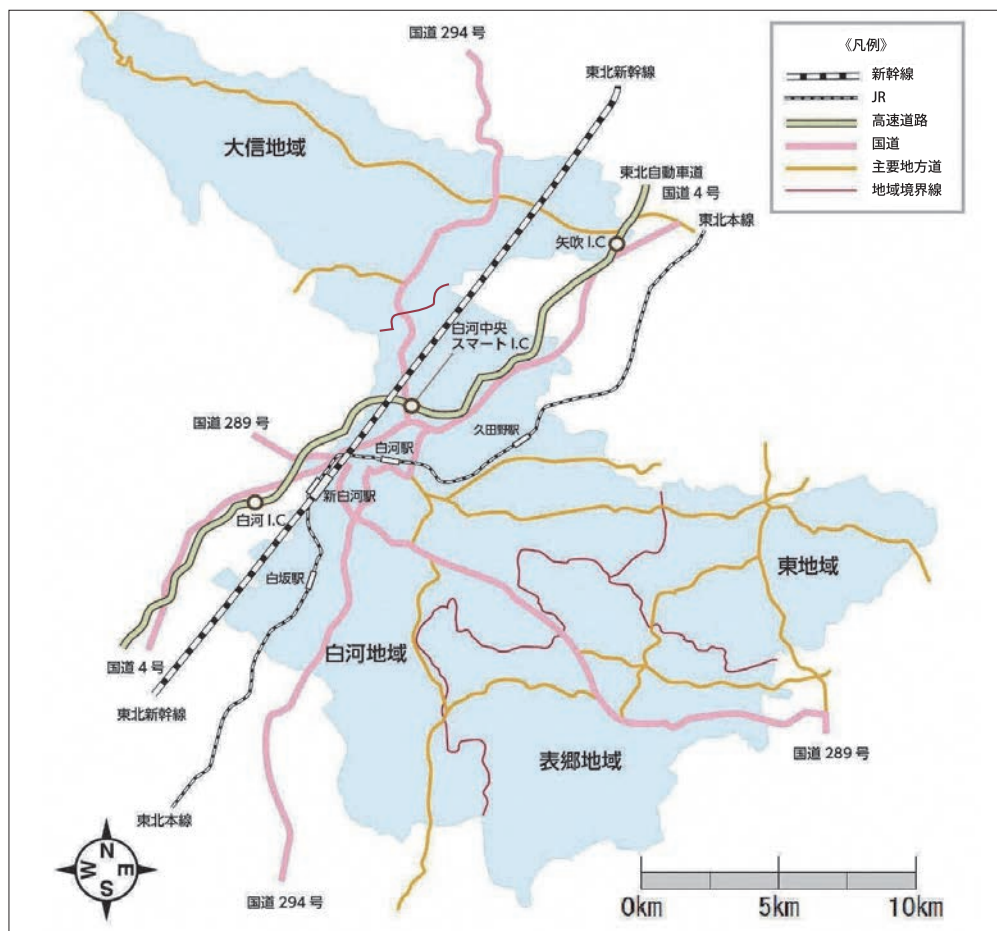
推計による市人口の長期的見通し（「白河市人口ビジョン」（令和2年度）より）

(4) 交通

主要な道路網は、国道294号（千葉県柏市～福島県会津若松市）及び国道4号（東京都中央区～青森県青森市）が縦断し、国道289号（新潟県新潟市～福島県いわき市）が横断しています。また、国道4号に沿うように東北自動車道が通っており、従来の白河ICに加え、平成21年に白河中央スマートICが開通したことで、市街地からのアクセスも向上しています。平成26年度より白河市街地を南北に縦断する国道294号白河バイパスの整備が始まり、開通後はさらなる利便性向上が見込まれます。

路線バスについては、福島交通・JRバス関東が、白河駅や新白河駅を中心として市内各所を結んでいるほか、市内循環バスなどのコミュニティバスが各地域で運行され、鉄道駅や医療施設、商業施設、公共施設などを結んでいます。

鉄道は、JR東北本線と東北新幹線が通り、市域には白河駅・白坂駅・久田野駅の計3駅があります。東北新幹線の新白河駅は西郷村にあり、市域と隣接しています。



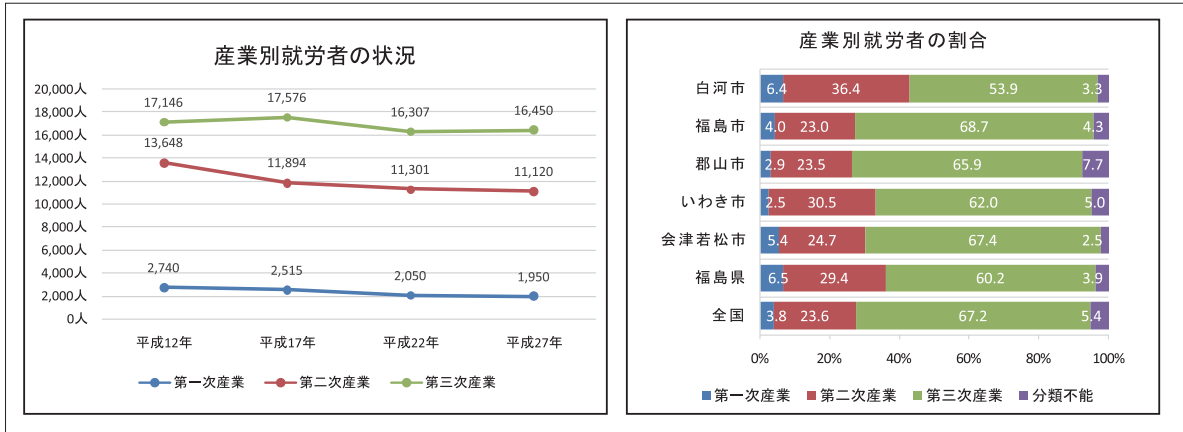
白河市の主要な道路・交通網

(5) 産 業

本市は、県内有数の製造品出荷額を誇る工業を基幹的産業として、農業、商業など多様な産業が展開されています。

産業別就労者の状況については、第1次産業・第2次産業の就労者数が減少傾向となっていました。平成22年から平成27年では下げ止まりの兆候が見られます。

産業別就労者の割合では、第2次産業が全体の3割以上を占め、全国平均や福島県平均を大きく上回っています。これは、白河・表郷・大信・東の各地域で工業団地が整備され、市内各所に立地する工場等が第2次産業の就業の場となっているためです。また、第1次産業についても、県平均には及ばないものの、県内の人口上位4都市（福島市・郡山市・いわき市・会津若松市）と比べると高い状況となっています。



産業別就労者の状況および割合

(6) 観光

本市は、「みちのくの玄関口」といったフレーズで知られ、白河関跡や南湖公園、小峰城跡に代表される歴史的・文化的資源と豊かな自然を有しています。また、白河提灯まつり（鹿嶋神社祭礼渡御祭）や白河だるま市（市神祭）などの祭礼・行事、白河そばや白河ラーメンなどの粉物食文化も継承されています。

平成21年から平成30年までの観光入込客数の推移を見ると、東日本大震災が発生した平成23年は大幅に減少したものの、平成25年から平成28年にかけて増加し、現在は震災前の水準を上回って推移しています。

主要な観光地として、小峰城跡や南湖公園、白河関跡があり、多くの観光客が訪れています。小峰城跡は、国指定史跡であると同時に日本100名城に数えられ、全国的に知名度が高まっています。また、入込客数としては南湖公園が最も多く、本市の総入込客数の約4割を占めています。

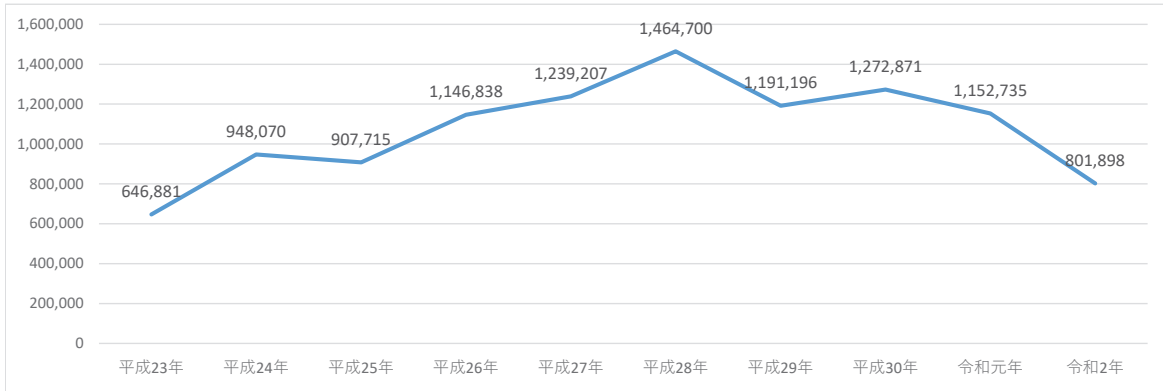
観光客の集まる催しとしては、隔年9月に開催される白河提灯まつりや、毎年2月11日に開催される白河だるま市といった祭礼・行事に加え、小峰城桜まつりなど季節やテーマに応じて様々なイベントが行われています。

観光入込客数は、近年はおおむね年間120万人前後で推移していますが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響等により、801,898人まで落ち込んでいます。（「福島県観光客入込状況」）

観光客入込数の推移

| 年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年 | 令和2年 |
|------|---------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|
| 入込客数 | 646,881 | 948,070 | 907,715 | 1,146,838 | 1,239,207 | 1,464,700 | 1,191,196 | 1,272,871 | 1,152,735 | 801,898 |

(単位：人)

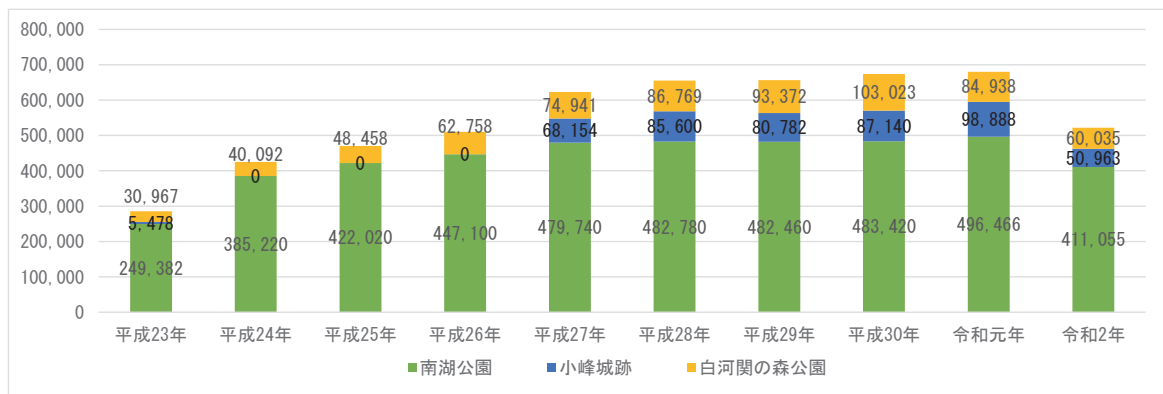


資料：福島県商工労働部観光交流局観光交流課「福島県観光客入込状況（令和2年）」

主要観光施設の入込客数

| 年 | 平成23年 | 平成24年 | 平成25年 | 平成26年 | 平成27年 | 平成28年 | 平成29年 | 平成30年 | 令和元年 | 令和2年 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 南湖公園 | 249,382 | 385,220 | 422,020 | 447,100 | 479,740 | 482,780 | 482,460 | 483,420 | 496,466 | 411,055 |
| 小峰城跡 | 5,478 | — | — | — | 68,154 | 85,600 | 80,782 | 87,140 | 98,888 | 50,963 |
| 白河関の森公園 | 30,967 | 40,092 | 48,458 | 62,758 | 74,941 | 86,769 | 93,372 | 103,023 | 84,938 | 60,035 |

(単位：人)



資料：福島県商工労働部観光交流局観光交流課「福島県観光客入込状況（令和2年）」

(6) 教育施設

本市には、15の市立小学校、8の市立中学校、3の県立高等学校があります（令和3年12月現在）。

社会教育施設としては、図書館・公民館・資料館等があります。

図書館は、白河・表郷・大信・東の各地域に1館ずつ所在しています。特に白河地域にある市立図書館では、貸会議室を利用した会議・講演会等のイベント、ロビーを利用した展示等が行われるなど、地域交流活動の拠点ともなっています。

公民館は、白河地域に中央公民館があるほか、表郷・大信・東の各地域に1館ずつ所在しています。生涯教育の拠点として、市民向けの講座や文化活動が行われています。

資料館は、白河地域に歴史民俗資料館・小峰城歴史館が、大信地域には中山義秀記念文学館・ふるさと文化伝承館があります。

歴史民俗資料館は、白河の歴史文化に関する展示施設です。小峰城歴史館は、史跡小峰城跡の歴史や関連する資料を展示・解説しています。中山義秀記念文学館は、大信地域出身の作家・中山義秀に関する展示施設です。ふるさと文化伝承館は、大信地域の民具などが展示されています。

小峰城歴史館や中山義秀記念文学館では、定期的に企画展・特別企画展等も開催されています。また、これらの施設では市が所有・管理する文化財の保管施設としても機能しています。

(7) 文化施設等

マイタウン白河は、チャレンジショップや専門学校、貸会議室等があり、幅広い市民活動をサポートする地域の拠点施設として利用されています。このほか市内の文化施設として、白河文化交流館コミネス、東文化センターなどの文化ホールがあり、演劇・コンサートなどの公演が行われています。

旧脇本陣柳屋旅館蔵座敷きゅうわきほんじんやなぎ やりよかんくら ざしきは、白河地域の本町にある江戸時代の座敷蔵で、室内を貸しスペースとし、文化活動の拠点として利用されています。また、南湖公園近くに設置されている翠楽苑すいらくえんは、日本庭園と茶道文化の体験施設です。

第3章 白河の歴史と文化財の概要

1 白河の歴史

(1) 原始・古代（旧石器時代～平安時代）

原始時代の白河

市内において最も古い人類の痕跡として、後期旧石器時代のおよそ2万5千年前の遺跡が確認されています。縄文時代の遺跡は数多く確認されており、地理的な特性から、東北・関東・北陸地方の文化が混在した状況を示すことが大きな特徴といえます。

また、久田野地区の天王山遺跡は、東北地方南部における弥生時代後期の代表的な遺跡と位置づけられます。

古代白河の行政区域と支配者層

五箇地区には、古墳時代の白河国造に関わると想定される古墳や居館跡が確認されており、ここに支配者層の本拠が置かれたと考えられています。

古代律令制下では、陸奥国南端の行政区域として、白河郡が置かれました。郡の範囲は、現在の白河市、西白河郡（西郷村、矢吹町、泉崎村、中島村）、東白川郡（棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村）、石川郡（石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町）と茨城県大子町をあわせた非常に広大な地域にわたり、陸奥国唯一の大郡でした。郡の中心施設である郡衙（郡家）は泉崎村関和久の地に置かれ、郡の寺院は五箇地区の借宿庵に建立されました。

白河関の成立

古代東山道の下野国と陸奥国の国境に、人々や物資の往来を取り締まる検問所として設けられたのが「白河関」です。こうした郡衙や関の機能は、律令制の衰退とともにいつしか失われ、10世紀の後半頃には廃絶したと考えられています。

以後、白河関は歌枕となり、時代を超えて多くの文化人の憧憬の地として、和歌や俳句、紀行文など、さまざまな作品に詠まれました。白河は、みちのくの入口として人々の旅情を誘う地として知られるようになりました。



天王山遺跡出土品



古代の遺跡群（航空写真、西から東を見る）

原始～古代の主な文化財

| 指定等区分 | 種別 | 名称 | 概要 |
|-------|-------------|------------------|--|
| 国指定 | 史跡 | 白河関跡 | 下野国と陸奥国の国境に設けられた関跡で、10世紀の後半頃には廃絶したと考えられます。その後みちのくを象徴する歌枕となり、多くの文化人が訪れ、また文学作品の題材となりました。江戸時代に松平定信が関跡の場所について考証を行い、現在地が昭和30年代の発掘調査をへて国史跡に指定されました。 |
| 国指定 | 史跡 | 白河舟田・本沼遺跡群 | 古墳時代の支配者層のものとみられる古墳及び居館跡です。下総塚古墳・舟田中道遺跡・谷地久保古墳・野地久保古墳からなります。 |
| 国指定 | 史跡 | 白河官衙遺跡群（借宿廃寺跡） | 古代白河群衙（遺跡は泉崎村関和久所在）に付属する寺院跡で、東北地方で唯一法隆寺式伽藍配置を有することが確認されるほか、瓦や埴仏などの遺物も発見されています。 |
| 国指定 | 史跡 | 天王山遺跡 | 久田野地区の丘陵上に位置する弥生時代の遺跡で、昭和25年に発掘調査が行われました。東北地方南部を代表する弥生時代後期の遺跡として、令和3年10月に国史跡に指定されました。出土した土器は「天王山式土器」として、東北地方南部における弥生時代後期土器編年の基準資料となっています（出土品の一部は県指定重要文化財）。 |
| 市指定 | 重要文化財（考古資料） | 町屋遺跡出土縄文土器・硬玉製大珠 | 大信地域の町屋遺跡から出土した縄文時代中期の土器には、東北地方や北陸地方の特徴がみられます。また、硬玉（翡翠）製の硬玉大珠は、新潟県糸魚川地域で産出されたものと考えられます。 |

(2) 中世（鎌倉時代～戦国時代）

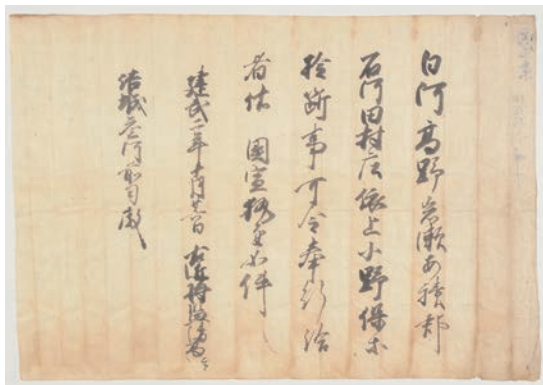
白河結城家の成立とその治世

下総国結城郡（茨城県結城市）を本拠とする結城朝光は、文治5年（1189）の奥州合戦において戦功をあげ、源頼朝より白河荘を賜ったとされます。朝光は、鎌倉幕府の評定衆を務めるなど有力な御家人でしたが、白河には赴任せず、代官を白河に置いたと考えられます。

白河結城家の祖とされる祐広（朝光の孫）は、13世紀後半に白河に下向したと伝えられます。祐広の子宗広は、後醍醐天皇の命に従い、新田義貞らと鎌倉幕府を討って天皇の信頼を得ました。宗広は結城宗家の惣領に命じられ、のちに天皇から「公家（天皇家）の宝」と賞賛されました。

南北朝が争う時勢において宗広は南朝の後醍醐天皇に味方しましたが、子の親朝は足利尊氏ら北朝勢力が伸長する中、北朝方への転身を図り、家の存続に腐心しました。室町時代における白河結城家は、奥州南部から北関東の広い地域を勢力圏とし、南奥の雄として政治・文化の両面でさまざまな足跡を残しました。

その後、永正7年（1510）に起こった一族の内乱（永正の変）を契機とし、白河結城家はその影響力を徐々に失うこととなります。



陸奥国宣案（白河結城家文書より）



白川城跡（主郭部分）

中世の主な文化財

| 指定等区分 | 種別 | 名称 | 概要 |
|-------|----------------|----------|--|
| 国指定 | 重要文化財 (古文書) | 白河結城家文書 | 白河結城家の子孫のうち秋田藩に仕えた家に伝来した古文書90通です。白河結城家の文書は全国に分散していますが、本文書群は特に南北朝時代の宗広・親朝父子の活動や関東・奥州の情勢を知るための資料として貴重です。 |
| 国指定 | 史跡 | 小峰城跡 | 興国・正平年間（1340～69）頃に結城親朝が築いたと伝わります。近世初期、初代白河藩主丹羽長重によって改修を受ける前は、平陽・土塁・堀などで構成される城館であったと考えられています。 |
| 国指定 | 史跡 | 白川城跡 | 白河結城家の本拠として、結城宗広・親朝が活躍した元弘・建武年間（1331～37）頃に築かれたとされます。城の縄張りはいくつかの丘陵にまたがっており、東西2km、南北500～600mにわたる、市内でも最大規模の山城跡です。 |
| 県指定 | 重要文化財 (彫刻) | 木造釈迦如来坐像 | 南北朝時代の仏像で、鎌倉地域に特有の「土紋」の技法が用いられています。鎌倉に影響を持っていた白河結城家が制作に関わっていると考えられます。 |
| 県指定 | 重要文化財 (工芸) | 旧最勝寺銅鐘 | 結城家当主義綱および晴綱により、白河鎮守鹿嶋神社に奉納された銅鐘です。 |

(3) 近世（安土桃山時代～江戸時代）

奥羽仕置と白河結城家の改易

天正18年（1590）、豊臣秀吉とよとみひでよしによる奥羽仕置で改易となったことで、白河結城家の支配は幕を閉じ、白河は会津領の一部となりました。

丹羽長重の小峰城改修と歴代白河藩主

寛永4年（1627）、白河藩が10万700石で成立し、初代白河藩主となったのが丹羽長重にわながしげです。

長重は、入封後寛永6年から約4年の歳月をかけて小峰城の大改修を行い、寛永9年

(1632) にほぼ完成しました。これにより小峰城は、東北地方にはまれな石垣を多用した強固な近世城郭となりました。同時に阿武隈川あぶくまの付け替え工事をともなう城下町の都市計画が行われ、武家屋敷・町家・寺社などが立ち並ぶ城下町として発展しました。現在にいたる中心市街地の基礎は、江戸時代初期に固められました。

長重の子光重みつしげの代で二本松に転封されてからは、譜代・親藩の大名が相次いで藩主に封じられました。白河藩では、丹羽さかきばら・榊原ほんだ・本多まつだいら・松平おくだいら（奥平）・松平（結城）・松平ひさまつ（久松）・阿部あべの7家21代の大名が藩主を務めました。

松平定信の藩政と文化事業

歴代藩主の中で白河に大きな足跡を残したのは松平定信まつだいらさだのぶです。定信は、幕府老中として「寛政の改革」を行い、幕政の立て直しに尽力したことで知られますが、藩政においてもさまざまな改革を行っています。その内容は、財政再建、家臣への武芸奨励、藩校や郷学所の設置による人材育成、荒廃した農村の復興、織物や陶器など諸産業の育成、江戸時代初期から続いていたと伝えられる馬産（馬市）の奨励など、多岐にわたります。

文化事業では、著名な白河関の場所が長い間不明となっていたのを、調査研究により考証したほか、『白河風土記』しらかわふどき 『白河古事考』しらかわこじこう など、白河の地誌・歴史書を編纂させるなどの成果を残しています。

また、当代有数の文化人でもある定信は、多くの書画作品を残したほか、多数の絵師を発掘・育成するなど、城下町の文化振興に重要な役割を果たしています。さらに庭園づくり、茶の湯、著作など、多岐にわたる文化的業績を残しています。

幕末の白河と戊辰戦争白河口の戦い

文政6年（1823）、松平（久松）家に代わり阿部家が白河に入り、幕末まで白河藩主を務めることとなります。幕末の藩主である阿部正外あべまさとうは幕府老中を務めますが、国内外の厳しい情勢の中で失脚し、隣領である棚倉への転封を命じられました。以後、白河には新たな藩主が着任しないまま戊辰戦争を迎えます。交通の要衝である白河は奥羽越列藩同盟軍おううえつれつばんどうめいと新政府軍の争奪の対象となり、約100日間にわたり戦闘が繰り返されました（白河口の戦い）。死傷者は両軍合わせて1,000人を超えたとされます。



小峰城跡



丹羽長重廟

近世の主な文化財

| 指定等区分 | 種別 | 名称 | 概要 |
|-------|-------------|----------|--|
| 国指定 | 史跡及び名勝 | 南湖公園 | 白河藩主松平定信により築られました。一般的な大名庭園と異なり、塀や柵を設けず、いつでも誰でもが利用できる場所として解放された南湖は、近代的公園の先駆ともいわれます。 |
| 国指定 | 史跡 | 小峰城跡 | 興国・正平年間（1340～69）頃に結城親朝が築いたと伝わります。その後、江戸時代に初代白河藩主丹羽長重により石垣を多用した近世城郭へ改修され、以後歴代藩主の居城となりました。 |
| 県指定 | 重要文化財（建造物） | 松風亭蘿月庵 | 松平定信の家臣三輪権右衛門が父のために建てた茶室で、定信も訪れたと伝えられます。現在は南湖神社境内に移築されています。 |
| 県指定 | 重要文化財（歴史資料） | 白河城御櫓絵図 | 松平定信時代に作られた、小峰城内の門や櫓などの立面および平面の実測図面集です。 |
| 市指定 | 重要文化財（絵画） | 絹本著色仏涅槃図 | 松平定信の御付絵師で江戸画壇の重鎮である谷文晁が白河城下に残した仏画作品です。 |
| 市指定 | 史跡 | 白河藩大名家墓所 | 初代白河藩主丹羽長重をはじめとする大名家の墓4基があります。 |
| 未指定 | 歴史資料 | 戊辰戦争石碑群 | 戊辰戦争白河口の戦いにおける戦死者の慰霊碑・供養碑で、市内各所に200基以上の石碑が現存しています。 |

(4) 近現代（明治時代～）

白河の近代化と産業・文化

明治2年（1869）8月、白河県が発足しましたが、同4年には二本松県に吸収合併され、直後に福島県となりました。のち明治22年4月には、町村制施行により「白河町」が成立しました。役所や駅などの公共施設を中心に、洋風建築が建てられました。

交通路も近代化が進められました。明治20年7月16日、黒磯^{くろいそ}－郡山^{こおりやま}間に鉄道が開通し、上野^{うえの}と白河が約6時間半で結ばれました。大正5年（1916）には白河^{たなぐら}と棚倉^{はくほう}を結ぶ「白棚鉄道」が開通し、石川町^{いわき}までを結ぶ磐城鉄道も計画・建設されたほか（未開通）、国道4号などの道路も整備されていきます。

産業分野では、製糸業をはじめとする各種産業が発展し、銀行などを営む有力な資本家も出ましたが、昭和恐慌により多くが不況のあおりを受けました。

また、近代の白河では、江戸時代までに培われた文化的素養や資本家の支援などを背景とし、美術や文芸活動が盛んとなりました。

白河市の誕生

昭和24年（1949）4月、白河町は^{おおぬま}大沼村と合併して市制を施行、のちに^{しらすか}白坂村・^{こたがわ}小田川村と合併し、同30年の3月に^{ごか}五箇村、8月に^{おもてごう}表郷村の一部を編入して旧白河市の枠組みが形作られました。そして平成17年（2005）11月7日、白河市・^{たいしん}表郷村・^{ひがし}大信村・東村が合併し、新たな「白河市」が誕生しました。



白河ハリストス正教会



旧西白河郡役所

近現代の主な文化財

| 指定等区分 | 種別 | 名称 | 概要 |
|-------|----------------|-------------------------|---|
| 県指定 | 重要文化財 (建造物) | 白河ハリストス正教会聖堂 | 大正4年（1915）に完成したハリストス正教会の聖堂で、ビザンチン様式の影響がみられます。建築費は、地元白河の信徒を中心に集められ、地元大工により建てられました。 |
| 県指定 | 重要文化財 (絵画) | 白河ハリストス正教会のイコン（附）行進用十字架 | ハリストス正教会聖堂内に50点のイコンが現存しており、茨城県出身のイコン画家・山下りんによる作品も含まれています。 |
| 市指定 | 重要文化財 (絵画) | 老夫妻像（関根正二） | 白河出身の洋画家・関根正二が白河滞在中に地元の夫妻を描いたと考えられるデッサン画です。 |
| 未指定 | 建造物 | 旧西白河郡役所 | 明治16年（1883）に西白河郡役所として建てられたもので、その玄関部分を含む一部が南湖公園に移築されています。現在は商業施設として活用されています。 |
| 未指定 | 建造物 | 白河駅舎 | 白河駅は明治20年に開業しました。現存の駅舎は2代目で、大正10年より利用されています。 |

2 各地域の歴史

(1) 白河地域

白河地域は、古代から近現代の各時代を通じて役所や城が置かれ、周辺地域の中心として機能しました。その歴史の変遷は、おおむね上記の内容と重なります。

(2) 表郷・大信・東地域の歴史

旧3村（表郷・大信・東地域）は、古代白河郡、中世の白河荘、近世初期の白河藩領内に含まれ、広義の白河地域として発展していましたが、江戸時代中期の寛保元年（1741）に松平（久松）家が藩主となった際、表郷・東の全域および大信地域東部は他藩領や幕府領となりました。以後、平成17年に1市3村が合併して現在の白河市が誕生するまで、それぞれ別の行政区域としての歴史をたどりしました。

表郷地域

表郷地域は、本市と南東の棚倉町を結ぶ街道沿いにあり、古代の祭祀にかかわる建鉾山祭祀遺跡・三森遺跡や、人面付弥生土器が出土した滝ノ森B遺跡など、重要な遺跡があります。中世には、源翁和尚により常在院が開かれ、那須野が原の殺生石に関する伝説や美術品も伝えられています。江戸時代前半は白河藩領でしたが、寛保元年（1741）の白河藩の領主交代でほぼ全域が越後高田藩の飛領となりました。幕末には戊辰戦争のさなか、新政府軍が白河から南東方向の棚倉へ進撃する際、街道筋にあたる表郷地域は戦場となりました。

大信地域

大信地域では、町屋地区の町屋遺跡から東北地方や北陸地方の縄文土器、新潟県糸魚川産の翡翠、栃木県高原山産の黒曜石などが出土しており、この地に早くから集落が存在したことが、東北・関東・北陸との交流が行われていたことが分かります。

中世に白河結城家が白河の阿武隈川流域を治めるようになると、大信の増見や下小屋などの各地区は結城家の一族によってそれぞれ治められました。のちに白河結城家が勢力を拡大すると、一帯を白河結城家のみで治めるようになりました。

また、江戸時代の前半期は大信地域の全域が白河藩領内でしたが、寛保元年（1741）以降は、東半分が越後高田藩領となりました。

戊辰戦争においては、白河から会津若松へ通じる会津街道がこの地域を通過していたため、奥羽越列藩同盟軍の最前線として仙台藩や会津藩など各藩の本営が置かれ、領民は兵糧や労働力の提供を要請されました。

東地域

東地域は、石川街道と水戸街道の交わる場所にあたり、原始から古代にかけての遺跡が確認されているほか、平安時代の仏像や中世の懸仏^{かけぼつけ}が残るなど、古くから連綿と集落が営まれてきたことをうかがわせます。

江戸時代においては、寛保元年（1741）以降越後高田藩領となり、浅川陣屋^{あさかわ}（浅川町）の支配を受けていましたが、のち文化6年（1809）に浅川が幕領となったため、陣屋は東地域の釜子^{かまこ}に移されました。

戊辰戦争では遠隔地にあった本領高田藩との意思疎通が図れず、高田藩は新政府に恭順していたにもかかわらず、陣屋の高田藩士たちは周辺の藩と連携を取り奥羽越列藩同盟に参加することとなり、戦死者も出ました。



源翁和尚行状縁起絵巻（部分、常在院蔵）



日吉神社

表郷・大信・東地域の主な文化財

| 指定等区分 | 種別 | 名称 | 概要 |
|-------|-------------|------------|--|
| 県指定 | 重要文化財（絵画） | 源翁和尚行状縁起絵巻 | 表郷地域に所在する常在院を開いた源翁和尚と「殺生石」の伝説を描いた絵巻物で、室町時代末期の作品と考えられます。 |
| 県指定 | 重要文化財（工芸品） | 銅製雲板 | 表郷地域の峰全院に伝来する雲板で、応仁元年（1467）の銘があります。 |
| 県指定 | 重要文化財（工芸品） | 熊野神社御正体六面 | 大信地域下小屋の熊野神社に伝来する御正体（懸仏）で、永享3年（1433）の銘があります。 |
| 県指定 | 重要文化財（考古資料） | 人面付弥生土器 | 表郷地域番沢の滝ノ森B遺跡から完形で出土した弥生時代の人面付土器で、墓葬に関わるものと考えられています。 |
| 県指定 | 天然記念物 | ジャッコイ自生地 | 表郷地域金山に自生するジャッコイは明治37年（1904）に学会で報告され、国内ではこのみに生息すると考えられる貴重種です。環境省の国内希少野生動植物種にも指定されています。 |
| 県指定 | 天然記念物 | 町屋の二本カヤ | 大信地域の道目木地区に立つ2本のカヤの大木で、いずれも樹齢1,000年ほどと推測される貴重な古木です。 |
| 市指定 | 重要文化財（建造物） | 日吉神社 | 東地域の蕪内にある神社で、本殿は天保11年（1840）に地元の庄屋たちによって建てられ、梁や壁面に竜や仙人など様々な彫刻が施されています。 |
| 市指定 | 重要文化財（彫刻） | 木造菩薩形立像 | 東地域の下野出島に伝わる一木造の仏像で、平安時代後期の作と考えられています。 |
| 市指定 | 史跡及び名勝 | 矢越の森 | 東地域釜子の矢越神社の鎮守の森で、安倍氏追討の際に源義家が陣ヶ平という地に陣をとり、弓を放ったところ、矢がこの地に達したという伝説があります。 |

3 暮らしの移り変わり

(1) 町と村の暮らし

仕事や土地利用など、暮らしに関する文化は、城下町や宿場町と郊外の農村とで、大きく二分することができます。

江戸時代の白河は、五街道のひとつである奥州街道^{おうしゅう}や、白河と会津若松を結び、参勤交代の交通路にも利用された会津街道など多くの街道が通る交通の要衝であり、街道沿いには宿場町などの集落が多く存在していました。

白河地域では、城下町をはじめ、白坂や根田^{ねだ}、小田川に宿場が設けられていました。大信地域では会津街道沿いの上小屋^{かみこや}に宿場が設けられていました。東地域では城下町から石川に至る石川街道と、奥州街道の脇道として江戸と東北地方をつないだ水戸街道^{みと}の交差する釜子が宿場町となっていました。

町は、人々が密集して居住する区域であり、多くの人や物が行きかう場所でした。町の中では地割が行われ、間口が狭く奥が広い短冊形の土地利用がなされています。

また、江戸時代の町には各種の商家や職人たちが住んでいました。特に白河藩の中心である城下町には、仕立屋や足袋屋、染物屋など衣に関する職人や、瓦の製造や桶、畳屋など住に関する職人、酒や醤油の醸造業や菓子屋など食に関する職人など、さまざまな分野の職人が集住していました。一部の歴史的建造物は、近世～近代にかけての諸職のようすを現在に伝えるものであるとともに、歴史的まちなみの重要な構成要素となっています。

農村は、人家の集まる場所とその周りに広がる田畑がひとつの地区をなしています。近代以前は、主に農業を生業としていましたが、現在では専業の農家よりも別の仕事を持ちながら農業を行う兼業農家が多くなっています。灌漑用水や交通路の関係から、阿武隈川^{あぶくま}や社川^{やしろ}、隈戸川^{くまど}やその支流の河岸段丘上に集落が多く形成されています。土地の利用は町よりも自由で、母屋のほかに蔵や倉庫、「インキョヤ」などと呼ばれる別棟を敷地内に建てることもあります。

(2) さまざまな祈り

市内の各地では、現在でもさまざまな祭礼・行事が伝承されています。祭礼は神社で行われ、行事は寺院で行われるものや講（同一の信仰に基づく集まり）で行われるもの、町内会等の団体によって行われるものなど各種あります。

近世における祭礼・行事の記録に、幕臣であった屋代弘賢^{やしろひろかた}が諸国に送った各地の風俗の質問状に対して、松平定信の家臣だった駒乗郵^{こまのりむら}が書いた返答文『奥州白川風俗問状答』^{おうしゅうしらかわふうぞくといじょうこたえ}

（文化14年、1817）があります。天候に恵まれることや害虫防除を願って行われる「天道念仏^{てんどうねんぶつ}」や疫病退散を牛頭天王^{ごずてんのう}に祈念する「天王祭^{てんのうさい}」について記されており、関辺のさんじもさ踊や板倉の天道念仏、河東田牛頭天王祭^{かとうだ}など、その系譜を引いているとみられる行事もあります。

前述の「天道念仏」も含めた豊作の祈願に関する行事は、八朔（旧暦八月一日）や立春から数えて二百十日の時期には風除けを祈念する「風祭」や、豊作を祝い、将来の豊作について祈る「舞い込んだ」など、現在でも農村部を中心に伝承されています。

また、疫病退散を願うものでは、「天王祭」のほか、地区の境目にお札を立てる道切や辻々で念仏を唱える数珠繰りなども伝承されています。

これらの祭礼・行事は、少子高齢化や人口減少、産業や仕事の変化など、さまざまな環境の変化によって、省略されたり中断されたりしているのが現状です。一方で、「琴平神社の奉納相撲」や「金山の盆踊り」のように、一時的に中断された行事が、現在の環境にあわせた形で再開されるようになる事例もあります。

一方、町においては、白河を代表する祭礼で、白河総鎮守である鹿嶋神社の例大祭「白河提灯まつり」や、毎年2月11日に開催され、年のはじめに行われていた市神祭を起源とする「白河だるま市」など、市内はもとより近隣の市町村や県外からも多くの人が集まる祭礼・行事が行われています。



関辺のさんじもさ踊り



河東田牛頭天王祭

暮らしに関わる主な文化財

| 指定等 区分 | 種別 | 名称 | 概要 |
|-----------|---------|-------------|--|
| 県指定 | 無形民俗文化財 | 関辺のさんじもさ踊 | 白河地域の関辺地区で行われている行事で、鎮守の八幡神社の祭礼にあわせて行われます。「お棚」と呼ばれる祭壇を設け、それを中心に輪になった扇子を持った踊り手が、太鼓にあわせて回ります。 |
| 県指定 | 無形民俗文化財 | 奥州白河歌念仏踊 | 白河市を中心とする県南一円に伝わる念仏踊りです。かつては集落ごとに行われていた念仏講で行われていましたが、現在は白河地域の根田地区と大和田地区でのみ行われています。 |
| 市指定 | 無形民俗文化財 | 河東田牛頭天王祭 | 表郷地域の河東田地区で行われている祭礼で、八坂神社（牛頭天王社）の境内で、火を焚き、その周りを太鼓を打ちながら回ります。 |
| 市指定 | 無形民俗文化財 | 鹿嶋神社神楽 | 鹿嶋神社に伝わる神楽です。十八座と多くの演目が残されているほか、神歌や「五神神楽」の演目など、貴重な形式も残されています。 |
| 市指定 | 無形民俗文化財 | 中ノ沢権現梵天祭 | 表郷地域の梁森地区の山中で2年に1度行われる行事で、旧暦8月8日の深夜に、中ノ沢権現に梵天を奉納します。 |
| 市指定 | 有形民俗文化財 | 勝善神社の馬産信仰資料 | 表郷地域の社田地区にある神社に伝わる、地域の馬産信仰を反映する神馬像、馬絵幕、絵馬などの資料群です。 |
| 未指定 | 無形民俗 | 白河提灯まつり | 白河総鎮守の鹿嶋神社の祭礼で、白河藩主・本多忠義が神輿を奉納したことを契機に始まったとされています。 |

4 白河の文化財の概要（まとめ）

以上のように、白河には古くからの歴史があり、多くの文化財が残されています。

縄文時代～平安時代については、考古遺跡が豊富に残されており、古くから交通の要衝として栄えた白河の地理的特徴をうかがわせます。これら遺跡のうち、主要なものは国史跡に指定されています。

また、中世以降については、特に白河結城家、松平定信に関する古文書・美術・文化財が多く残されており、当時の政治や文化について知ることが出来ます。

近代以降の文化財は、近代化の足跡である建造物などが中心となっています。絵画などの芸術文化に関する文化財は、存在は確認されているものの、価値付けに際しては今後の調査を必要とします。

また、各地域では、庶民の信仰にもとづく多様な祭礼・行事が営まれており、その多くは今も伝承されています。地域で古くから親しまれてきた古木などの天然記念物も所在しています。

第4章 文化財把握の現状

本章では、指定文化財や未指定文化財の把握について現状を確認し、市内の文化財の全体像を把握するにあたっての課題を整理します。

1 指定等文化財の現状

現在、市内に所在する国・県・市の指定（認定含む）文化財は149件で、選定・登録文化財はありません。

国指定文化財8件の内訳は、原始時代から近世にかけての史跡が大半を占めています。県指定文化財のうち有形文化財は18件（建造物3件、美術工芸品15件）となるほか、天然記念物2件、民俗文化財3件の合計23件となっており、このうち14件が白河地域に集中しています。

市指定文化財は、有形文化財72件（建造物6件、美術工芸品66件）、民俗文化財9件、史跡等20件、天然記念物13件となっています。地域別にみると、全体として城下町を擁する白河地域と、表郷地域に多く所在しています。

なお、埋蔵文化財については、現在市内で623件の遺跡が確認されています。

※指定文化財等のリストは巻末に記載

国・県・市指定（認定）文化財の件数と内訳（地域別）（令和3年12月現在）

| | 国指定 | | | 国指定 | | | 県指定 | | | | | 市指定 | | | | | | | |
|--------------|----------------|---------------|----|----------------|---------------|----|-----------------|----------------|----|----|----|-----|-----------------|----------------|----|----|-----|----|----|
| | 種別 | 地区別件数 (内訳) | 合計 | 種別 | 地区別件数 (内訳) | 合計 | 種別 | 地区別件数 (内訳) | | | | 合計 | 種別 | 地区別件数 (内訳) | | | | 合計 | |
| | | 白河 | | | 白河 | | | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 | | | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 | | |
| 種別 件数 | | | | | | | 重要文化財 (建造物) | 3 | — | — | — | 3 | 重要文化財 (建造物) | 4 | 1 | — | 1 | 6 | |
| | | | | | | | 重要文化財 (絵画) | 1 | 1 | — | — | 2 | 重要文化財 (絵画) | 9 | 1 | — | — | 10 | |
| | | | | | | | 重要文化財 (彫刻) | 1 | 1 | — | — | 2 | 重要文化財 (彫刻) | 8 | 1 | — | 2 | 11 | |
| | | | | 重要美術品 (工芸品) | 4 | 4 | | 重要文化財 (工芸品) | 2 | 3 | 1 | — | 6 | 重要文化財 (工芸品) | 16 | 1 | — | 2 | 19 |
| | | | | | | | 重要文化財 (書跡) | — | — | — | — | 0 | 重要文化財 (書跡) | 3 | 2 | — | — | 5 | |
| | 重要文化財 (古文書) | 1 | 1 | | | | 重要文化財 (古文書) | — | — | — | — | 0 | 重要文化財 (古文書) | 1 | — | — | — | 1 | |
| | | | | | | | 重要文化財 (考古資料) | 3 | 1 | — | — | 4 | 重要文化財 (考古資料) | 2 | 5 | 5 | — | 12 | |
| | | | | | | | 重要文化財 (歴史資料) | 1 | — | — | — | 1 | 重要文化財 (歴史資料) | 8 | — | — | — | 8 | |
| | | | | | | | 重要有形 民俗文化財 | 1 | — | — | — | 1 | 重要有形 民俗文化財 | 1 | 3 | — | — | 4 | |
| | | | | | | | 重要無形 民俗文化財 | ※2 | — | — | — | 2 | 重要無形 民俗文化財 | 1 | 4 | — | — | 5 | |
| | 史跡 | 6 | 6 | | | | 史跡 | — | — | — | — | 0 | 史跡 | 11 | 8 | — | — | 19 | |
| | 史跡及び 名勝 | 1 | 1 | | | | 史跡及び 名勝 | — | — | — | — | 0 | 史跡及び 名勝 | — | — | — | 1 | 1 | |
| | | | | | | | 天然記念物 | — | 1 | 1 | — | 2 | 天然記念物 | 1 | 7 | 2 | 3 | 13 | |
| 地区別計 指定別計 | 8 | 8 | | 4 | 4 | | 14 | 7 | 2 | 0 | 23 | | 65 | 33 | 7 | 9 | 114 | | |
| | | | | | | | | | | | | | 総計 | | | | 149 | | |

※記録選択（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財）1件を含む

2 既存文化財調査の概要と成果

これまでに市や県などによって行われた文化財調査には、以下のようなものがあります。

※報告書等、成果刊行物リストは巻末に掲載

| 調査内容 | 調査成果となる刊行物等 |
|--------------------------------|--|
| 自治体史編纂のための調査 | 『西白河郡誌』『白河市史』『白河市史資料集』『表郷村史』『表郷村郷土資料集』『大信村史』『東村史』 |
| 白河市歴史民俗資料館による市内文化財調査 | 『白河市仏画調査報告書』『白河城下町絵図調査報告書』『白河市内戊辰戦争戦死者墓・供養碑調査報告書』『白河城御櫓絵図調査報告書』 |
| 白河市歴史民俗資料館・小峰城歴史館の収蔵資料の目録等 | 『文政五年御用留 川瀬文書』『藤田新次郎家寄託資料目録』『広瀬典探訪書写文書』『瓦師 小林家文書』『川瀬家文書目録Ⅰ』『重要文化財 白河結城家文書』『近世大名阿部家の遺宝』 |
| 白河市歴史民俗資料館・小峰城歴史館の展覧会にともなう資料調査 | 特別企画展図録（1979年より各年） |
| 白河市歴史民俗資料館・小峰城歴史館の収蔵・寄託資料の調査 | 収蔵品カードとして保管（報告書・目録等未刊行） |
| 白河市文化財課による埋蔵文化財発掘調査 | 『白河市埋蔵文化財調査報告書』（第1～84集） |
| 市内社寺等石造物調査 | 報告書未刊行 |
| 市内民俗行事調査 | 映像・調書等による記録保存（令和3年度報告書刊行予定） |
| 福島県歴史資料館の収蔵資料目録 | 『歴史資料館収蔵資料目録』 |
| 福島県による文化財調査 | 『福島県文化財調査報告書』（県指定文化財、および県内の建造物・絵画・彫刻・工芸・書跡・古文書・絵馬・民俗・伝統技術・街道等） |
| 福島県「歴史の道」調査 | 『福島県文化財調査報告書 第121集「歴史の道」調査報告書 奥州道中』および同『第138集「歴史の道」調査報告書 白河街道』 |

3 地域文化財把握のための追加調査

本計画の作成に先立ち、市内の文化財の所在把握のためのアンケート調査を実施しました。

| | |
|-------|---------------------------------|
| 調査対象 | 市内全町内会 |
| 調査時期 | 令和3年度 |
| 調査の内容 | 各町内で行われている祭礼・行事、所在する神社や寺院、お堂や小祠 |
| 調査の成果 | 令和3年度末に報告書として刊行予定 |

これらの既存の調査実績や追加調査を踏まえ、域内の未指定文化財のリストを作成しました。令和3年9月現在、409件の未指定文化財を把握しています。

把握済みの未指定文化財の分野別件数

| 調査対象 | 件数 | 分野 | 件数 |
|--------------|----|-------------|-----|
| 有形文化財（建造物） | 55 | 有形文化財（考古資料） | 44 |
| 有形文化財（絵画） | 38 | 民俗文化財（有形） | 10 |
| 有形文化財（彫刻） | 47 | 民俗文化財（無形） | 48 |
| 有形文化財（工芸品） | 42 | 記念物（史跡） | 57 |
| 有形文化財（書跡・典籍） | 4 | 記念物（史跡及び名勝） | 1 |
| 有形文化財（古文書） | 42 | 記念物（天然記念物） | 5 |
| 有形文化財（歴史資料） | 15 | その他（文化的景観） | 1 |
| | | 合計 | 409 |

※未指定文化財リストは巻末に掲載

4 地域ごとの文化財把握の現状

（1）白河地域

旧城下町（中心市街地）は、『白河市史』の編さん時調査や「歴史的風致維持向上計画」策定に伴う調査などにより、多くの文化財が把握されています。ただし、文化財が集積するエリアでもあるため、詳細調査が行われていない文化財も多く残されています。

また、城下町以外の地域の調査は進んでいないため、特に古文書や美術品などの有形文化財を中心に、未把握の文化財も存在すると考えられます。

（2）表郷地域

『表郷村史』^{おもてごう}の編さん時の調査により、古文書、仏像、歴史・考古資料などの文化財が把握されていますが、美術工芸品などの分野での悉皆調査が必要です。天然記念物や無形民俗文化財など、再確認や追加調査が必要なものがあります。

また、合併後に市の管理となった有形の民俗文化財については、総量把握や台帳作成が必要です。

(3) 大信地域

『大信^{たいしん}村史』の編さん時の調査により、歴史・考古・民俗等の分野を中心とした文化財が把握されていますが、美術工芸品、無形民俗などの分野で悉皆調査が必要です。

また、合併後に市の管理となった有形の民俗文化財については、総量把握や台帳作成が必要です。

(4) 東地域

『東^{ひがし}村史』の編さん時の調査により、寺社などが調査されていますが、昭和51年(1976)時点の情報であり、現状確認のための再調査が必要です。また、古文書や美術工芸品、無形民俗などの分野については、今後悉皆的な調査が必要です。

第5章 白河の歴史文化の特徴

1 歴史文化の特徴

前章までは、市の概要や歴史、主な文化財について示しました。これを踏まえ、白河の歴史や把握されている文化財を関係性に基づき整理すると、白河の歴史文化について8つの特徴（テーマ）を見出すことができます。

| No. | 歴史文化の特徴（テーマ） |
|-----|---------------|
| 1 | みちのくの入口 白河 |
| 2 | 白河結城家の治世 |
| 3 | 歴代藩主と城下町 |
| 4 | 松平定信の藩政と文化事業 |
| 5 | 戊辰戦争白河口の戦いと慰霊 |
| 6 | 白河の近代化遺産と文化振興 |
| 7 | 白河の産業と諸職 |
| 8 | 白河の暮らしと祈り |

これらは、白河の文化財を価値づける上で重要なテーマと位置づけられます。

文化財の調査を行う際は、これらのテーマを意識して取り組むことで、未指定文化財の保存や価値づけを促進することにつながります。同時に、所有者や地域住民に対してこれらのテーマについて周知し、文化財に対する関心を深め、郷土の歴史文化への愛着を醸成することを目指します。

○ 8つの歴史文化の特徴（テーマ）の内容

テーマ1 みちのくの入口・白河

白河は関東と東北の境界に位置し、古くから交通の要衝として位置づけられたことから、「みちのくの入口」として歴史的に重要な役割を果たしてきました。また、さまざまな街道が交わる白河は、東北や関東、北陸の各地と交流し、互いの文化が交わる地でもありました。

大信地域の町屋遺跡や白河地域の南堀切遺跡などの縄文遺跡からは、東北地方・北陸地方・関東地方の特徴を示す土器が出土したほか、新潟県産の翡翠、栃木県産の黒曜石などが見つっています。これらの出土品からは、早くから遠方の地域への交通路が通じていた白河の地理的特性が見て取れます。

久田野地区の天王山遺跡から出土した土器は、「天王山式土器」と呼ばれ、弥生時代後期の土器編年の基準とされていますが、この天王山式土器の分布地の南端にあたるのが白河です。

古代律令制のもとで成立した白河郡は、17の郷（里）が置かれ、現在の白河市、西白河郡、東白川郡、石川郡、茨城県大子町にまで及ぶ陸奥国唯一の大郡と位置づけられていました。下野国（現在の栃木県）との国境近くには、人や物の往来を取り締まる検問所として白河関が置かれました。白河関は10世紀には廃止されたとみられますが、平安時代以降はみちのくを象徴する歌枕として都人の憧憬の地となり、多くの和歌や紀行文に詠まれました。

江戸時代に入ると、関東から東北へ入る主要な陸路として奥州街道が整備されました。街道沿いには、下野と陸奥の国境を挟んで二つの神社が置かれており（境の明神）、街道を行きかう人々に関東と東北の境を強く意識させる場所でした。一方で、歌枕としての白河関は、松尾芭蕉「おくのほそ道」など、俳句の題材としても生き続けました。寛政年間には、白河藩主松平定信が考証を行い、長らく不明となっていた白河関跡の場所を断定しました。昭和30年代にこの場所の発掘調査が行われ、「白河関跡」として国史跡に指定されました。

また、小峰城が江戸時代初期に丹羽長重により石垣を多用した堅固な城郭として改修されたのは、奥州の押さえの役割を幕府から期待されたためと考えられます。

幕末の戊辰戦争では、白河は東北地方における最初の激戦地となります。東北地方に進軍するための拠点を得ようとする新政府軍と、進軍を食い止めようとする奥羽越列藩同盟軍が、交通の要衝である白河を奪い合ったためです。

現在でも、JR東北本線、東北新幹線、東北自動車道、国道など多くの交通路が交わる白河は、陸上交通の拠点としての機能を持ち続けています。

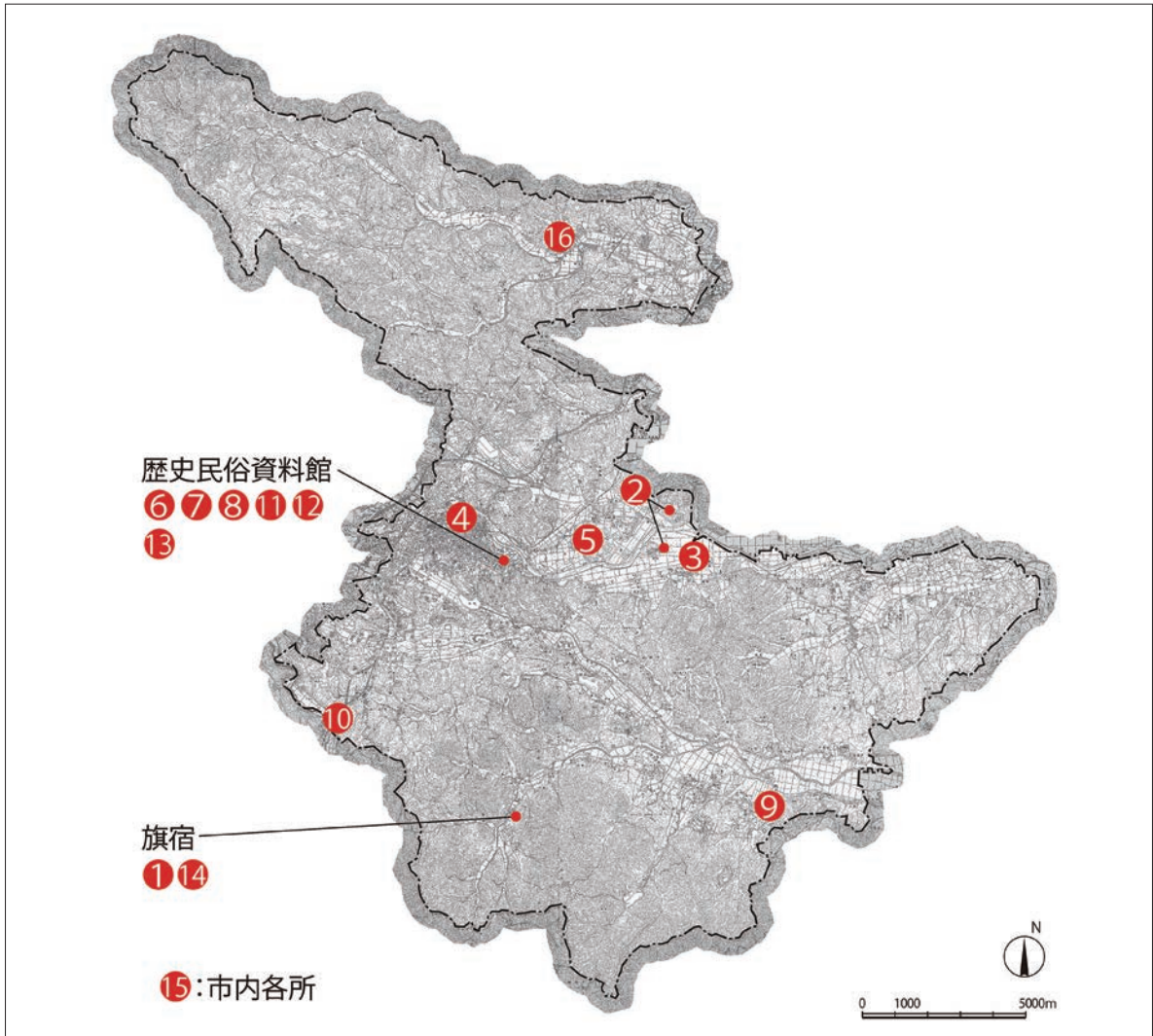
このように、白河を「みちのくの入口」として特徴づけた地理的環境は、白河の歴史文化を生み出す母体であったということが出来ます。



白河関跡



町屋遺跡出土硬玉（翡翠）製大珠



「みちのくの入口・白河」主な文化財の分布（No. は表の番号と共通）

「みちのくの入口・白河」の主な文化財

| 番号 | 指定区分 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|-----------------|--|--------------------|------------|
| 1 | 国指定 | 史跡 | 白河関跡 | 旗宿関ノ森ほか | 白河神社・白河市ほか |
| 2 | 国指定 | 史跡 | 白河舟田・本沼遺跡群（下総塚古墳・舟田中道遺跡・谷地久保古墳・野地久保古墳） | 舟田中道本沼岩井戸本沼野地久保 | 白河市ほか |
| 3 | 国指定 | 史跡 | 白河官衙遺跡群（借宿廃寺跡） | 借宿株木 | 白河市ほか |
| 4 | 国指定 | 史跡 | 小峰城跡 | 郭内 | 白河市ほか |
| 5 | 国指定 | 史跡 | 天王山遺跡 | 久田野 | 個人 |
| 6 | 県指定 | 重要文化財 (考古資料) | 人面付弥生土器 | 中田 | 白河市 |
| 7 | 県指定 | 重要文化財 (考古資料) | 借宿廃寺跡出土品 (附) 借宿廃寺跡出土品拓本等 | 中田 | 白河市 |
| 8 | 県指定 | 重要文化財 (考古資料) | 天王山遺跡出土品 | 中田 | 白河市 |
| 9 | 市指定 | 史跡 | 建銚山祭祀遺跡 | 表郷高木字高野峯ほか | 都々古山神社ほか |
| 10 | 市指定 | 史跡 | 境の明神 | 白坂明神ほか | 個人 境神社 |
| 11 | 市指定 | 重要文化財 (考古資料) | 建銚山祭祀遺跡出土 土師器・滑石製 模造品ほか出土品 | 中田・表郷高木字上宿・表郷三森字月桜 | 白河市・個人 |
| 12 | 市指定 | 重要文化財 (考古資料) | 硬玉製大珠（町屋遺跡出土） | 中田 | 白河市 |
| 13 | 市指定 | 重要文化財 (考古資料) | 町屋遺跡出土 縄文土器一括 | 中田 | 白河市 |
| 14 | 未指定 | 歴史資料 | 古関蹟碑 | 旗宿 | 白河神社 |
| 15 | 未指定 | 歴史資料 | 戊辰戦争石碑群 | 市内 | 個人ほか |
| 16 | 未指定 | 史跡 | 町屋遺跡 | 大信町屋 | 個人ほか |

テーマ2 白河結城家の治世

鎌倉時代から安土桃山時代まで、約400年にわたり白河の地を治めた武士の一族が白河結城家です。白河結城家の先祖は、下野国の有力武士であった小山氏です。小山氏から下総結城家が分かれ、その一族が白河へ移住して白河結城家が成立しました。

白河結城家の本拠地は、白河地域の搦目にある白川城でしたが、のちに結城親朝によって築かれた小峰城に移ります。市内には、白川城跡・小峰城跡を含め46の中世城館跡が確認されています。いずれも白河結城家の一族や家臣などが利用したもので、領地支配の足跡を示すものだと考えられます。

江戸時代、白河結城家は仙台藩や秋田藩の家臣として存続しますが、このうち秋田藩佐竹家に仕えた家に伝来したのが、小峰城歴史館所蔵の「白河結城家文書」です。まとまった量の中世文書群として貴重ですが、特に結城宗広・親朝が活躍した南北朝時代初期の状況をうかがえる、日本史上重要な資料となっています。

白河結城家は、信仰や文化に関する足跡も多く残しています。結城義綱・晴綱父子によって鹿嶋神社の別当最勝寺に奉納された銅鐘は、天文13年（1544）、米村郷（現・西郷村米）の鋳物師早山清次が制作したものです。また小峰寺や大統寺といった寺院は、その創建や再興に結城家が関わっており、表郷地域にある峰全院も以前は小峰城内にあったと伝えられています。大統寺木造釈迦如来坐像は、鎌倉地域特有の土紋という技法を用いており、幕府に影響力のあった結城家が鎌倉で作らせて白河へ運び込んだものと考えられています。また、白河結城家文書の中には、結城家当主が参加した連歌の会の資料も見られるなど、文芸の振興にも関わっていたことが分かります。

江戸時代には、知識人たちによって白河結城家の歴史を研究・顕彰する動きがありました。白河藩主松平定信の命により編纂された『白河古事考』や『白河証古文書』などの結城家に関する記録や、白河結城家家臣の子孫である内山官左衛門重濃による結城宗広・親光父子を顕彰する感忠銘などが残されました。また関川寺には、結城宗広を祀る墓や、天保7年（1836、宗広の500回忌）に描かれた結城宗広の肖像画（蒲生羅漢筆）が残されています。

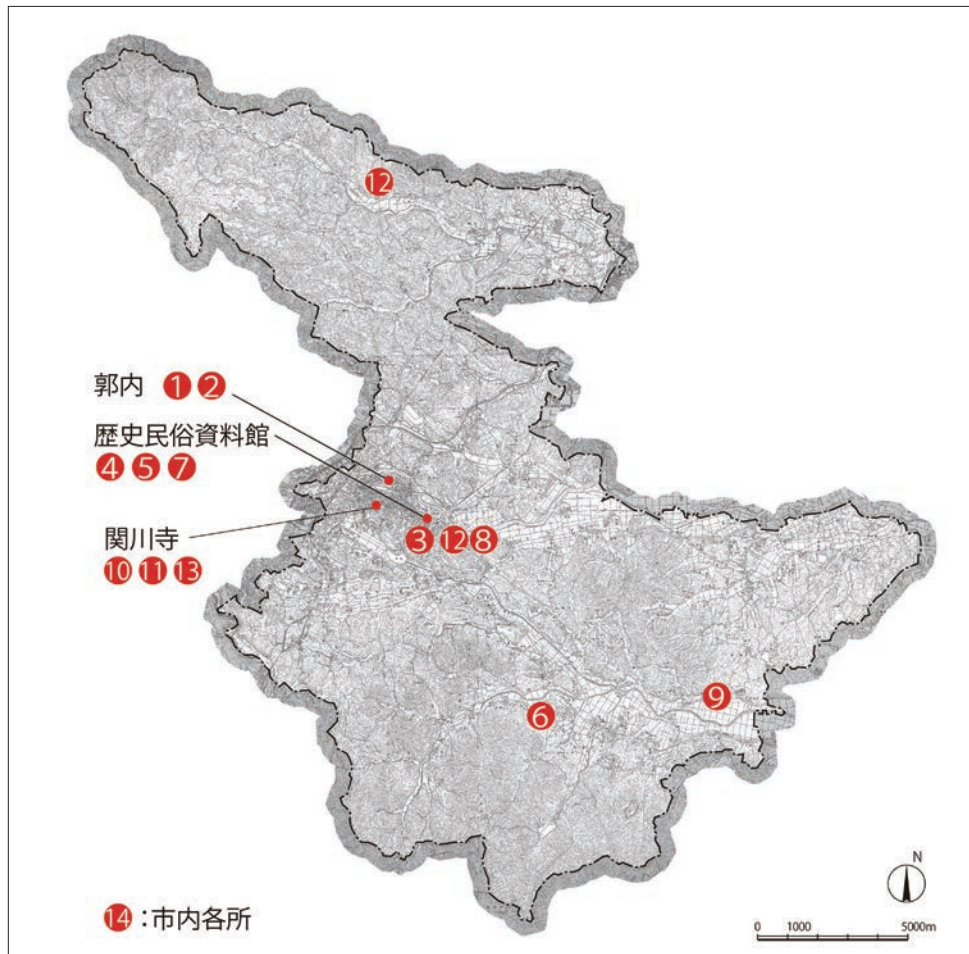
このように、白河に残された中世の文化財の多くが白河結城家に関係するものであるとともに、その歴史は後世にも影響を及ぼしています。



旧最勝寺銅鐘（龍蔵寺蔵）



木造釈迦如来坐像（大統寺蔵）



「白河結城家の治世」主な文化財の分布（No. は表の番号と共通）

「白河結城家の治世」の主な文化財

| 番号 | 指定区分 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|-----------------|--------------------------------|-----------|-------|
| 1 | 国指定 | 重要文化財 (古文書) | 白河結城家文書 | 郭内 | 白河市 |
| 2 | 国指定 | 史跡 | 小峰城跡 | 郭内 | 白河市ほか |
| 3 | 国指定 | 史跡 | 白川城跡 | 藤沢ほか | 白河市ほか |
| 4 | 県指定 | 重要文化財 (工芸品) | 鉄製鍵 | 中田 | 鹿嶋神社 |
| 5 | 県指定 | 重要文化財 (工芸品) | 銅鐘 | 中田 | 龍蔵寺 |
| 6 | 県指定 | 重要文化財 (工芸品) | 銅製雲板 | 表郷番沢 | 峰全院 |
| 7 | 市指定 | 重要文化財 (古文書) | 白川義親証状 (附) 中村常基袖判証状 高田家由緒書上 | 中田 | 個人 |
| 8 | 市指定 | 重要文化財 (歴史資料) | (伝) 結城宗廣公軍中旗 | 大搦目 | 個人 |
| 9 | 市指定 | 史跡 | 天王館跡 | 表郷河東田字天王下 | 河東田区 |
| 10 | 市指定 | 史跡 | 関川寺館跡 | 愛宕町 | 関川寺 |
| 11 | 未指定 | 絵画 | 結城宗広像 (蒲生羅漢筆) | 愛宕町 | 関川寺 |
| 12 | 未指定 | 史跡 | 宗祇戻し | 旭町 | 個人 |
| 13 | 未指定 | 史跡 | 結城宗広墓 | 愛宕町 | 関川寺 |
| 14 | 未指定 | 史跡 | 中世城館跡 | 市内各所 | 個人ほか |

テーマ3 歴代藩主と城下町

天正18年（1590）、豊臣秀吉の奥羽仕置によって白河結城家が改易されると、白河地方は会津の蒲生氏郷の領地の一部となります。その後、約40年間は会津を領した蒲生家・上杉家の重臣が城代として支配しましたが、寛永4年（1627）、会津の蒲生家の領地没収とともに白河は会津から独立し、白河藩が成立します。その後、白河は白河以北の外様大名を監視する「奥州の押さえ」として、幕末まで丹羽家・榊原家・本多家・松平（奥平）家・松平（結城）家・松平（久松）家・阿部家の7家21代の、主として親藩・譜代の大名が藩主を務めました。

初代藩主丹羽長重は、寛永6年（1629）から約4年をかけて、小峰城を堅固な石垣をそなえた近世城郭へと大きく改修しました。同時に城下町を整備するなど、白河藩としての城と城下町の基礎をつくりあげました。

歴代白河藩主と信仰については、白河総鎮守の鹿嶋神社との関わりが挙げられます。榊原忠次や松平定信は自筆の「中臣祓」を、本多忠義は神輿を奉納しています。特に、忠義による神輿の奉納は、今に続く白河を代表する祭礼である「白河提灯まつり」の始まりに繋がるとされています。

また、最後の白河藩主阿部家由来の文化財として、伝来の刀剣や書画などの美術工芸品があります。これらは小峰城歴史館に所蔵されており、白河藩主の文化を物語る貴重な資料といえます。

江戸時代の白河の城下町は、城郭の南側と東側を通る国道294号（旧奥州街道）の両側に町屋が建ち並び、寺院が街道に沿って配置されています。その外側に武家地が広がっており、現在の白河の市街地の中核部分にあたります。

松平定信時代の絵図である「奥州白河城下全図」などと現在を比較すると、基本的な構造はほぼそのまま残されていることが分かります。また、当時の町屋の屋敷割は、街道沿いの街によく見られる、間口が狭く、奥行きがある、いわゆる「短冊形」の屋敷割であることが当時の町絵図から確認できるほか（「天神町絵図」藤田家文書など）、旧街道沿いには脇本陣を務めた柳屋の蔵座敷をはじめとした江戸時代の歴史的建造物も残されています。

また、城下は明治初期に2度の大火に襲われていますが、現在まで残るいくつかの商家が伝えた文書も伝来し、城下町での藩の支配や城下町の暮らしをうかがうことができます。

歴代藩主の墓所としては、初代丹羽長重と、第6代藩主松平忠弘の子である清照、第7・8代藩主である松平直矩・基知の4人のものがあります（白河藩大名家墓所）。

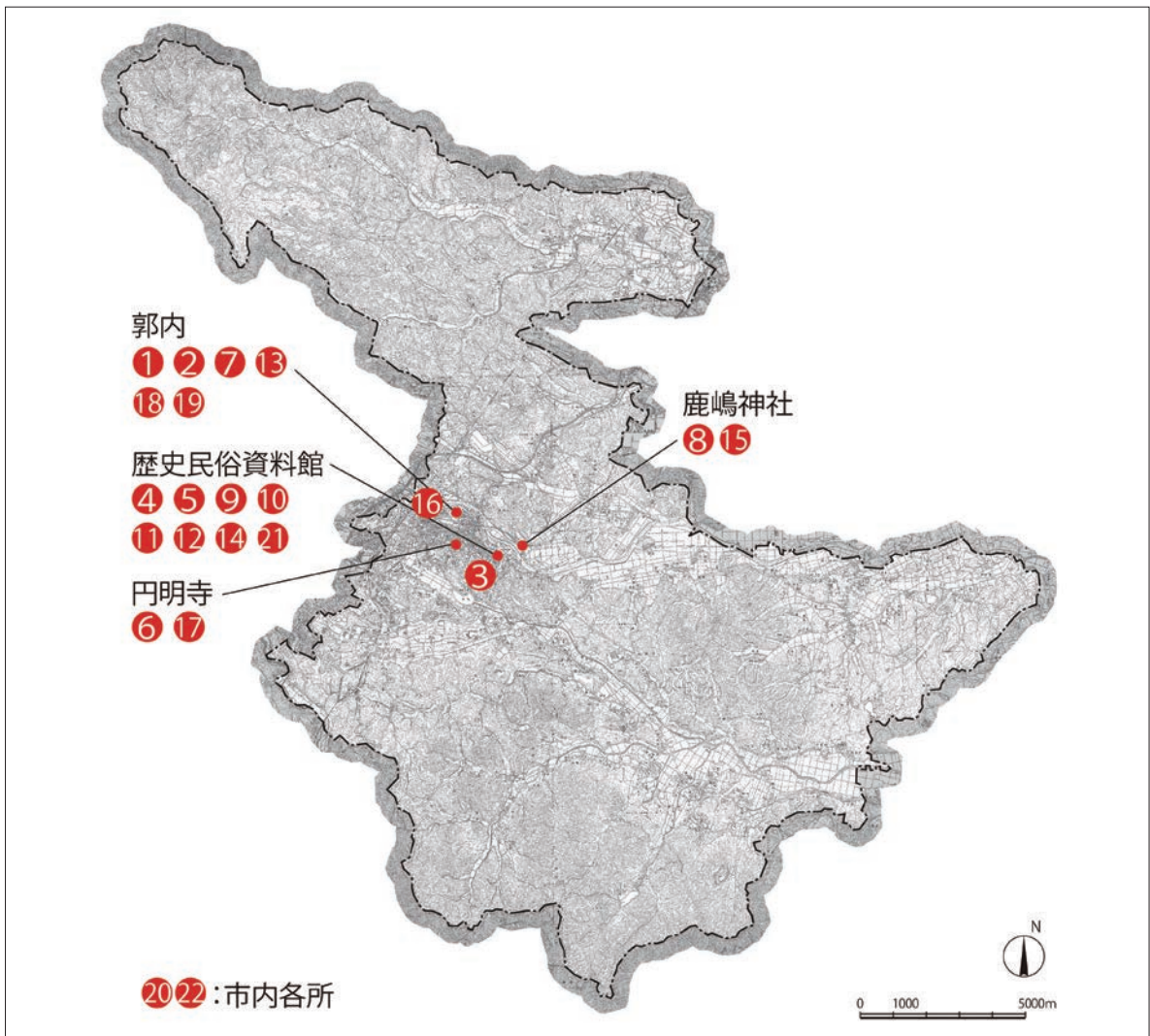
このように、小峰城と城下町は、江戸時代以降の白河の政治・文化の中心地でした。ここで生み出された数多くの文化財は、白河の歴史文化を知るうえで極めて重要といえます。



松平直矩墓（白河藩大名墓所のうち）



刀 無銘（名物横須賀江）



「歴代藩主と城下町」主な文化財の分布（No. は表の番号と共通）

「歴代藩主と城下町」の主な文化財

| 番号 | 指定区分 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|-----------------|--------------------------------------|-------|-------|
| 1 | 国指定 | 史跡 | 小峰城跡 | 郭内 | 白河市ほか |
| 2 | 国認定 | 重要美術品 (工芸品) | 刀 無銘 (名物横須賀江) | 郭内 | 白河市 |
| 3 | 国認定 | 重要美術品 (工芸品) | 銅鐘 | 年貢町 | 龍蔵寺 |
| 4 | 県指定 | 重要文化財 (考古資料) | 灰釉印花文瓶子 | 中田 | 白河市 |
| 5 | 県指定 | 重要文化財 (歴史資料) | 白河城御櫓絵図 | 中田 | 白河市 |
| 6 | 市指定 | 重要文化財 (建造物) | 丹羽長重廟 | 円明寺 | 白河市 |
| 7 | 市指定 | 重要文化財 (建造物) | 旧小峰城太鼓櫓 | 郭内 | 白河市 |
| 8 | 市指定 | 重要文化財 (工芸品) | 鹿嶋神社神輿 | 大鹿島 | 鹿嶋神社 |
| 9 | 市指定 | 重要文化財 (書跡) | 中臣祓 (榊原忠次奉納) | 中田 | 鹿嶋神社 |
| 10 | 市指定 | 重要文化財 (書跡) | 中臣祓 (松平定信奉納) | 中田 | 鹿嶋神社 |
| 11 | 市指定 | 重要文化財 (歴史資料) | 松平定信居城時における小峰城全図 | 中田 | 白河市 |
| 12 | 市指定 | 重要文化財 (歴史資料) | 丹羽長重居城時における小峰城全図 | 中田 | 白河市 |
| 13 | 市指定 | 重要文化財 (歴史資料) | 戊辰戦直後における小峰城全図 | 郭内 | 個人 |
| 14 | 市指定 | 重要文化財 (歴史資料) | 奥州白河城下全図 | 中田 | 白河市 |
| 15 | 市指定 | 重要無形 民俗文化財 | 鹿嶋神社神楽 | 大鹿島 | 鹿嶋神社 |
| 16 | 市指定 | 史跡 | 立教館跡 | 会津町 | 白河市 |
| 17 | 市指定 | 史跡 | 白河藩大名墓所 (丹羽長重墓・松平直矩墓・松平基知墓・松平清照墓) | 円明寺ほか | 白河市ほか |
| 18 | 市指定 | 史跡 | 作事稲荷 | 郭内 | 個人 |
| 19 | 未指定 | 工芸品 | 樺色羅紗地水玉模様陣羽織 | 郭内 | 白河市 |
| 20 | 未指定 | 歴史資料 | 城下町各町絵図 | 天神町ほか | 個人 |
| 21 | 未指定 | 古文書 | 川瀬家文書 | 中田 | 白河市 |
| 22 | 未指定 | 無形民俗 | 白河提灯祭り | 市内各所 | 総町参会 |

テーマ4 松平定信の藩政と文化事業

松平定信は、幕府老中として「寛政の改革」を行ったほか、白河藩主としてもさまざまな藩政改革を行いました。その足跡は、いまでも白河に残されています。

天明3年（1783）、白河藩主に就任した定信はまず天明の飢饉の対策に取り掛かり、被害を抑えることに成功します。あわせて農村の復興にも取り組み、間引きの抑制や、子どもの養育費の援助、結婚のあっせんなどをおこない、人口増加を図りました。

教育・人材育成面では藩校立教館^{りっきょうかん}や、庶民の学校である敷教舎^{ふきょうしゃ}を設けました。

産業面では、陶器や織物、ガラス、製鉄、馬産、植林など、さまざまな分野の産業振興を行っています。特に陶器に関しては、居城である小峰城の瓦製造を請け負っていた小林家当主に陶器修行を命じ、いわゆる「白河焼」を造らせました。幕府や藩への贈答品にも使われたと考えられていますが、修行時の記録や釉薬の配合の記録なども残されています（小林家文書）。

南湖^{なんこ}（南湖公園）は、定信の「士民共楽^{しみんきょうらく}」と「太平無事^{たいへいぶじ}」の理念により、享和元年（1801）に築造されました。南湖は困窮した民に職を与え、田に水を供給するなど様々な役割がありました。また、築造にあたっては庭園の手法を取り入れ、周囲には柵や塀を設けず、武士も庶民もあらゆる人が訪れて楽しむことができる場所でした。南湖公園は現在でも市民の憩いの場所として親しまれており、定信の理念は生き続けています。

また、定信の時代には当時の城下や城のすがたを正確に記録した「奥州白河城下全図」や「白河城御櫓絵図^{しらかわじょうおやぐらえず}」などが残されました。これらは、現在小峰城の復元や白河の歴史研究に活用されています。

一方、当代有数の文化人でもあった定信は、さまざまな文化事業も行っています。

定信の文化的な業績としては、全国の古物を調査・模写させて分類収録した『集古十種^{しゅうこじっしゅ}』が知られています。これには、定信の御付絵師である谷文晁^{たにぶんちやう}や、城下の常宣寺住職^{じやうせんじ}であった画僧白雲^{はくうん}、藩絵師の大野文泉^{おおのぶんせん}（巨野泉祐^{おおのせんゆう}）らが携わりました。この他にも定信は、須賀川の重欧堂田善^{あ おうどうでんぜん}を見出し、西洋銅版画の技術を学ばせ、白河城下の絵師・蒲生羅漢^{すかがわ}を文化事業に参加させるなど、多くの絵師の育成に関わっており、白河の絵画文化を振興しました。

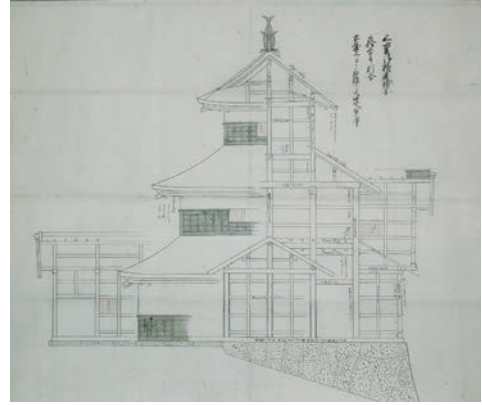
その他にも、定信は白河の歴史書である『白河風土記^{しらかわふどき}』『白河古事考』の編纂や、白河関跡の場所の考証など、歴史研究の業績も残しています。

また、定信は自ら絵筆をとったほか能書家としても知られ、白川城跡の磨崖碑^{かんちゆう}である感忠銘^{めい}に題字を揮毫したほか、市内の寺院には定信筆の扁額がいくつも掲げられています。茶道についても御家流を興すなど造詣が深く、南湖の湖畔に築いた茶室共楽亭^{きやうらくてい}などの建造物が残されています。

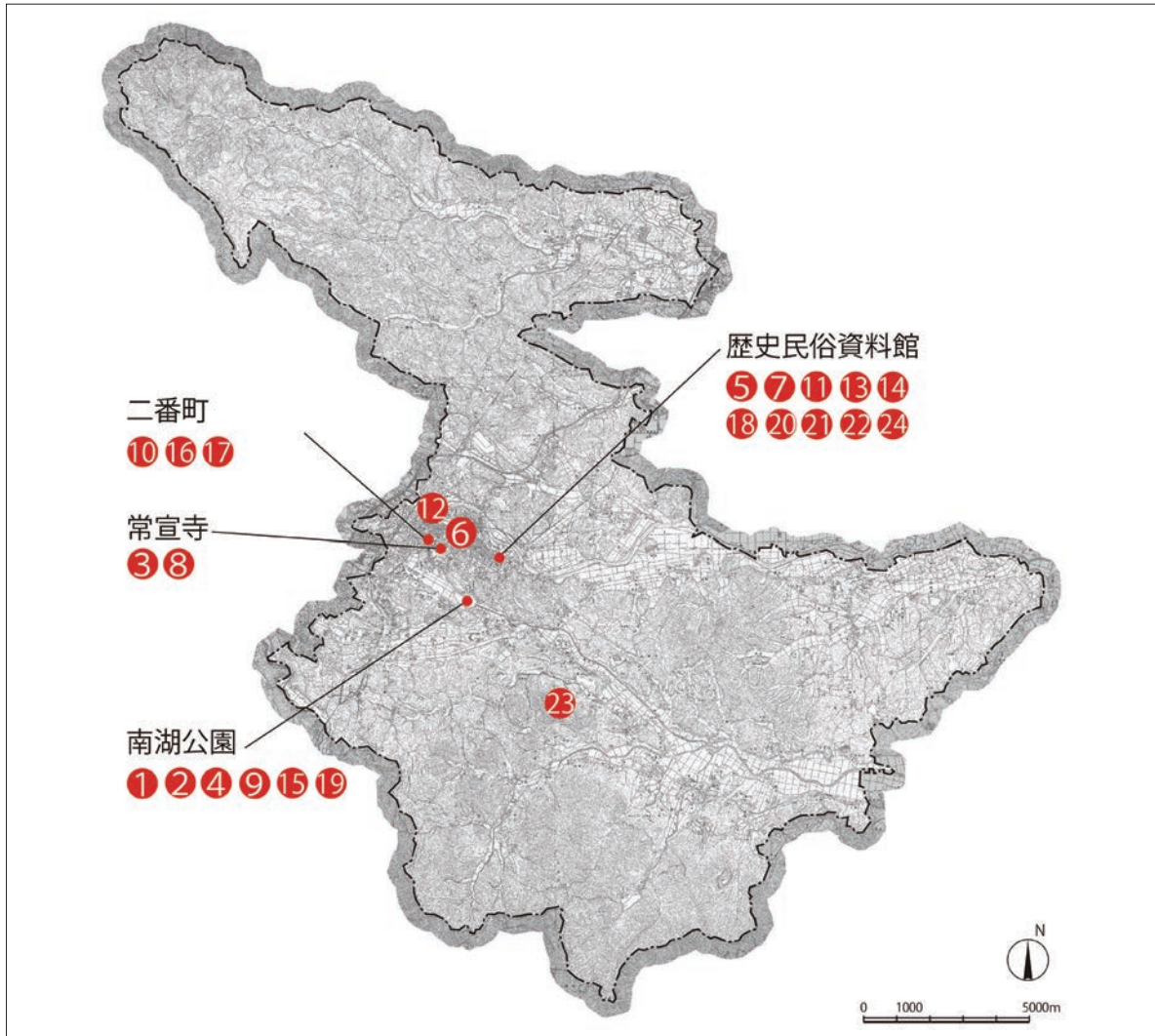
このように定信は、日本史上著名であるだけでなく、白河に多くの業績や文化財を残しました。これらを総合的に把握することは、近世白河の歴史文化を知るうえで重要です。



南湖公園



三重御櫓建絵図（「白河城御櫓絵図」のうち）



「松平定信の藩政と文化事業」主な文化財の分布（No. は表の番号と共通）

「松平定信の藩政と文化事業」の主な文化財

| 番号 | 指定区分 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|-------------|----------------------------------|------|-------------|
| 1 | 国指定 | 史跡及び名勝 | 南湖公園 | 南湖ほか | 白河市ほか |
| 2 | 県指定 | 重要文化財(建造物) | 松風亭蘿月庵(附)「蘿月」の書がある水盥 「垂桜」の書がある掛軸 | 菅生館 | 南湖神社 |
| 3 | 県指定 | 重要有形民俗文化財 | 絹本著色受苦図(附)御用留帳 敷教条約 子孫繁盛手引草 老農茶話 | 向新蔵 | 常宣寺 |
| 4 | 市指定 | 重要文化財(建造物) | 共楽亭 | 南湖 | 白河市 |
| 5 | 市指定 | 重要文化財(絵画) | 絹本著色仏涅槃図(附)涅槃像惣壇中施主附諸入用記帳 | 中田 | 大統寺 |
| 6 | 市指定 | 重要文化財(絵画) | 釈迦十六善神図 | 愛宕町 | 関川寺 |
| 7 | 市指定 | 重要文化財(工芸品) | 楯無鎧写 | 中田 | 鹿嶋神社 |
| 8 | 市指定 | 重要文化財(工芸品) | 木造扁額「常宣寺」 | 向新蔵 | 常宣寺 |
| 9 | 市指定 | 重要文化財(工芸品) | 脇差銘「臣正繁謹作之」 | 菅生館 | 南湖神社 |
| 10 | 市指定 | 重要文化財(歴史資料) | 南湖名勝図并詩歌 | 二番町 | (公財)藤田教育振興会 |
| 11 | 市指定 | 重要文化財(墨跡) | 中臣祓(松平定信奉納) | 中田 | 鹿嶋神社 |
| 12 | 市指定 | 史跡 | 立教館跡 | 会津町 | 個人 |
| 13 | 未指定 | 絵画 | 達磨図(松平定信筆) | 中田 | 白河市 |
| 14 | 未指定 | 絵画 | 白河楽翁公御下屋敷真景図(谷文晁筆) | 中田 | 白河市 |
| 15 | 未指定 | 絵画 | 浅草金龍山之図(亜欧堂田善筆) | 菅生館 | 南湖神社 |
| 16 | 未指定 | 絵画 | 富嶽図(白雲筆) | 二番町 | (公財)藤田教育振興会 |
| 17 | 未指定 | 絵画 | 釈迦十六善神図(蒲生羅漢筆) | 二番町 | (公財)藤田教育振興会 |
| 18 | 未指定 | 工芸品 | 白河焼茶碗 | 中田 | 個人 |
| 19 | 未指定 | 墨跡 | 松平定信筆「古関蹟」 | 南湖 | 南湖神社 |
| 20 | 未指定 | 古文書 | 広瀬典探訪書写文書 | 中田 | 白河市 |
| 21 | 未指定 | 古文書 | 小林家文書 | 中田 | 個人 |
| 22 | 未指定 | 歴史資料 | 白河風土記・白河古事考 | 中田 | 個人 |
| 23 | 未指定 | 歴史資料 | 関山 下馬碑 | 関辺関山 | 個人 |
| 24 | 未指定 | 歴史資料 | 藤田孫十郎感札 | 中田 | 個人 |

テーマ5 戊辰戦争白河口の戦いと慰霊

江戸時代の終わり、国の政治の在り方をめぐって西日本の雄藩と幕府との間に政治闘争が起き、慶応4年（1868）1月、京都での戦いを皮切りとした戊辰戦争が勃発しました。

江戸城開城後、新政府軍は、朝敵とされた会津藩へ向けて軍を進めますが、地理的に重要であった白河の地をめぐって、新政府軍と奥羽越列藩同盟軍が衝突し、閏4月末から7月までの約100日間にわたり激戦を繰り広げました（白河口の戦い）。

当時の白河は、慶応2年（1866）に最後の藩主阿部正静が棚倉へ移封された後、藩主が不在となったため、両軍の争奪地となり、そこに暮らす庶民は戦闘に巻き込まれるかたちとなりました。

白河口の戦いにおいて最大の激戦は、5月1日に市内の稲荷山^{いなりやま}周辺で起きたもので、この日だけで700人の死者が出たと伝えられます。また、白河口の戦い全体を通して、両軍あわせて1,000人を超える死傷者がありました。両軍の武士だけでなく、庶民も戦いに巻き込まれ、多くの犠牲者が出ました。

戦いの後、白河では、地元の人々や旧藩士たちにより、戦死者や犠牲者の墓や慰霊碑が建てられました。市内全域にわたって200を超える墓や慰霊碑が現存しており、同盟軍・新政府軍や庶民など、陣営や立場に関わらず、亡くなった人が分け隔てなく弔われ、現在も地域住民や関係者により供養が続けられています。

その他に戊辰戦争を物語る資料として、白河口の戦いの関係者が当時の様子を後に描いたとされる「白河口合戦^{しらかわぐちかっせん}絵巻^{えまき}」や、戊辰戦争の際に焼けた跡が残る小峰城の木製鬼瓦、薩摩藩^{さつま}が物資を運んだ木箱、銃弾を受けた民家の戸板などが残され、今もかつての戦いの様子を伝えています。

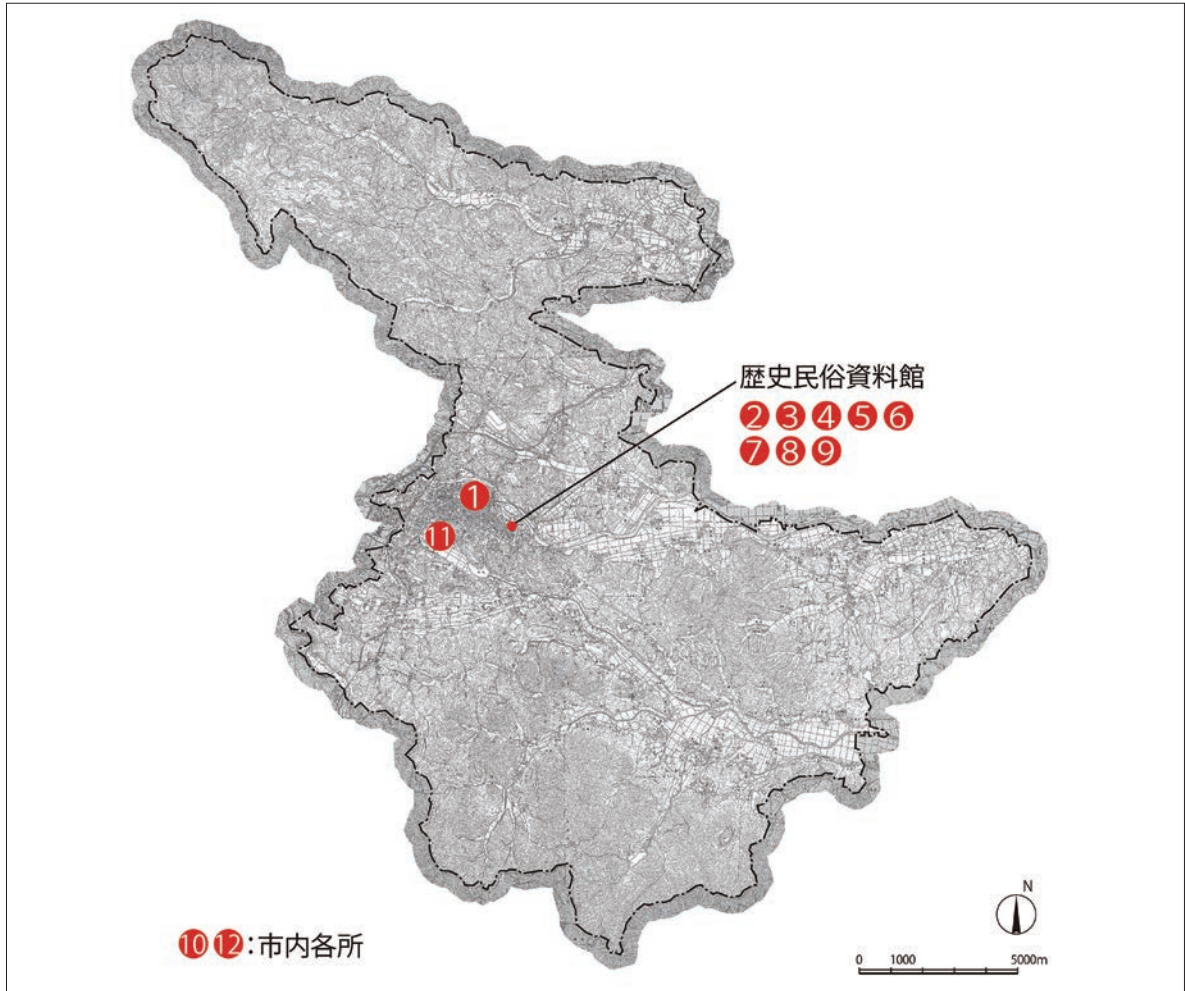
このように、白河が戦場となった背景には、「みちのくの入口」としての白河の歴史的・地理的環境が大きく関わっています。また、両軍を分け隔てなく供養してきた地域の歴史は、戊辰戦争における白河ならではの遺産といえます。



稲荷山古戦場跡



戦死墓（松並）



「戊辰戦争白河口の戦いと慰霊」主な文化財の分布（No. は表の番号と共通）

「歴代藩主と城下町」の主な文化財

| 番号 | 指定区分 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|-----------------|-----------------------|-------|-------|
| 1 | 市指定 | 重要文化財 (歴史資料) | 戊辰戦直後における小峰城全図 | 郭内 | 個人 |
| 2 | 未指定 | 絵画 | 陣笠(九曜紋付き) | 中田 | 白河市 |
| 3 | 未指定 | 書跡 | 西郷頼母和歌「うらやまし」 | 中田 | 法人 |
| 4 | 未指定 | 歴史資料 | 白河口合戦絵巻 | 中田 | 白河市 |
| 5 | 未指定 | 歴史資料 | 小峰城木製鬼瓦 | 中田 | 白河市 |
| 6 | 未指定 | 歴史資料 | 戊辰戦記絵巻物 | 中田 | 白河市 |
| 7 | 未指定 | 歴史資料 | 薩摩藩木箱 | 中田 | 白河市 |
| 8 | 未指定 | 歴史資料 | 長州藩木箱 | 中田 | 白河市 |
| 9 | 未指定 | 考古資料 | 銃弾(稻荷山伐採木より発見・小峰城跡出土) | 中田 | 白河市 |
| 10 | 未指定 | 無形民俗 | 戊辰戦争戦死者への慰霊 | 市内各所 | 個人ほか |
| 11 | 未指定 | 史跡 | 稻荷山古戦場跡 | 九番町西裏 | 白河市ほか |
| 12 | 未指定 | 史跡 | 戊辰戦争石碑群 | 市内各所 | 個人ほか |

テーマ6 白河の近代化遺産と文化振興

明治時代以降の白河は、福島県南地方の中心として発展しました。擬洋風建築の西白河郡役所が建てられ、鉄道が敷設されました。現存する白河駅舎は大正10年（1921）に建てられたものですが、瀟洒な建物は白河の中心市街地に歴史的な彩りを添えています。

また、大正6年（1917）には白河と棚倉を結ぶ私鉄の白棚鉄道が開業しました。第二次大戦中に「不要不急路線」とされ線路が撤去されましたが、戦後に線路跡がバス専用道路として整備され、現在も専用区間が残るバス路線として利用されています。

道路は、明治15年（1882）から福島県令となった三島通庸によって整備が進み、洋画家高橋由一が白河の新道の風景を多くスケッチしています。

また、県内でも早く、明治10年代からハリストス正教会の活動が開始され、大正4年に建てられた聖堂内に配されたイコンの中には、日本人のイコン画家山下りんの作品も含まれます。

近代化に伴い、商業や金融業などで財を成す実業家が登場し、彼らは一方で若い画家を後援するなどの文化活動も盛んに行いました。中でも伊藤隆三郎は、洋画家中村彝や彫刻家中原悌二郎など全国的に著名な芸術家をはじめ、白河出身の洋画家である長谷部英一を支援しました。他にも絵画団体「小馬会」の結成、茶道文化の興隆など、幅広い文化事業に携わっています。また、藤田弥五兵衛は親交のあった日本画家結城素明を支援し、第二次大戦中の疎開時も住まいを提供するなど援助を行ったことから、市内の藤田記念博物館には素明の作品が多く収蔵されています。

他にも白河市出身の洋画家関根正二は、20歳で早世しますが、大正時代を代表する画家として知られています。

絵画以外でも、旧城下町を中心として文化人たちによるサロンが形成され、長瀬文豊、中島山麗、大谷五花村など、和歌や俳句の文壇も盛んでした。また、中山義秀は第7回芥川賞（昭和13年〈1938〉）を受賞した大信地域出身の小説家です。

他にも、市内史跡の保護活動を目的とした「白河保勝会」の発足や、実業家として著名な渋沢栄一の助力を得て、松平定信を祀る南湖神社が創建されるなど（大正11年〈1922〉）、歴史の顕彰活動にも目が向けられました。

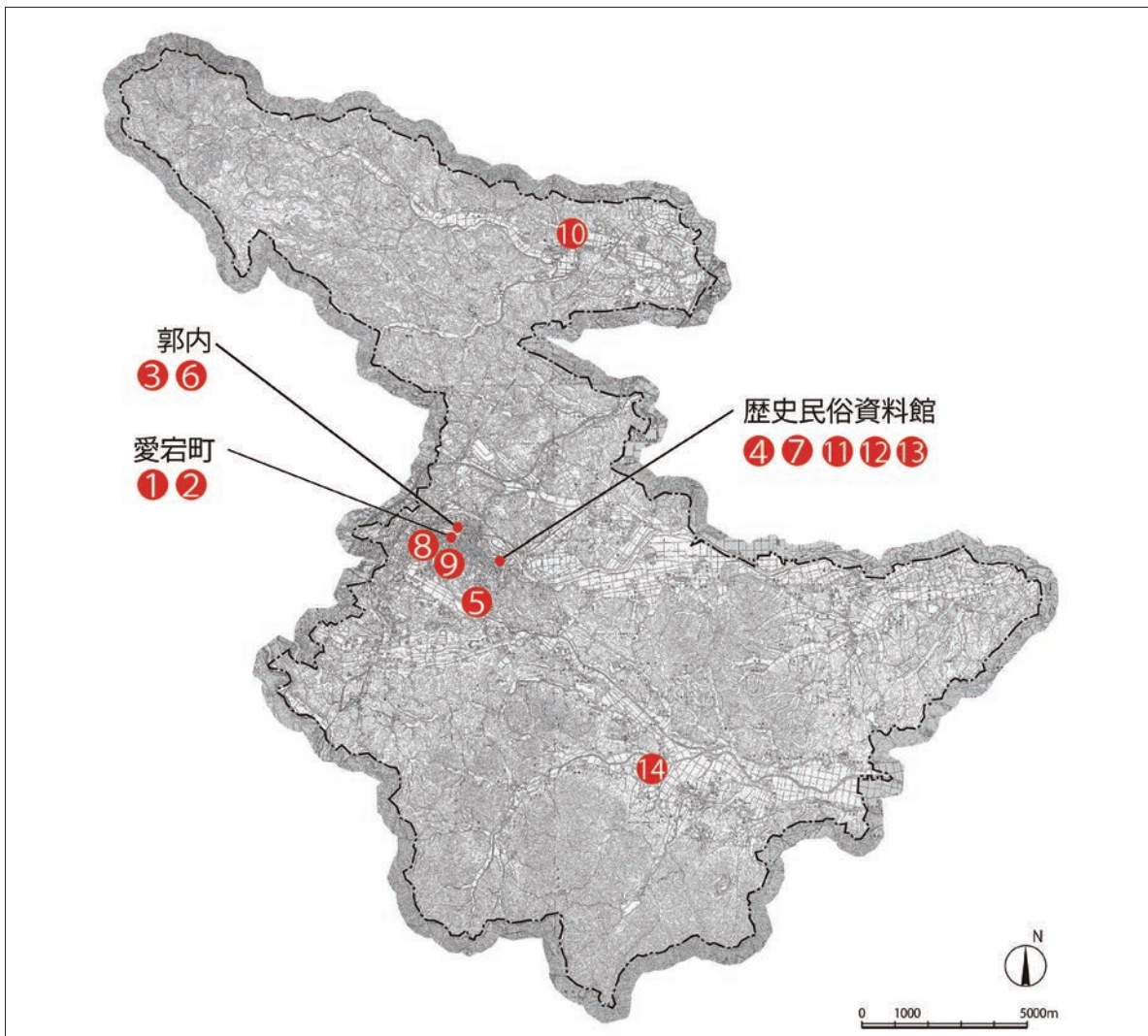
このように、近代の白河では、政治や産業の近代化が進むと同時に、町の発展を担う事業家たちによって文化が振興されたという側面があります。当時の政治・産業・文化は、それぞれが密接に関わりながら発展し、現代に繋がるまちの基盤を形成したといえます。



白河ハリストス正教会のイコン



関根正二「老夫妻像」



「白河の近代化遺産と文化振興」主な文化財の分布 (No. は表の番号と共通)

「白河の近代化遺産と文化振興」の主な文化財一覧

| 番号 | 指定区分 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|----------------|-----------------------------|--------|-------------|
| 1 | 県指定 | 重要文化財 (建造物) | 白河ハリストス正教会聖堂 | 愛宕町 | 白河ハリストス正教会 |
| 2 | 県指定 | 重要文化財 (絵画) | 白河ハリストス正教会のイコン(附) 行進用十字架 | 愛宕町 | 白河ハリストス正教会 |
| 3 | 市指定 | 重要文化財 (建造物) | 旧小峰城太鼓櫓 | 郭内 | 白河市 |
| 4 | 市指定 | 重要文化財 (絵画) | 老夫妻像 | 中田 | 白河市 |
| 5 | 未指定 | 建造物 | 旧西白河郡役所 | 菅生館 | (公財)藤田教育振興会 |
| 6 | 未指定 | 建造物 | 白河駅舎 | 郭内 | 東日本旅客鉄道(株) |
| 7 | 未指定 | 絵画 | 鉢に林檎(長谷部英一筆) | 中田 | 白河市 |
| 8 | 未指定 | 絵画 | 楽園(結城素明筆) | 二番町 | (公財)藤田教育振興会 |
| 9 | 未指定 | 彫刻 | 老人の頭像(中原悌二郎作) | 南登り町 | 県立白河高等学校 |
| 10 | 未指定 | 歴史資料 | 中山義秀関係資料 | 大信町屋ほか | 白河市ほか |
| 11 | 未指定 | 墨蹟 | 中島山麗関係資料 | 中田ほか | 白河市ほか |
| 12 | 未指定 | 墨蹟 | 長瀬文豊関係資料 | 市内各所 | 白河市ほか |
| 13 | 未指定 | 墨蹟 | 大谷五花村関係資料 | 市内各所 | 白河市ほか |
| 14 | 未指定 | 文化的景観 | 白棚線旧路線跡(JRバス専用道) | 市内各所 | |

テーマ7 白河の産業と諸職

白河の城下町は、藩の中心であると同時に奥州街道の宿駅、交通の要衝でもあり、武家・商人・職人が集住し、多くの人やものが集まる場所でした。そこには、武士や商人だけでなく、様々な専門的技術を持つ職人たちも住み、白河の自然や環境をうまく活用しながら産業を生み出してきました。

小峰城の瓦の製造を請け負った小林家は、大名が入れ替わっても白河に残る「城付」の家臣であり、藩の消滅まで桜町の藩窯で瓦を焼き、明治維新以降、明治中頃まではその技術を用いて泥人形など玩具を製造していたと考えられています（小林家文書）。

白河だるまは、紙の張り子で、瓦製造の技術を用いて造った土型の上に紙を貼り重ねて造ります。昭和初期の口伝によれば、横町の瓦屋金七が藩主・松平定信に命じられて川崎大師でだるま造りを学び、谷文晁が下絵を与えたと伝えられています。市神祭を起源とする「白河だるま市」（市神祭）は、現在も毎年2月11日に開催されており、多くの人々がだるまを求めに訪れます。

醸造業は、白河の自然環境をうまく活かした産業です。白河は那須山系が蓄えた伏流水の豊富な土地柄であるため、その豊富な水資源を背景に醸造業が栄えました。そのはじまりは不明ですが、元禄10年（1697）には、白河藩領内の酒造業者数や酒造石高を調べた記録があり、貞享4年（1687）の城下横町の商人から本町の商人への「酒林・酒道具」の売り渡し証文も残っていることから（川瀬家文書）、17世紀末にはすでに酒造りが行われていたことがわかります。城下町には、「大谷忠吉本店（白陽酒造）建造物群」や「千駒酒造建造物群」、「ヤマボシ醤油店建造物」など、醸造業に関する歴史的建造物が残されています。

同じように、自然環境を利用した産業に石材業があります。市に広く分布する白河層を構成する安山岩質溶結凝灰岩（白河石）は、加工しやすく強度もあるため、古くから石材として利用されていました。羅漢山石切丁場は、丹羽長重が小峰城を石垣を多用した城に改修した際に石を切り出した跡だとされています。また、江戸時代以降の灯籠や狛犬など、身近な寺社にある石造物も、白河石で作られました。明治・大正時代に特徴的な狛犬を多く制作したことで知られる小松寅吉など、たくさんの石工が名を残しています。

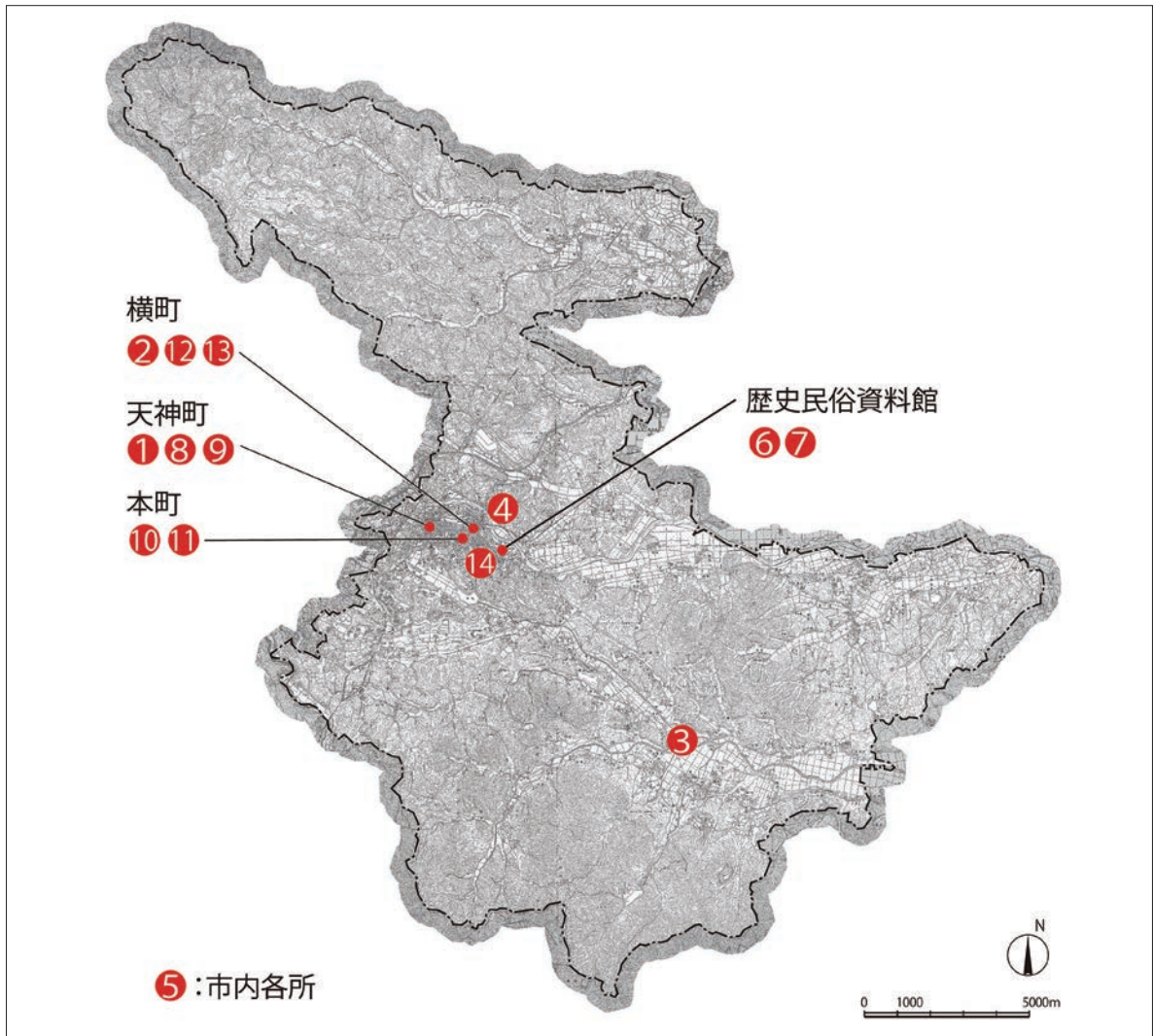
また、江戸時代にはじまった馬市は、鉄道が開通した明治以降に全国有数の規模となり、大正期から昭和初期に最盛期を迎えました。昭和30年代の急激な機械化により、昭和39年（1964）をもって馬市は廃止されました。



勝膳神社の馬産信仰資料



白河だるま市（市神祭）



「白河の産業と諸職」主な文化財の分布（No. は表の番号と共通）

「白河の産業と諸職」の主な文化財一覧

| 番号 | 指定区分 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|---------------------|-------------------|------|------|
| 1 | 市指定 | 史跡 | 天神山（附）天神神社 | 天神町 | 天神神社 |
| 2 | 市指定 | 重要文化財 （工芸品） | 白河だるまの原型 | 横町 | 個人 |
| 3 | 市指定 | 重要有形民俗 文化財 | 勝善神社の馬産信仰資料 | 表郷社田 | 個人 |
| 4 | 未指定 | 史跡 | 羅漢山石切丁場 | 羅漢 | 個人 |
| 5 | 未指定 | 彫刻 | 小松寅吉・小林和平等制作の石造物 | 市内各所 | 個人ほか |
| 6 | 未指定 | 古文書 | 小林家文書 | 中田 | 個人 |
| 7 | 未指定 | 古文書 | 川瀬家文書 | 中田 | 白河市 |
| 8 | 未指定 | 建造物（歴史的 風致形成建造物） | 今井醤油店建造物群 | 天神町 | 個人 |
| 9 | 未指定 | 建造物（歴史的 風致形成建造物） | 仁平麴店建造物群 | 天神町 | 個人 |
| 10 | 未指定 | 建造物（歴史的 風致形成建造物） | 大谷忠吉本店（白陽酒造）建造物群 | 本町 | 合名会社 |
| 11 | 未指定 | 建造物（歴史的 風致形成建造物） | 千駒酒造建造物群 | 本町 | 株式会社 |
| 12 | 未指定 | 建造物（歴史的 風致形成建造物） | 渡邊だるま店建造物群・だるま作業所 | 横町 | 個人 |
| 13 | 未指定 | 建造物（歴史的 風致形成建造物） | 渡邊家土蔵 | 横町 | 個人 |
| 14 | 未指定 | 建造物（歴史的 風致形成建造物） | ヤマボシ醤油店 | 年貢町 | 個人 |
| 15 | 未指定 | 無形民俗 | 白河だるま市（市神祭） | | |

テーマ8 白河の暮らしと祈り

白河では、阿武隈川や社川、隈戸川などの河川の流域を中心に、田園風景が広がっています。水田は、川による浸食とその後の砂礫の堆積により形成された河岸段丘の上に開かれ、段丘面には集落も形成されました。

現在、こうした農村の典型的な家屋はほとんど見ることはできませんが、表郷の^{いぬがみ}犬神地区にあった鈴木家住居は、江戸時代中期から後期の一般的な農家建築として貴重です。

また、各地域の庄屋を中心とした家々に伝えられ、江戸時代の藩の農政や暮らしを伝える古文書や、使われていた農業生産の道具が市内に残されています。

稲作の副次的な産物である稲わらを用いた藁細工の技は、表郷地域の^{かとうだ}河東田地区や白河地域の^{ごうど}郷渡地区で神社のしめ縄製作として残されています。

人々の暮らしに、信仰は欠かせないものでした。町や村には地区ごとに寺社が立ち並び、信仰に関する行事が催される場であるとともに、亡くなった人に祈りをささげる場でもありました。寺社に伝わる建造物や仏像、石造物などは、当時の人々の信仰のありようを示す貴重な文化財です。

また市内各地域には、農業と「祈り」に関する行事が今も多く伝承されています。

古くから、人間の手ではコントロールできない自然災害など様々な事柄に対し、人々は時に「祈り」を行うことで向き合ってきました。白河地域の関辺に伝わるさんじもさ踊は、農村に伝わった「祈り」に関する芸能の一例です。その年の好天と害虫の防除を念じ、五穀豊稔を祈って、扇子を持った踊り手が太鼓に合わせて輪になって踊ります。同種の行事は^{てんとう}天道念仏と呼ばれ、東地域の^{いたくら}板倉にも伝承されています。

また、八朔（旧暦8月1日）や立春から数えて二百十日の時期には、^{はたじゆく}旗宿や河東田で風害を避けるための祭礼・行事が行われています。これは稲の収穫前の台風の多い時期に、強風によって被害が及ばないことを祈るものです。以前は、旗宿や表郷地域の内松や中野などで嵐除けの行事の一環として相撲を行っていました。

一方、収穫を終えた後に行う行事もあります。^{もとぬま}本沼地区に伝承されている「舞い込んだ」は、11月上旬に、子どもたちがブチボウ（打ち棒）をもって各家を巡り、家々の玄関先を叩いて回る行事です。刈り上げの時期にあわせて行われる行事であり、その唱え言葉からもその年の収穫に感謝するとともに、将来の豊作について祈念するものであることがわかります。

その他、暮らしに関する祈りでは、^{かとうだ}河東田^{ごずでんのうさい}牛頭天王祭や^{みちきり}道切、数珠繰りなど疫病除けに関するものが多く伝承されています。

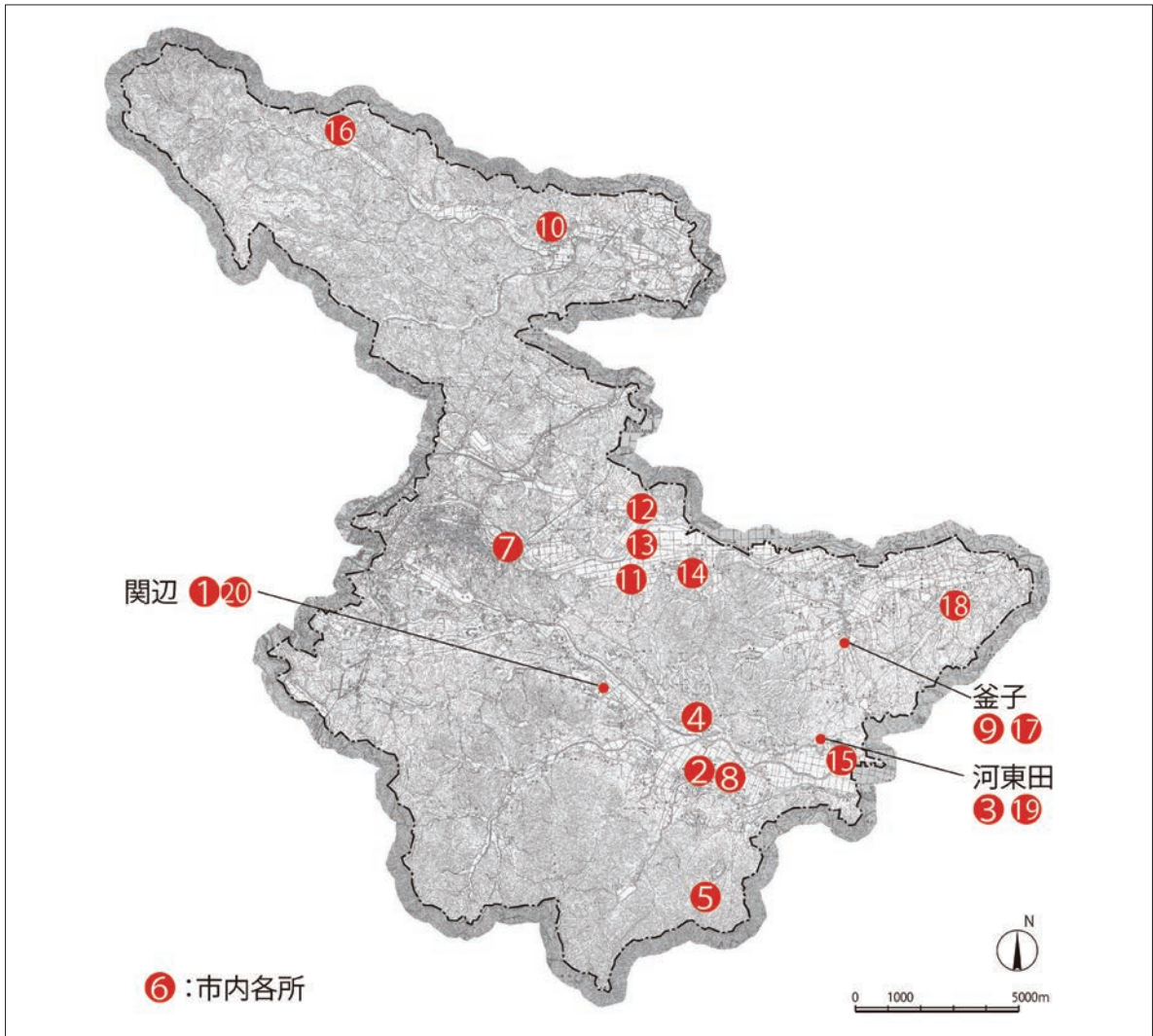
これらの暮らしや祈りのかたちは、時代によって移り変わってきました。それをふまえながら、白河の大切な歴史文化の一部として記録や保存に努める必要があります。



関辺のさんじもさ踊り



鈴木家住居



「白河の暮らしと祈り」主な文化財の分布（No. は表の番号と共通）

「白河の暮らしと祈り」の主な文化財一覧

| 番号 | 指定区分 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|----------------|-------------|---------|-------------------|
| 1 | 県指定 | 重要無形民俗文化財 | 関辺のさんじもさ踊 | 関 辺 | 郷渡町内会 |
| 2 | 市指定 | 重要文化財 (建造物) | 鈴木家住居 | 表郷番沢字桜下 | 白河市 |
| 3 | 市指定 | 重要無形民俗文化財 | 河東田牛頭天王祭 | 表郷河東田 | 河東田町内会 |
| 4 | 市指定 | 重要無形民俗文化財 | 八幡宮下熊野講 | 表郷八幡 | 社八幡神社 |
| 5 | 市指定 | 重要無形民俗文化財 | 中ノ沢権現梵天祭 | 表郷梁森 | 梁森区（梁森青年会） |
| 6 | 未指定 | 古文書 | 村方の文書 | 市内各地 | 白河市ほか |
| 7 | 未指定 | 有形民俗 | 白河地域の農業生産用具 | 中 田 | 白河市 |
| 8 | 未指定 | 有形民俗 | 表郷地域の農業生産用具 | 表郷金山 | 白河市 |
| 9 | 未指定 | 有形民俗 | 東地域の農業生産用具 | 東釜子 | 白河市 |
| 10 | 未指定 | 有形民俗 | 大信地域の農業生産用具 | 大信町屋 | 白河市 |
| 11 | 未指定 | 無形民俗 | 板橋の虫送り | 板 橋 | 板橋町内会 |
| 12 | 未指定 | 無形民俗 | 舞い込んだ（本沼） | 本 沼 | 本沼町内会 |
| 13 | 未指定 | 無形民俗 | 舟田のどったらぶち | 舟 田 | 舟田町内会 |
| 14 | 未指定 | 無形民俗 | 入方のどうらんぶち | 田 島 | 入方町内会 |
| 15 | 未指定 | 無形民俗 | 深渡戸のむじなぶち | 表郷深渡戸 | 深渡戸町内会 |
| 16 | 未指定 | 無形民俗 | 十日市ちょうちん祭 | 大信隈戸 | 十日市町内会 |
| 17 | 未指定 | 無形民俗 | 琴平神社奉納相撲 | 東釜子 | 琴平神社奉納相撲実行委員会 |
| 18 | 未指定 | 無形民俗 | 板倉の天道念仏 | 東上野出島 | 板倉青年会・板倉天道念仏太鼓保存会 |
| 19 | 未指定 | 無形民俗 | 河東田のしめ縄製作技術 | 表郷河東田 | 河東田町内会 |
| 20 | 未指定 | 無形民俗 | 郷渡のしめ縄の製作技術 | 関 辺 | 郷渡町内会 |

第6章 文化財保存・活用の課題と方針

第5章までに把握した市の文化財を取り巻く現状をふまえ、本章では市の文化財行政における将来像と方向性を確認し、文化財の保存・活用のための課題と方針について示します。

1 文化財の保存・活用に關する将来像と方向性

「白河市第2次総合計画」では、市の将来像を

「みんなの力で未来をひらく 歴史・文化のいきづくまち 白河」と定めています。これは市の文化財行政における将来像ともなります。

これに基づき、本計画における文化財保存・活用の方向性を以下とします。

本計画における文化財保存・活用の方向性

- ①地域の文化財に光を当て、白河の歴史文化の価値を明らかにする。
- ②市民ひとりひとりが文化財に親しみ、手を取り合って保存・活用に取り組む。

この方向性は、計画期間終了後も文化財の保存・活用を推進する際の目標となります。

次項ではこの方向性に基づき、文化財の保存・活用のための課題と方針について示します。一方で、各地域の歴史文化を踏まえたうえで、地域ごとに課題や方針を検討し、地域づくりへつなげていく視点も必要です。地域の文化財を保存・活用するにあたっての課題・方針については、第8章「文化財保存活用区域」において示すこととします。

| | | | | |
|-----|--|--|---|--|
| 方向性 | 1 地域の文化財に光を当て、白河の歴史文化の価値を明らかにする | | 2 市民ひとりひとりが文化財に親しみ、手を取り合って保存活用に取り組む | |
| | 文化財の全体像を把握する | 文化財を次世代に継承する | 文化財を地域のために活用する | |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・未指定文化財の把握 ・調査データの整理 ・文化財の調査研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・未指定文化財の保存・継承 ・祭礼・行事の継承 ・文化財収蔵スペースの不足 ・文化財の防犯・防災体制 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の魅力の周知 ・活用のための整備不足 ・活用のための取り組み不足 | |
| 方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財調査の継続 ・調査データの一元化 ・文化財調査の深化 | <ul style="list-style-type: none"> ・既存制度による保護の推進 ・未指定文化財の保護推進 ・地域の祭礼・行事の継承支援および記録保存の推進 ・市文化財収蔵庫の整備 ・防災・防犯体制の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の情報発信の強化 ・教育機関との連携 ・史跡等の整備 ・文化財展示施設の整備 ・文化財を活用した取り組みの推進 | |

文化財保存・活用の方向性・課題・方針

2 文化財保存・活用の現状と課題

(1) 方向性①地域の文化財に光を当て、白河の歴史文化の価値を明らかにするための現状と課題

【現状】

文化財の調査・把握に関する現状については第4章に挙げたとおりです。

作成した未指定文化財リストは、多くが詳細調査を未実施のものです。また、ここに拾い上げられていない未把握の文化財も多数存在すると考えられます。これらのことをふまえると、文化財把握の現状についての課題は、以下のようになります。

【課題】

①分野や地域による文化財調査の偏り・不足

旧城下町（中心市街地）を含む白河地域については、『白河市史』の編さん時調査や「歴史的風致維持向上計画」策定に伴う調査などにより、建造物や美術工芸品、古文書など、多くの文化財が把握されています。しかし、江戸時代以来の中心地であり、文化財が集積するエリアでもあるため、美術品や古文書など有形文化財を中心に、未調査の文化財も多く残されており、今後悉皆調査を行う必要があります。

それ以外の地域でも、分野ごとに偏りがみられるのが現状です。

表郷地域では美術工芸品などの分野での悉皆調査、天然記念物や無形民俗文化財など、再確認や追加調査が必要なものがあります。大信地域では、美術工芸品、無形民俗などの分野で悉皆調査が必要です。

東地域では、村史編さん時の調査から時間が経過しており、現状確認のための再調査が必要です。また、古文書や美術工芸品、無形民俗などの分野については、今後悉皆的な調査が必要です。

また、これらの地域で保管されてきた有形の民俗文化財については、あらためて総量把握や台帳作成が必要です。

②把握済み文化財の現状確認の不足

過去の調査により所在が把握されている文化財でも、調査から時間がたち、現在の状況が不明なものがあります。適切な保存・活用につなげるため、現状を再確認するための調査を実施する必要があります。

③調査情報のデータ整理・一元化の不足

過去の調査資料のうち、合併前の各自治体で作成された調査資料が未整理であったり、調査資料の保管場所等の情報が一元化されていないという問題があります。

また、調書のカード化による整理や、データベース化による整理など、貴重な調査情報を研究等に有効に利用するための整理も不足しています。

④調査結果に基づく研究の不足

調査により所在や基本情報が把握されていても、関連資料の収集や比較検討など、必

要な研究作業が進んでおらず、価値づけがなされていないものがあります。将来的な指定等の候補としたり、保存・活用の措置を講じるための材料が不足しています。

(2) 方向性②市民ひとりひとりが文化財に親しみ、手を取り合って保存・活用に取り組むための現状と課題

1) 文化財の保存継承に関する現状と課題

【現状】

市指定文化財については、未指定文化財の中から指定候補の選定や調査を進めるとともに、一定の価値づけがなされたものについて、文化財保護審議会の答申を得て、毎年1～2件程度を指定しています。指定文化財は、必要な修理等を行い適切な保存をはかるとともに、史跡等は市職員による定期的なパトロールを行うなど、保護・保全に努めています。また、市所有の美術工芸品などの文化財については、文化財収蔵庫に保管し、適切な保存環境の維持に努めています。

一方で、市内の文化財の大半は、個人や地域所有であり、文化財の調査・保存・活用については、それぞれの所有者の理解と協力を得ながら進めています。また、市内の建造物については、NPO法人しらかわ建築サポートセンターが情報共有や技術伝承についてサポートを行うなど、民間での互助体制が活用されています。

防災については、「白河市地域防災計画」において、「文化財防火デーに伴う火災防御訓練等により市民の防火・防災意識の高揚を図る」とともに、文化財管理者への防火対策・防火設備・防火訓練等に関する指導、文化財保存施設の整備推進を行うことなどが定められています。

市ではこれまでも毎年、市内の文化財を対象に、文化財防火デーにともなう火災防御訓練を行い、地域や所有者・消防署と連携して文化財防災体制の周知・確認を行っています。

また、「福島県文化財保存活用大綱」に基づき県内市町村で締結された「災害時相互応援協定」は、災害などで文化財レスキューが必要となった自治体に対し、県や県内市町村が協力して支援を行うための体制を定めたものです。非常時には、市もこれに基づいて県や県内市町村と共同で対処する体制となっています。

【課題】

①未指定文化財の保存・継承

地域の人口減少等により、個人や地域で所有する美術工芸品や古文書、神社や祠堂などの文化財について、保存・維持・継承が困難になってきています。特に、法的な保護措置がはかられていない未指定文化財については、散逸や棄損、滅失が危惧されます。また、保存継承のための修理やメンテナンスが不足しているものもあります。大工や左官などの伝統技術は、文化財の修理やメンテナンスに不可欠であるため、職人技術の継承を行う必要があります。

②地域で伝承されてきた祭礼・行事の継承

地域の人口減少等により、地域の祭礼・行事等をはじめとする無形民俗文化財を存続することが困難になり、簡略化や中断に至る例が増加しています。

③市所有文化財収蔵スペースの不足

市文化財課で行った発掘調査の出土品や、歴史民俗資料館で寄贈を受けた資料などは年々増加し、保管収蔵場所の不足が深刻な問題となっています。

④地域の文化財の防犯・防災体制

近年、地震や火災、風水害、土砂災害等、各種災害が激甚化する傾向があり、文化財の被災が懸念されます。また、近年は人気の少ない場所に所在する文化財の盗難・破壊などの犯罪行為の事例が全国で報告されています。こうした文化財へのリスクに対する防犯・防災設備の整備、非常時の連絡体制の強化などが求められます。

2) 文化財の活用に関する現状と課題

【現状】

こみねじょうあと なん こうえん
小峰城跡や南湖公園などは、現在も市民の憩いの場であり、多くの観光客が訪れる観光地でもあります。これらについては、観光イベントなどによる積極的な活用がはかられています。また、美術工芸品などの文化財は、歴史民俗資料館や小峰城歴史館で展示公開されており、白河の歴史文化をテーマとした特別企画展も毎年開催しています。

【課題】

①文化財の価値や魅力についての情報発信の不足

小峰城跡など、一部の著名な文化財については市内外で知名度が高まっているものの、それ以外の文化財や、白河の歴史文化全体に関する情報発信が不足しています。市民や観光客に対する情報発信はもちろん、これから白河を担っていく子どもたちへのより一層の普及も求められています。

②文化財活用のための整備の不足

小峰城跡は、市内でも知名度が高い文化財であり、これまで整備が続けられ、イベント等で活用されてきました。しかし、東側丘陵の長大な石垣の存在や、かつての門などの建物の姿など、いまだ広く知られていない部分も多いことから、史跡保存の措置を施し、調査研究で明らかになったことをふまえた上で、その価値や魅力を正しく伝えるための整備が必要です。

このように、よく知られている文化財でも、その価値は十分に伝えられておらず、より一層の整備が求められています。それ以外の文化財については、訪れてもかつての姿や価値が伝わりにくくなっているものが多いため、計画的な整備を行っていく必要があります。

また、美術工芸品などの文化財については、環境の整った展示施設での活用が基本と

なりますが、歴史民俗資料館については施設の老朽化が進んでいるほか、収蔵庫の不足が喫緊の課題となっています。

③文化財活用の取り組みの不足

文化財を活用した取り組みを推進するための制度が十分に整備されていません。また、推進に関わる所有者や組織同士の連携・連絡などの体制が十分に整備されていません。

3 文化財の保存・活用に関する基本的方針

文化財の保存・活用に関する方針を、以下のように定めます。なお、ここでは市全体にかかる方針を中心に扱い、地域ごとの課題は第8章「文化財保存活用区域」の中で扱うこととします。

(1) 文化財の全体像を把握する

①総合的な文化財調査の継続的实施

市内文化財のうち、地域・分野ごとに調査が不足しているものを整理し、所在把握や現状確認のための調査を計画的に実施します。

建造物は、白河地域を中心に計画的に調査を実施し、他3地域についても所在情報の収集と調査を進めます。美術品や古文書等は、市民からの依頼等に応じつつ、所在情報の収集を行うなどして継続的に調査を実施します。寺社所蔵文化財や石造物については村史など過去の調査情報を参照しながら、地域ごとに悉皆調査を実施します。無形民俗については、各地域に対しアンケートや聞き取り調査を行いながら、計画的に記録調査を行います。

これらの調査にあたっては、市文化財専門職員を中心とし、適宜有識者の助言を得て行います。また、市民参加による調査についても検討することで、文化財に対する興味関心の醸成や、より詳細な把握を目指します。

②文化財調査データの一元化およびデータ整理

これまで蓄積された調査成果を一元化し、貴重なデータが散逸することを防ぐとともに、既存やこれからの調査成果を管理しやすい形で台帳・データ化することが必要です。これらをデータベース等により公開することを目指し、研究の進展に資するとともに、文化財の情報発信に努めます。

③文化財に関する研究活動および価値づけの深化

把握済みの文化財は、関連する文献資料の調査や、類似の文化財との比較検討などを通じて価値づけを行います。これにより指定を含めた適切な取り扱いについて検討し、整備や活用方法の検討も行うことができるようになります。把握済み文化財の調査研究を計画的に進め、研究成果を報告書等で広く公開することで、情報発信やさらなる研究の進展に繋がります。

(2) 文化財を次世代へ継承する

①既存の指定等制度による保護の推進

既存の文化財指定制度を活用し、指定候補の検討や、指定の手続きを計画的に進めるとともに、国登録文化財や歴史的風致形成建造物等の枠組みも用いながら、文化財の保護を推進します。指定した文化財については、補助制度等を利用し、定期的な修理やメンテナンスを進めます。歴史的風致形成建造物については、順次詳細調査を進め、文化財としての価値づけを行います。また、埋蔵文化財についても法に基づく保護措置を推

進めます。

②未指定文化財に対する保護の推進

地域における文化財の保存継承にかかる支援制度・体制づくりを行います。市指定制度や、国登録制度などで拾い上げることが難しい個人や地域の美術工芸品や古文書、神社や祠堂などの文化財を守り伝え、市独自の細やかな保護を加える制度として、地域文化財登録制度の創設等を検討します。

③保存修復技術の継承・支援体制の整備

市内では、歴史的建造物に関するノウハウを共有し、修復や維持管理に関わっているNPO法人しらかわ建築サポートセンターが、歴史的建造物の修理や、伝統技術の継承にも取り組んでいます。こうした既存の団体の協力を得ながら、文化財に関する情報交換や維持保存に取り組める体制づくりを目指します。

④地域の祭礼・行事の継承支援および記録保存の推進

地域における祭礼・行事など無形民俗文化財の維持・継承にかかる支援を推進するとともに、聞き取りや写真・映像などによる記録保存を計画的に進めます。

⑤市文化財収蔵庫の整備

市所有文化財の保管については、既存施設を利用した収蔵場所の確保、収蔵庫の増設・新設の検討など、文化財の種類と数量に応じた保存環境の整備を進めます。

⑥文化財の防災・防犯体制の見直しと整備

火災・地震・風水害などの諸災害については、市の総合的な防災計画である「地域防災計画」をふまえ、文化財の保管状況の確認や対策の検討を行い、地域や所有者、消防署、NPOなどの団体、市内の博物館施設など、各方面の協力を得ながら防災体制の整備を進めます。整備にあたっては、「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画」（令和元年12月文部科学大臣決定）や「国宝・重要文化財（建造物）の防火対策ガイドライン」「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」（文化庁、令和元年9月）等の指針をふまえることとします。また、文化財パトロールの体制見直しや整備により、地域の防災体制を把握し、改善に取り組みます。あわせて、文化財の所在把握調査の成果に基づき、所在場所のリスク評価（ハザードマップとの比較等による）などを行います。

防犯については、文化財パトロールによって地域の文化財の定期的な見回りを行い警戒に努めるとともに、防犯体制の状況を把握し、改善に取り組みます。

（3）文化財を地域のために活用する

①文化財や歴史文化に関する情報発信の強化

白河市の文化財や、歴史文化に関する情報発信を拡大します。市民や観光客、全国の歴史好きの人々など、対象を設定したうえで、紙媒体や報道、WEB、SNSなどの手段

を柔軟に活用し、有効な情報発信に努めます。

②教育現場との連携・普及の推進

小中学校、あるいは高校などの教育現場と連携しながら、将来の白河を担う児童・生徒・学生たちへ文化財の魅力を伝達するよう努めます。

③史跡や歴史的建造物の整備推進

小峰城跡や南湖公園は公園として市民の憩いの場であり、文化財として観光客も多く訪れる場所となっています。これらの活用に先立ち、その価値を正しく伝えるための整備を進めます。また、白河舟田・本沼遺跡群や白川城跡、白河官衙遺跡群（借宿廃寺跡）など、これから整備を進める国指定史跡等についても、その価値を伝えるための適切な整備方法を検討します。

④文化財展示施設の整備

文化財に関する最も基本的な公開活用の場として、歴史民俗資料館などの展示施設があります。しかし、歴史民俗資料館は築40年を経過して老朽化が進み、収蔵庫の容量も不足するなど、施設の再整備が必要となっています。市の公共施設の管理計画と合わせて、今後の展示施設のあり方について検討し、次世代の展示施設づくりを進めます。また、上記（2）①に挙げた収蔵スペースの確保は、展示施設と密接に関わるため、あわせて検討していく必要があります。

⑤文化財を活用した取り組みの推進

文化財を活用したさまざまな取り組みがクローズアップされる中で、白河市においても、さまざまなイベントの会場として文化財を活用するユニークベニューや、VR（仮想現実）・AR（拡張現実）など先端技術を取り入れたコンテンツの作成など、多様な方法を用いた文化財の魅力発信事業を展開します。

第7章 文化財保存・活用の措置

第6章の方針を踏まえ、保存・活用に関する具体的に措置（事業）の内容と実施時期等について、以下のように定めます。なお、事業については、第6章「3 文化財の保存・活用に関する基本的方針」の分類に従って表記しています。

なお、事業の実施に際しては、市費のほか県費・国費（文化財補助金・地方創生推進交付金等）、そのほか民間等の資金を利用しながら進めていきます。

1 文化財の全体像を把握する

【事業の概要】

市内に所在する文化財の全体像を把握するため、各分野の調査を実施する。同時に、台帳化による情報整理や、報告書等の刊行により成果公開に努める。

| 課題 | 基本 的方針 | No. | 措 置 | 措置の内容 | 取り組 み 主 体 | 想 定 さ れ る 財 源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | | 実施後の展開 （関連事業） |
|--|-----------|-----|---------------|--|--------------------|---------------------------------|-------------------------|-------------|-------------|------------------|
| | | | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 | |
| 未指定文化財の把握調査および現状確認が不足している 総合的な文化財調査の継続的実施 | | 1-1 | 建造物調査 | 市内の歴史的建造物調査を行う。計画期間内での調査成果を取りまとめ、報告書刊行を行う。 | 市所有者 | 市 | 把握調査 | 詳細調査 | 成果とりまとめ・刊行 | 1-11 2-1 |
| | | 1-2 | 美術工芸品等の調査 | 市内所在の絵画や古文書等について、所有者の協力を得ながら随時調査する。調査成果は、分野やコレクション等のまとまりにより報告書や日録・資料集としての刊行を将来的に検討する。具体的な調査対象として、次のようなものが挙げられる。 ・絵画・工芸品 ・古文書・城絵図 ・古写真・絵はがき等 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | | 1-11 2-1 |
| | | 1-3 | 石造物調査 | 市内各所に所在する石碑や灯籠、狛犬等、人々の歴史や信仰を物語る石造物の悉皆調査を行う。調査にあたっては、市民参加も検討する。調査成果は報告書として刊行する。 | 市各地域所有者 市民 | 市 | 調査（東・大信地域） | 調査（表郷・白河地域） | 報告書刊行 | 1-11 2-1 |
| | | 1-4 | 社寺調査 | 市内の社寺所蔵文化財の悉皆調査を行う。成果は報告書として刊行する。 | 市所有者 | 市 | 調査（東・大信・白河地域） | 調査（表郷地域） | 報告書刊行 | 1-11 2-1 |
| | | 1-5 | 民俗に関する総合調査 | 地域ごとに伝承されている生活文化を体系的に把握し、記録するための民俗調査を実施する。成果は地域ごとにまとめ、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | 調査・刊行（東・大信地域） | 調査・刊行（表郷地域） | 調査・刊行（白河地域） | 1-11 |
| | | 1-6 | 無形民俗文化財の調査・記録 | 市内の各地域で行われている祭礼・行事について、調査記録を行う。毎年継続的に聞き取りや写真・映像による記録を行う。 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | | 1-11 2-1 |
| | | 1-7 | 白河提灯祭りの調査 | 白河最大の祭礼である提灯祭り（鹿嶋神社祭礼渡御祭）について、資料や行事、祭りの山車や行列などの把握調査を行い、記録保存を図る。調査成果をとりまとめ、報告書を刊行する。文化財としての将来的な扱いについても検討する。 | 市所有団体 | 市 | 調査 | 報告書刊行 | 継続調査を実施 | 1-11 |
| | | 1-8 | 無形文化財調査 | 白河で営まれてきた生活文化（茶道、華道、書道、食文化、短歌、俳句など）に関する調査を行い、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | 調査・報告書刊行 | 随時調査実施 | | 1-11 |
| | | 1-9 | 市内重要遺跡の調査 | 詳細調査がなされていない市内の重要遺跡について、調査を順次行う。 | 市 | 市国 | 継続事業として実施 | | | 1-11 2-1 |

| 課題 | 基本的方針 | No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | | 実施後の展開 （関連事業） |
|-------------------------|--------------------|------|------------------------|--|--------|---------|-------------------------|-----------|------------|--------------------|
| | | | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 | |
| 既存調査データが整理されていない | 調査データ整理・一元化を進める | 1-10 | 既存調査成果の把握と一元化 | 合併前を含むこれまでの調査成果を把握・一元化し、整理を行う。 | 市 | 市 | 資料把握 | 資料整理 | 台帳化を実施 | 1-11 |
| | | 1-11 | 白河市の文化財・収蔵品の台帳化 | 市内の文化財や、歴史民俗資料館の収蔵品等について、台帳化を行う。 | 市 | 市 | 継続事業として実施 | | | 3-1 3-4 |
| 文化財を価値づけるための調査研究が不足している | 文化財の調査研究による価値づけの深化 | 1-12 | 白河の歴史文化に関する関連資料の調査 | 白河の歴史文化に関する資料について、市外のものも含めて情報収集や調査を随時行う。調査の対象としては、具体的には、次のようなものが挙げられる。 ・白河藩政関係資料 ・白河市史・旧村史等編さん資料 ・白河に関する新聞記事 ・白河に関する文学・紀行文等 ・戊辰戦争に関する資料 ・白河に関する人物等の資料 ・白河の食文化に関する資料 等 | 市 | 市 | 継続事業として実施 | | | 1-11 3-1 3-9 |
| | | 1-13 | 資料館等における展覧会図録・年報・紀要の刊行 | 歴史民俗資料館等の調査研究の成果は、展覧会図録、年報、報告書、研究紀要等、適切な形で刊行し、公開に努める。 | 市 | 市 | 継続事業として実施 | | | 3-9 |
| | | 1-14 | 調査報告書の刊行 | 上記以外の文化財調査についても、随時報告書を刊行し、成果の公開に努める。 | 市 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |

2 文化財を次世代へ継承する

【事業の概要】

指定・未指定問わず、文化財を保護するための制度の検討や活用を行う。無形民俗文化財については、主体となる地域団体の支援や、記録保存などによって次世代への継承を促す。また、防災・防犯体制の見直しと改善を通じて、より安全な保存環境の構築を目指す。

| 課題 | 基本の方針 | No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | | 実施後の展開 （関連事業） |
|-----------------------|------------------|------|-----------------------------|---|--------------|--------------------|--|-----------|------------|------------------|
| | | | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 | |
| 未指定文化財の保存・継承が困難になっている | 既存の指定等制度による保護の推進 | 2-1 | 文化財指定事業 | 市内所在の文化財のうち、調査により文化財としての価値づけが進んだものから文化財保護審議会へ諮問し、毎年1～2件程度を計画的に指定し、保存を図っていく。 | 市 県 国 | 市 県 国 | 継続事業として実施 | | | 2-2 3-2 |
| | | 2-2 | 指定文化財補助事業 | 指定文化財の所有者が保存のための修復等を行う際に、要綱に基づいて補助金を交付する。修復にあたっては、市文化財課が適宜助言を行い、適切な維持保存に努める。 | 市 所有者 | 市 県 国 所有者 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 2-3 | ビャッコイ自生地保全事業 | 貴重種であるビャッコイの保全と環境保護のため、定期的な清掃などの環境維持活動を行うとともに、今後の保全のための調査や保護の体制づくりを行う。 | 市 県 地域 | 市 国 | 調査・体制整備 | 保護実施 | 期間後も継続 | — |
| | | 2-4 | 埋蔵文化財保存事業 | 周知の埋蔵文化財包蔵地にかかる開発工事に対し、現状保存を図る策を講じながら、調査が必要と判断された場合に発掘調査の実施や記録、指導を行い、遺跡の保護に努める。 | 市 所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 2-5 | 歴史的風致形成建造物指定事業 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき、白河の歴史的風致を形成するうえで重要な建造物を「歴史的風致形成建造物」として指定する。指定された歴史的建造物については、歴史的まちなみの構成要素として保存を図るとともに、調査によって文化的な価値づけを行う。 | 市 所有者 | 市 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき実施（令和3年～12年度） | | | 1-1 2-1 |
| | | 2-6 | 歴史的まちなみ修景事業 | 旧城下町エリアに所在する歴史ある商家や蔵などの建造物を修景整備する際に支援を行い、歴史的なまちなみの保全を図っていく。 | 市 所有者 | 市 国 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき実施（令和3年～12年度） | | | — |
| | 未指定文化財に対する保護の推進 | 2-7 | 地域文化財登録制度の創設 | 地域で保存・伝承されてきた未指定文化財の中で一定の価値が認められるものについて、市登録文化財制度を創設し、既存の指定制度ではカバーできない文化財に対して保護を図る。 | 市 所有者 | 市 | 検討・創設 | 継続事業として実施 | | 3-1 |
| | | 2-8 | ふるさと文化振興基金を活用した未指定文化財保存支援事業 | 未指定文化財のうち、一定の価値づけがなされている物件について、保存のための支援を行う。 | 市 所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 2-9 | 文化財パトロール体制の整備 | 文化財パトロールの継続的实施と、文化財保護指導委員制度の活用などもみすえたパトロール体制の構築を目指す。 | 市 所有者 | 市 | 課題整理・検討 | 体制見直し | 期間後も継続 | 2-16 |
| | | 2-10 | 伝統的技術伝承事業 | 歴史的な建造物の修理等に際し、材料、職人、工法などのノウハウを継承・蓄積するため、モデル修理工事の実施や専門家を招いた研究会の開催等を毎年行う。地域のNPOの協力を得て行う。 | 市 団体 | 市 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき実施（令和3年～12年度） | | | — |
| 支援体制の整備 | | | | | | | | | | |

| 課題 | 基本方針 | No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | | 実施後の展開 （関連事業） |
|-----------------------|-----------------------------|------|--------------------|---|--------------------------------|---------|-------------------------|-----------|------------|------------------|
| | | | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 | |
| 地域の祭礼・行事の継承が困難になっている | 地域の祭礼・行事の記録保存の推進 継承支援および | 2-11 | 無形民俗文化財等支援事業 | 地域で継承されてきた無形民俗文化財の保存継承について毎年支援を行う。 | 市 地域所有団体 | 市 | 継続事業として実施 | | | 2-12 |
| | | 2-12 | 無形民俗文化財保存活用支援体制の整備 | 奥州白河歌念仏踊や関辺のさんじもさ踊の保存会など、無形民俗文化財の担い手が連携・情報交換等を行うための支援体制づくりを行う。文化財保存活用支援団体の指定も視野に、実効的な体制づくりを進める。 | 市 地域所有団体 | 市 | 課題整理・検討 | 体制構築 | 体制運用 | 2-11 |
| | | 2-13 | 無形民俗文化財等記録作成事業 | 市内各地域に残る伝統行事などの無形民俗文化財現状について調査を実施し、聞き取りや写真・映像等の記録を毎年計画的に行う。 | 市 地域所有団体 | 市 | 継続事業として実施 | | | 3-2 |
| 地域の文化財の防災・防犯体制の見直しと整備 | 文化財の防災・防犯体制の見直しと整備 | 2-14 | 文化財保存施設（文化財収蔵庫）の整備 | 市所有の文化財を保管するスペースが不足していることから、既存の施設を利用した収蔵スペースの確保や、新たな文化財収蔵庫の整備を検討する。 | 市 | 市 | 検討 | | | — |
| | | 2-15 | 文化財防火デー訓練事業 | 1月26日の文化財防火デーにちなみ、指定文化財の防火設備の確認と消防訓練を毎年行い、地域の意識の醸成を図る。 | 市 所有者 消防署 地元消防団 市民 | 市 | 継続事業として実施 | | | 2-16 |
| | | 2-16 | 文化財防災体制の見直し | 指定文化財を中心に、消防体制の見直しや、防災設備の設置を推進する。建造物など、特に火災等の被害が及びやすいものを優先し、段階的に行う。 | 市 所有者 消防署 | 市 | 建造物見直し | 美工作品見直し | 以後、随時見直し | — |

3 文化財を地域のために活用する

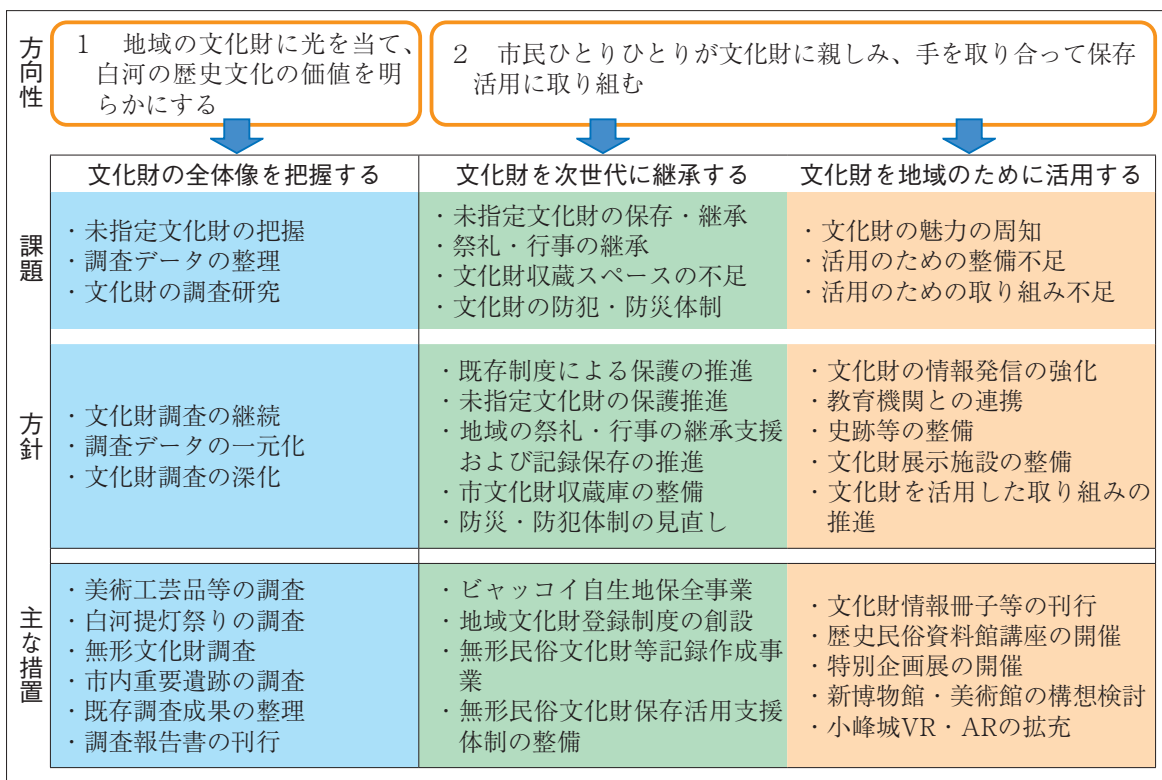
【事業の概要】

データベースやWEB、紙媒体を含めた文化財の情報発信や、展覧会・講演会など文化財への理解を促す催し、教育現場での普及、文化財の価値を正しく伝えるための史跡や保管施設の整備、文化財を会場としたイベントの開催など、文化財を活用した地域づくりや魅力発信を目指す。

| 課題 | 基本方針 | No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | | 実施後の展開 (関連事業) |
|----------------------------|---------------------|------|----------------------|---|----------|---------|-------------------------|------------------|------------|------------------|
| | | | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 | |
| | | | | | | | | | | |
| 文化財の価値や魅力について、周知や理解が進んでいない | 文化財や歴史文化に関する情報発信の強化 | 3-1 | 白河市の文化財および収蔵品データベース化 | 市内所在の文化財や、市歴史民俗資料館の収蔵品のうち台帳化が進んでいないものについて、カード化・データベース化を実施する。 | 市 | 市 | カード化の実施 | データベース化の実施 | 完了 | 3-2 |
| | | 3-2 | WEB上での文化財情報公開の促進 | 画像や動画、データベース、SNSなどさまざまな形式によって、わかりやすい形で文化財の情報を公開し、普及に努める。 | 市 | 市 | 発信方法の多様化 | データベースの公開 | 期間後も継続 | — |
| | | 3-3 | 文化財情報冊子・マップ等の刊行 | 市内文化財の情報を分かりやすく伝えるため、冊子のリニューアルや、文化財マップ、主要文化財のパンフレットなどを作成・刊行する。 | 市 | 市 | 冊子の検討・刊行 | マップ・パンフレットの検討・刊行 | | — |
| | | 3-4 | 資料館等収蔵資料の目録・図録の刊行 | 歴史民俗資料館・小峰城歴史館の収蔵資料目録や名品図録を刊行し、情報公開に努めることで、文化財の活用を促進する。 | 市 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 3-5 | 指定文化財看板作成事業 | 指定文化財のうち、現地解説看板が未整備のものについて、毎年1～2件程度の設置を行う。 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 3-6 | 「芭蕉白河の関俳句賞」開催事業 | 令和元年、「おくのほそ道」330年を記念し、松尾芭蕉ゆかりの地である白河の歴史文化について広く周知するため、「芭蕉白河の関俳句賞」を創設し、毎年作品を募集している。 | 市 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 3-7 | 歴史民俗資料館講座の開催 | 白河の歴史文化をテーマに、毎年開催している。令和2年度は、全5回の講座4コースを開講し、市内外の参加者があり、白河の歴史文化に関する普及・発信を行っている。 | 市 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 3-8 | 郷土講演会の開催 | 白河の歴史文化に関する講演会を年1回程度行い、有識者の講話により歴史文化への理解を深める機会を提供する。 | 市有識者 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 3-9 | 特別企画展・企画展開催事業 | 白河の歴史文化に関する特別企画展を年1回、企画展を年数回程度開催し、文化財を身近に感じながら歴史文化を学ぶ機会を提供する。特別企画展については展覧会図録を刊行して成果の公開・情報発信に努める。 | 市所有者 | 市国財団等 | 継続事業として実施 | | | — |
| 教育現場との連携・普及の推進 | | 3-10 | 白河の歴史・文化再発見事業 | 白河の歴史文化について学び、郷土に対する愛着を醸成するため、市内の小中学校各学年で学習プログラムを毎年実施する。 | 市教育委員会学校 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 3-11 | 景観学習事業 | 市内小学生が、まち歩きと成果発表の実習授業を行う。実習にあたっては、県内でまちづくりを研究する大学研究室と学生の協力を得て、毎年共同で行う。 | 市教育委員会学校 | 市 | 継続事業として実施 | | | — |
| 文化財活用のための整備（ハード面）が進んでいない | 史跡や歴史的建造物の整備推進 | 3-12 | 小峰城史跡整備事業 | 小峰城の石垣の保全や史跡保存のための修復を行うとともに、調査研究に基づき史跡の価値を正しく伝えるための整備を行う。事業は「整備基本計画」等の個別計画に基づいて進める。 | 市 | 市国寄付金 | 「整備基本計画」等の個別計画に基づいて実施 | | | 3-17 3-18 |
| | | 3-13 | 小峰城清水門復元整備事業 | 小峰城の二之丸と本丸を繋ぐ清水門を歴史考古資料に基づいて復元し、城郭のさらなる魅力発信につなげる。令和6年（2024）度内の復元整備完了を目指す。事業実施にあたって、「小峰城一石城主プロジェクト」を立ち上げ、市民や広く全国から復元費用の寄付を募るなど、参加型の事業を目指すとともに、小峰城や白河の歴史文化に関する情報の周知を図る。 | 市 | 市寄付金 | 事業実施 | 完了 | | 3-17 3-18 |
| | | 3-14 | 旧小峰城太鼓櫓等整備事業 | 小峰城の建造物として唯一遺存している旧小峰城太鼓櫓について、長期的保存と公開活用を図るため、解体移築および修復工事を行う。 | 市 | 市国寄付金 | 事業実施 | 完了 | | 3-17 3-18 |

| 課題 | 基本の方針 | No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | | 実施後の展開 （関連事業） |
|---------------------------|-----------------|------|----------------|--|--------|---------|--|-----------|------------|------------------|
| | | | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 | |
| 文化財活用（ド面）が進んでいない | 史跡や歴史的建造物の整備推進 | 3-15 | 南湖公園史跡整備事業 | 史跡及び名勝としての価値をさらに高めるため、散策者用園路の整備や、水環境の調査、樹木管理、自動車の排ガス影響の抑制のための公園内道路の車両通行抑制策検討など各種整備を行う。事業は「保存管理計画」等の個別計画に基づいて進める。 | 市 | 市国 | 「保存管理計画」等の個別計画に基づいて実施 | | | 3-17 3-18 |
| | 文化財展示施設の整備 | 3-16 | 新美術館・博物館の構想検討 | 文化財保管・展示施設の老朽化やスペース不足、施設の分散などの問題などを踏まえ、施設の一元化や新設などをみすえた次世代の展示施設について検討する。 | 市 | 市国 | 検討 | | | — |
| 文化財を活用する取り組み（ソフト面）が進んでいない | 文化財を活用した取り組みの推進 | 3-17 | ぐるり白河文化遺産めぐり事業 | 市内の文化財や歴史的なまちなみをめぐるまち歩きイベントを開催し、歴史文化の魅力を発信する。 | 市所有者 | 市参加者 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき実施（令和3年～12年度） | | | — |
| | | 3-18 | ユニークベニユーの推進 | 小峰城跡等、史跡や歴史的建造物を活用したイベント等を開催し、文化財の活用と魅力発信を行う。 | 市 | 市国 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 3-19 | リビングヒストリー事業の推進 | 歴史資料に基づいた祭礼・行事や食事、儀式等の再現イベントを開催し、観光資源とするとともに、地域の歴史文化に対する愛着や関心の醸成につなげる。 | 市 | 市国 | 継続事業として実施 | | | — |
| | | 3-20 | 小峰城VR・ARの作成・拡充 | 小峰城跡では、かつての城の様子を再現したVR・ARコンテンツが設置されているが、その情報の更新や拡充を行う。また、タブレット貸出等による普及策を検討する。 | 市 | 市国 | 内容検討 | 実施 | 完了 | — |

本章で述べた課題・方針・措置の概要を図式化したものが、以下になります。



課題・方針・措置の対応関係

第8章 文化財保存活用区域

1 文化財保存活用区域について

(1) 設定の考え方

「文化財保存活用区域」は、文化財を地域の歴史文化と一体のものと捉え、保存・活用するための枠組みです。文化財そのものを保存するだけでなく周辺環境も構成要素とし、これらを一体のものとした保存・活用を目指すことで、区域内の歴史や集落の営み、自然環境などを活かしたより魅力的な地域づくりを目指すものです。

ここでは、以下の4つの区域を「文化財保存活用区域」に設定します。

| No. | 文化財保存活用区域の名称 |
|-----|-------------------------------------|
| 1 | <small>しらかわ</small> 白河文化財保存活用区域 |
| 2 | <small>おもてごう</small> 表郷文化財保存活用区域 |
| 3 | <small>たいしん</small> 大信文化財保存活用区域 |
| 4 | <small>ひがし</small> 東文化財保存活用区域 |

(2) 区域設定にあたっての基本的な考え方

白河は古代から交通の要衝であり、白河を通るさまざまな街道を中心に集落が発達しました。また、江戸時代後期には一部が越後高田藩や幕府の領地となり、近現代までいくつかの異なる行政区域に分かれた歴史もあります。そういった背景を踏まえ、ここでは平成17年に合併する前の1市3村を基準として区分けしています。これらは、城下町から各方向へ伸びる街道沿いに発達した集落や、関わりの深い周辺地域を合わせたものとなりました。

各区域に所在する文化財は、その地理的環境や、そこで営まれた集落の歴史文化に根差したものであり、周辺環境とともに保存・活用を図っていくべきものです。

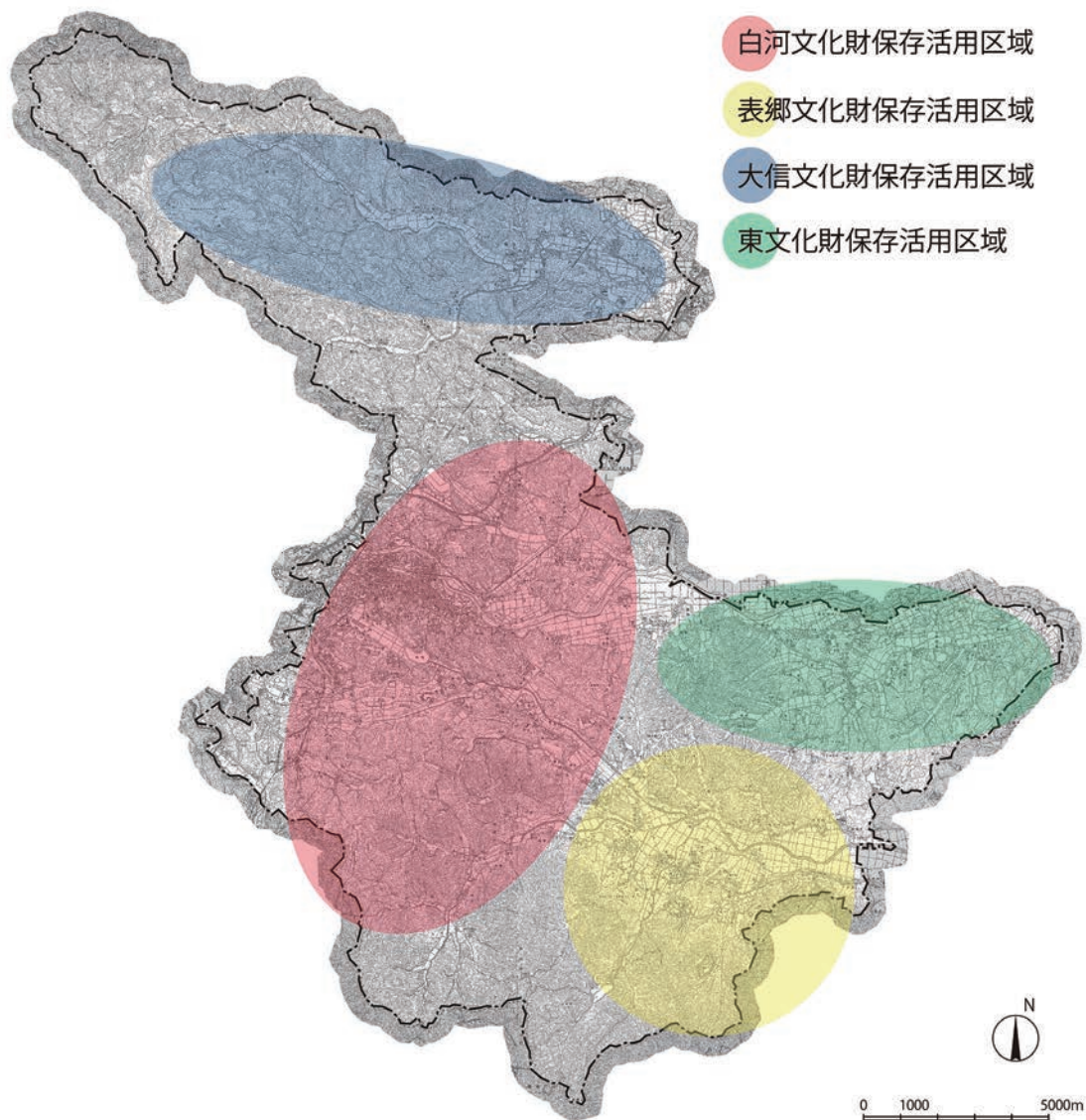
なお、第5章で設定した歴史文化の特徴では、テーマごとに文化財を広くとらえる枠組みとなります。それに対し、本章で設定する区域は、地域ごとに文化財を広く捉える枠組みとなります。この2つの枠組みを併用することで、地域に眠る未指定文化財を漏れなく掘り起こし、保存・継承・活用することを目指すものです。

なお、白河地域については、その範囲内に「白河市歴史的風致維持向上計画（第2期）」における重点区域が設定されています。同計画との調和を保つため、重点区域を包括するよう保存活用区域を設定します。

(3) 区域における基本的な保存・活用の方針

区域内の未指定文化財の悉皆調査を計画的に行っていきます。またその際には地域住民の参加や協力を得るなどして、文化財の保存・活用を地域づくりにいかせるよう努めます。

また、文化財の活用により地域の魅力発信の機会を創出し、地域間の交流や連携に繋げることを目指します。



4つの「文化財保存活用区域」の区域・位置

2 文化財保存活用区域

(1) 白河文化財保存活用区域

①概 要

江戸時代の城下町を中心に、古代から現代にいたるまでの白河地方の中心的な拠点が置かれた区域です。

江戸時代の白河藩の城下町は、現在も市の中心市街地を形成しており、地割による短冊型の土地利用がいまも行われており、町屋の名残を留める歴史的建造物が所在しています。また、それらの建造物群を舞台に江戸時代から続く「白河提灯まつり」や「白河だるま市」が行われ、南湖公園は現在でも行楽を目的とした様々な活動を行う人たちにぎわいを見せています。城下町は、歴史的建造物とそこで行われる人々の活動が一体となり、良好な市街地環境が形成されている白河文化財保存活用区域の核となるエリアです。

下野国境から白河の城下町へ通じる奥州街道沿いには、境の明神や宿場町である白坂など歴史ある風景が残され、戊辰戦争の戦場跡や慰霊碑なども点在しています。また、古代の検問所として設けられた白河関跡の周辺には、源義経にまつわる伝説がある庄司戻しの桜や関山、満願寺などがあり、松尾芭蕉ゆかりの地としても知られています。

また、城下町の東に位置する五箇地区には、古墳時代の白河地域における支配者層の本拠地が置かれ、古代白河郡の中心であったことを物語る古墳や寺院跡などの遺跡が集中しており、周辺の田園とともに美しい景観を形作っています。

この区域内には、「歴史文化の特徴」に挙げた多くのテーマに関連する文化財が所在しています。また、小峰城歴史館や白河市歴史民俗資料館など文化財の展示施設、市立図書館などの文化施設が点在しており、これらの施設や知名度の高い小峰城跡などの文化財を核として、文化財の保存・活用をはかる区域となっています。

なお、「白河市歴史的風致維持向上計画（第2期）」における重点区域「①城下町エリア」および「②南湖公園エリア」は、この保存活用区域に包含されます。

②主な文化財一覧

| 番号 | 指定状況 | 種 別 | 名 称 | 所 在 地 | 所有者等 |
|----|------|------------|--|-------------------------|------------|
| 1 | 国指定 | 史跡及び名勝 | 南湖公園 | 南湖ほか | 白河市ほか |
| 2 | 国指定 | 史 跡 | 白河関跡 | 旗宿関ノ森ほか | 白河神社・白河市ほか |
| 3 | 国指定 | 史 跡 | 白河舟田・本沼遺跡群（下総塚古墳・舟田中道遺跡・谷地久保古墳・野地久保古墳） | 舟田中道 本沼岩井戸 本沼野地久保 | 白河市ほか |
| 4 | 国指定 | 史 跡 | 白河官衙遺跡群（借宿庵寺跡） | 借宿株木 | 白河市ほか |
| 5 | 国指定 | 史 跡 | 小峰城跡 | 郭 内 | 白河市ほか |
| 6 | 国指定 | 史 跡 | 白川城跡 | 藤沢ほか | 白河市ほか |
| 7 | 国指定 | 重要文化財（古文書） | 白河結城家文書 | 郭 内 | 白河市 |

| 番号 | 指定状況 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|-----------------|-----------------------------------|-------|-------------|
| 8 | 県指定 | 重要文化財（建造物） | 松風亭蘿月庵（附）「蘿月」の書がある水盥「垂桜」の書がある掛軸 | 菅生館 | 南湖神社 |
| 9 | 県指定 | 重要文化財（彫刻） | 木造釈迦如来坐像 | 馬町 | 大統寺 |
| 10 | 県指定 | 重要有形民俗文化財 | 絹本着色受苦図（附）御用留帳 敷教条約 子孫繁盛手引草 老農茶話 | 向新蔵 | 常宣寺 |
| 11 | 県指定 | 重要無形民俗文化財 | 奥州白河歌念仏踊 | 天神町 | 奥州白河歌念仏踊振興会 |
| 12 | 市指定 | 重要文化財（建造物） | 共楽亭 | 南湖 | 白河市 |
| 13 | 市指定 | 重要文化財（建造物） | 旧小峰城太鼓櫓 | 郭内 | 白河市 |
| 14 | 市指定 | 重要文化財（絵画） | 絹本着色仏涅槃図（附）涅槃像惣壇中施主附諸入用記帳 | 中田 | 大統寺 |
| 15 | 市指定 | 重要文化財（絵画） | 十六善神の図 | 年貢町 | 龍蔵寺 |
| 16 | 市指定 | 重要文化財（工芸品） | 楯無鑑写 | 中田 | 鹿嶋神社 |
| 17 | 市指定 | 重要文化財（工芸品） | 白河だるまの原型 | 横町 | 個人 |
| 18 | 市指定 | 重要文化財（工芸品） | 鹿嶋神社神輿 | 大鹿島 | 鹿嶋神社 |
| 19 | 市指定 | 重要文化財（工芸品） | 木造扁額聖武皇帝御願所成就山満願寺 | 関辺 | 満願寺 |
| 20 | 市指定 | 重要文化財（歴史資料） | 南湖名勝図并詩歌 | 二番町 | （公財）藤田教育振興会 |
| 21 | 市指定 | 重要有形民俗文化財 | 千体仏堂奉納仏像群 | 中田 | 三番町 |
| 22 | 市指定 | 重要無形民俗文化財 | 鹿嶋神社神楽 | 大鹿島 | 鹿嶋神社 |
| 23 | 市指定 | 史跡 | 境の明神 | 白坂 | 境神社ほか |
| 24 | 市指定 | 史跡 | 白河藩大名家墓所（丹羽長重墓・松平直矩墓・松平基知墓・松平清照墓） | 円明寺ほか | 白河市ほか |
| 25 | 市指定 | 史跡 | 石阿弥陀の一里塚 | 白坂 | 白河市ほか |
| 26 | 市指定 | 史跡 | 庄司戻し桜（霊桜碑） | 表郷中野 | 中野区 |
| 27 | 市指定 | 史跡 | 一町仏供養碑（附）広瀬典の碑 | 旗宿 | 個人 |
| 28 | 市指定 | 史跡 | 天神山（附）天神神社 | 天神町 | 天神神社 |
| 29 | 市指定 | 天然記念物 | 乙姫桜 | 金屋町 | 妙閑寺 |
| 30 | 未指定 | 建造物（歴史的風致形成建造物） | 千駒酒造建造物群 | 年貢町 | 株式会社 |
| 31 | 未指定 | 建造物（歴史的風致形成建造物） | 渡邊だるま店建造物群 | 横町 | 個人 |
| 32 | 未指定 | 歴史資料 | 戊辰戦争石碑群 | 市内各所 | 個人ほか |
| 33 | 未指定 | 無形民俗 | 白河提灯祭り | 市内各所 | 総町参会 |
| 34 | 未指定 | 史跡 | 稲荷山古戦場跡 | 九番町 | 白河市ほか |
| 35 | 未指定 | 史跡 | 関山 | 関辺 | 満願寺 |

③区域における文化財保存・活用の課題

- ・歴史ある商家や寺社などが立ち並ぶエリアであり、建造物や美術工芸品などの有形文化財が多く集まっていますが、未だ把握されていないものや、詳細が明らかでない文化財が多く存在しています。
- ・国指定史跡については、^{こみねじょうあと}小峰城跡や南湖公園、白河関跡などを除くと、整備や情報発信などが十分に進んでいません。
- ・白河提灯まつりは、城下町を舞台にした市内最大規模の祭礼で、江戸時代以来の歴史を持っていますが、詳細な調査記録は行われていません。

・地域人口の減少により存続が難しくなりつつある行事が増えており、無形民俗文化財の継承が課題となっています。

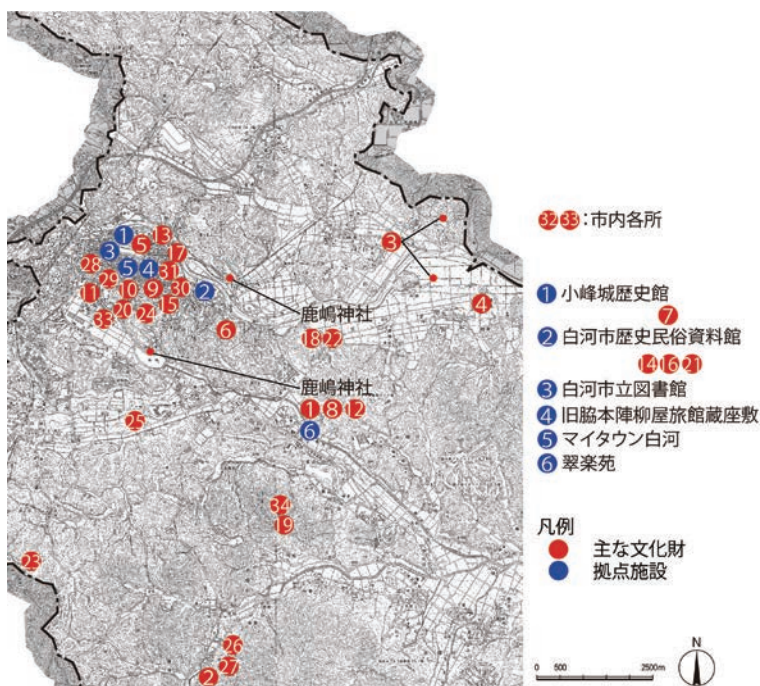
④区域における文化財保存・活用の方針

- ・未指定文化財の把握に向けて、地域住民の協力を得ながら調査を進めます。
- ・保存・活用に関する個別計画を策定済みの国指定史跡については、計画に沿って保存・活用を進めます。計画未策定の白川城跡、天王山遺跡などについても、遺跡の適切な保存と、その価値を正しく伝えるための整備を進めます。
- ・白河提灯まつりの記録調査を進めます。大規模かつ隔年で行われる祭礼のため、効果的な調査記録方法を検討しながら進める必要があります。
- ・継続が難しくなっている祭礼・行事の記録調査や、継続のための支援を進めます。

⑤拠点施設 ※（ ）内は施設に期待される機能

- 1) 小峰城歴史館（史跡小峰城や歴代城主に関する展示・資料保管）
- 2) 白河市歴史民俗資料館（白河の歴史文化に関する展示・資料収集）
- 3) 白河市立図書館（生涯学習拠点、郷土資料の収集、歴史文化に関するイベント等の開催）
- 4) 旧脇本陣柳屋蔵座敷（歴史的建造物を活用したイベント等の開催）
- 5) マイタウン白河（地域活動拠点、歴史文化に関する展示・イベント等の開催）
- 6) 翠楽苑（茶道文化の体験）

⑥区域図（No.は②表の番号と共通）



⑦重点的に行う措置

| No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | |
|------|----------------|--|---------------|-----------|--|-------------|------------|
| | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 |
| 1-1 | 建造物調査 | 市内の歴史的建造物調査を行う。計画期間内での調査成果を取りまとめ、報告書刊行を行う。 | 市所有者 | 市 | 把握調査 | 詳細調査 | 成果とりまとめ・刊行 |
| 1-2 | 美術工芸品等の調査 | 市内所在の絵画や古文書等について、所有者の協力を得ながら随時調査する。調査成果は、分野やコレクション等のまとまりにより報告書や目録・資料集としての刊行を将来的に検討する。具体的な調査対象として、次のようなものが挙げられる。 ・絵画・工芸品 ・古文書・城絵図 ・古写真・絵はがき等 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 1-3 | 石造物調査 | 市内各所に所在する石碑や灯籠、狛犬等、人々の歴史や信仰を物語る石造物の悉皆調査を行う。調査にあたっては、市民参加も検討する。調査成果は報告書として刊行する。 | 市各地域所有者 市民 | 市 | | 調査（表郷・白河地域） | 報告書刊行 |
| 1-4 | 社寺調査 | 市内の社寺所蔵文化財の悉皆調査を行う。成果は報告書として刊行する。 | 市所有者 | 市 | 調査（東・大信・白河地域） | | 報告書刊行 |
| 1-7 | 白河提灯まつりの調査 | 白河最大の祭礼である提灯まつり（鹿嶋神社祭礼渡御祭）について、資料や行事、祭りの山車や行列などの把握調査を行い、記録保存を図る。調査成果をとりまとめ、報告書を刊行する。文化財としての将来的な扱いについても検討する。 | 市所有団体 | 市 | 調査 | 報告書刊行 | 継続調査を実施 |
| 1-8 | 無形文化財調査 | 白河で営まれてきた生活文化（茶道、華道、書道、食文化、短歌、俳句など）に関する調査を行い、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | 調査・報告書刊行 | 随時調査実施 | |
| 1-9 | 市内重要遺跡の調査 | 詳細調査がなされていない市内の重要遺跡について、調査を順次行う。 | 市 | 市国 | 継続事業として実施 | | |
| 2-5 | 歴史的風致形成建造物指定事業 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき、白河の歴史的風致を形成するうえで重要な建造物を「歴史的風致形成建造物」として指定する。指定された歴史的建造物については、歴史的まちなみの構成要素として保存を図るとともに、調査によって文化財的な価値づけを行う。 | 市所有者 | 市 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき実施（令和3年～12年度） | | |
| 2-6 | 歴史的まちなみ修景事業 | 旧城下町エリアに所在する歴史ある商家や蔵などの建造物を修景整備する際に支援を行い、歴史的まちなみの保全を図っていく。 | 市所有者 | 市国 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき実施（令和3年～12年度） | | |
| 2-16 | 文化財防災体制の見直し | 指定文化財を中心に、消防設備等の見直しを行う。建造物など、特に火災等の被害が及びやすいものを優先し、段階的に行う。 | 市所有者 消防署 | 市 | 建造物見直し | 美作品見直し | 以後、随時見直し |
| 3-7 | 歴史民俗資料館講座の開催 | 白河の歴史文化をテーマに、毎年開催している。令和2年度は、全5回の講座4コースを開講し、市内外の参加者があり、白河の歴史文化に関する普及・発信を行っている。 | 市 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 3-8 | 郷土講演会の開催 | 白河の歴史文化に関する講演会を年1回程度行い、有識者の講話により歴史文化への理解を深める機会を提供する。 | 市有識者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 3-9 | 特別企画展・企画展開催事業 | 白河の歴史文化に関する特別企画展を年1回、企画展を年数回程度開催し、文化財を身近に感じながら歴史文化を学ぶ機会を提供する。特別企画展については展覧会図録を刊行して成果の公開・情報発信に努める。 | 市所有者 | 市国 財団等 | 継続事業として実施 | | |

※No.は第7章に対応

| No. | 措 置 | 措置の内容 | 取り組み 主体 | 想定 される 財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | |
|------|--------------------|---|------------|-----------------|--|-----------|------------|
| | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 |
| 3-12 | 小峰城史跡整備 事業 | 小峰城の石垣の保全や史跡保存のための修復を行うとともに、調査研究に基づき史跡の価値を正しく伝えるための整備を行う。事業は「整備基本計画」等の個別計画に基づいて進める。 | 市 | 市 国 寄付金 | 「整備基本計画」等の個別計画に基づいて実施 | | |
| 3-13 | 小峰城清水門復 元整備事業 | 小峰城の二之丸と本丸を繋ぐ清水門を歴史考古資料に基づいて復元し、城郭のさらなる魅力発信につなげる。令和6年（2024）度内の復元整備完了を目指す。 事業実施にあたって、「小峰城一石城主プロジェクト」を立ち上げ、市民や広く全国から復元費用の寄付を募るなど、参加型の事業を目指すとともに、小峰城や白河の歴史文化に関する情報の周知を図る。 | 市 | 市 寄付金 | 事業実施 | 完了 | |
| 3-14 | 旧小峰城太鼓櫓 等整備事業 | 小峰城の建造物として唯一遺存している旧小峰城太鼓櫓について、長期的保存と公開活用を図るため、解体移築および修復工事を行う。 | 市 | 市 国 寄付金 | 事業実施 | 完了 | |
| 3-15 | 南湖公園史跡整 備事業 | 史跡及び名勝としての価値をさらに高めるため、散策者用園路の整備や、水環境の調査、樹木管理、自動車の排ガス影響の抑制のための公園内道路の車両通行抑制策検討など各種整備を行う。事業は「保存管理計画」等の個別計画に基づいて進める。 | 市 | 市 国 | 「保存管理計画」等の個別計画に基づいて実施 | | |
| 3-17 | ぐるり白河文化 遺産めぐり事業 | 市内の文化財や歴史的なまちなみをめぐるまち歩きイベントを開催し、歴史文化の魅力を発信する。 | 市 所有者 | 市 参加者 | 「白河市歴史的風致維持向上計画」（第2期）に基づき実施（令和3年～12年度） | | |
| 3-18 | ユニークベ ニユ어의推進 | 小峰城跡等、史跡や歴史的建造物を活用したイベント等を開催し、文化財の活用と魅力発信を行う。 | 市 | 市 国 | 継続事業として実施 | | |
| 3-20 | 小峰城VR・AR の作成・拡充 | 小峰城跡では、かつての城の様子を再現したVR・ARコンテンツが設置されているが、その情報の更新や拡充を行う。また、タブレット貸出等による普及策を検討する。 | 市 | 市 国 | 内容検討 | 実施 | 完了 |

※No.は第7章に対応

(2) 表郷文化財保存活用区域

①概 要

白河市南東部の表郷地域のうち、白河から棚倉へ通じる棚倉（たなぐら）街道沿いおよび社川流域を中心とする区域です。社川の流れと田園が美しい景観をおりなしています。

街道沿いには、建鉾山が「神奈備型」と呼ばれる円錐形の美しい山容を見せています。建鉾山は古墳時代の祭祀遺跡でもあり、豪族居館跡が発見された三森遺跡とともに、古くから営まれてきた地域の歴史を示す遺跡です。また、街道沿いの集落では河東田牛頭天王祭や中ノ沢権現梵天祭など、多くの祭礼・行事が伝承されています。

犬神地区から現在の表郷公民館地内に移築された鈴木家住居は、江戸時代中期から後期の農家建築として貴重です。屋内には表郷地域で集められた民具が展示されており、小学校の学習などに活用されています。

また、八幡宮下熊野講が伝承される社八幡神社や、室町時代の絵巻物である「源翁和尚行状縁起」を所蔵し、殺生石の伝説がある常在院、室町時代の地藏十王像を安置する北ノ内地蔵堂など、長い歴史を持つ社寺等も点在しています。

また、金山には、カヤツリグサ科の水生植物で、北半球で唯一ここだけに自生するとされるビャッコイの自生地があり、自然環境にも恵まれています。

近代の遺産として、現在はバス専用道路として使われている旧白棚鉄道線路跡があり、棚倉街道と並走している点も、地域の景観を特徴づけています。

②主な文化財一覧

| 番号 | 指定状況 | 種 別 | 名 称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|-------------|------------------------------|-------|------------|
| 1 | 県指定 | 重要文化財（絵画） | 紙本著色源翁和尚行状縁起 | 表郷中寺 | 常在院 |
| 2 | 県指定 | 重要文化財（彫刻） | 木造源翁和尚坐像 | 表郷中寺 | 常在院 |
| 3 | 県指定 | 重要文化財（工芸品） | 金銅装笈（附）五智如来像 地藏菩薩像 文殊菩薩像 御正体 | 表郷金山 | 犬神区 |
| 4 | 県指定 | 天然記念物 | ビャッコイ自生地 | 表郷金山 | 国土交通省 |
| 5 | 市指定 | 重要文化財（建造物） | 鈴木家住居 | 表郷番沢 | 白河市 |
| 6 | 市指定 | 重要文化財（彫刻） | 木造地藏菩薩立像（附）木造十王坐像 | 表郷小松 | 小松町内会 |
| 7 | 市指定 | 重要文化財（書跡） | 源翁能照大和尚行状之記 | 表郷中寺 | 常在院 |
| 8 | 市指定 | 重要文化財（考古資料） | 建鉾山祭祀遺跡出土品 | 表郷三森 | 個人 |
| 9 | 市指定 | 重要有形民俗文化財 | 勝善神社の馬産信仰資料 | 表郷社田 | 個人 |
| 10 | 市指定 | 重要無形民俗文化財 | 河東田牛頭天王祭 | 表郷河東田 | 河東田区 |
| 11 | 市指定 | 重要無形民俗文化財 | 八幡宮下熊野講 | 表郷八幡 | 社八幡神社 |
| 12 | 市指定 | 重要無形民俗文化財 | 中ノ沢権現梵天祭 | 表郷梁森 | 梁森区（梁森青年会） |
| 13 | 市指定 | 史 跡 | 建鉾山祭祀遺跡 | 表郷高木 | 都々古山神社ほか |
| 14 | 市指定 | 史 跡 | 磨崖三十三観音 | 表郷梁森 | 都々古和気神社ほか |
| 15 | 未指定 | 史 跡 | 三森遺跡 | 表郷三森 | 個人 |
| 16 | 市指定 | 天然記念物 | 山藤 | 表郷番沢 | 峰全院 |
| 17 | 市指定 | 天然記念物 | 五葉松 | 表郷社田 | 社田区 |
| 18 | 市指定 | 天然記念物 | 楓（月夜見の桜） | 表郷三森 | 三森区 |
| 19 | 未指定 | 有形民俗 | 表郷地域の農業生産用具 | 表郷金山 | 白河市 |
| 20 | 未指定 | 無形民俗 | 河東田のしめ縄製作技術 | 市内各所 | 河東田区 |

※詳細リストは巻末に掲載

③区域における文化財保存・活用の課題

- ・未指定文化財については、『表郷村史』編さん時の調査である程度把握されていますが、美術工芸品や古文書などの有形文化財、各地域で行われている祭礼・行事など、未だ十分に把握されていないものがあります。
- ・地域人口の減少により存続が難しくなりつつある行事が増えており、無形民俗文化財の継承が課題となっています。
- ・全国的な希少種であるビャッコイ自生地や、東日本の代表的な祭祀遺跡である建鉾山祭祀遺跡や関連する三森遺跡については、調査研究により、改めて価値づけを行う必要があります。

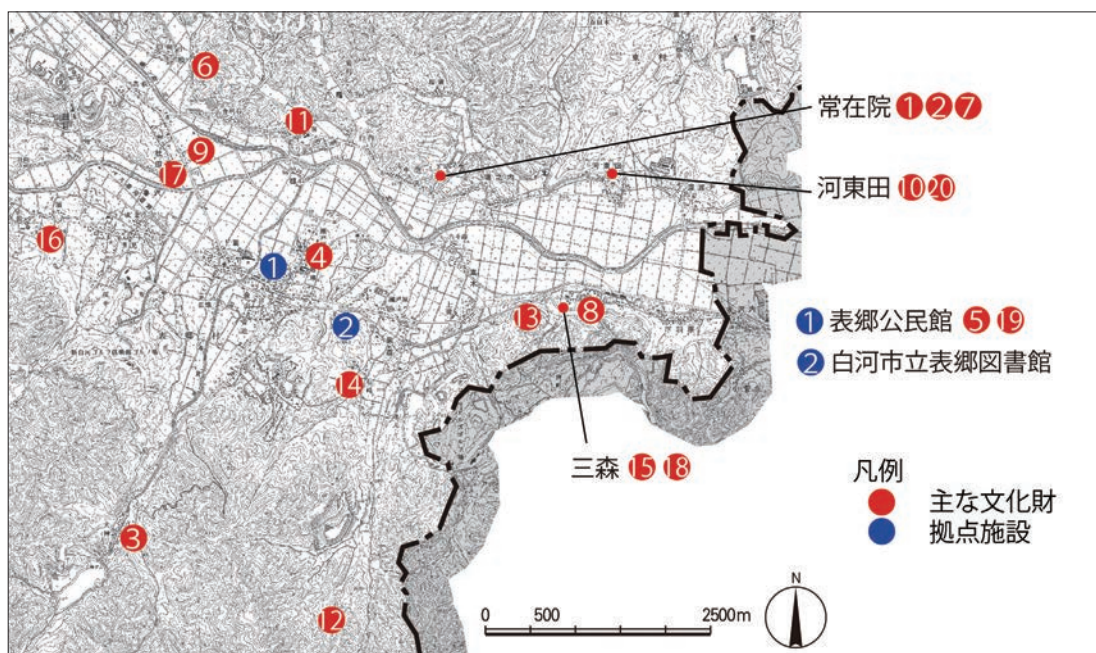
④区域における文化財保存・活用の方針

- ・未指定文化財の把握に向けて、地域住民の協力を得ながら調査を進めます。
- ・継続が難しくなっている祭礼・行事の記録調査や、継続のための支援を進めます。
- ・ビャッコイ自生地や建鉾山祭祀遺跡・三森遺跡については、国指定をみすえた詳細調査を進めます。

⑤拠点施設 ※（ ）内は施設に期待される機能

- 1) 表郷公民館（鈴木家住居）（民具等展示、昔の暮らし体験施設）
- 2) 白河市立表郷図書館（生涯学習拠点、地域資料の収集）

⑥区域図（No.は表の番号と共通）



⑦重点的に行う措置

| No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | |
|------|----------------|--|---------------|---------|-------------------------|-------------|------------|
| | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 |
| 1-2 | 美術工芸品等の調査 | 市内所在の絵画や古文書等について、所有者の協力を得ながら随時調査する。調査成果は、分野やコレクション等のまとまりにより報告書や目録・資料集としての刊行を将来的に検討する。具体的な調査対象として、次のようなものが挙げられる。 ・絵画・工芸品 ・古文書・城絵図 ・古写真・絵はがき等 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 1-3 | 石造物調査 | 市内各所に所在する石碑や灯籠、狛犬等、人々の歴史や信仰を物語る石造物の悉皆調査を行う。調査にあたっては、市民参加も検討する。調査成果は報告書として刊行する。 | 市各地域所有者 市民 | 市 | | 調査（表郷・白河地域） | 報告書刊行 |
| 1-4 | 社寺調査 | 市内の社寺所蔵文化財の悉皆調査を行う。成果は報告書として刊行する。 | 市所有者 | 市 | | 調査（表郷地域） | 報告書刊行 |
| 1-5 | 民俗に関する総合調査 | 地域ごとに伝承されている生活文化を体系的に把握し、記録するための民俗調査を実施する。成果は地域ごとにまとめ、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | | 調査・刊行（表郷地域） | |
| 1-6 | 無形民俗文化財の調査・記録 | 市内の各地域で行われている祭礼・行事について、調査記録を行う。毎年継続的に聞き取りや写真・映像による記録を行う。 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 2-3 | ビャッコイ自生地保全事業 | 貴重種であるビャッコイの保全と環境保護のため、定期的な清掃などの環境維持活動を行うとともに、今後の保全のための調査や保護の体制づくりを行う。 | 市県地域 | 市国 | 調査・体制整備 | 保護実施 | 期間後も継続 |
| 1-8 | 無形文化財調査 | 白河で営まれてきた生活文化（茶道、華道、書道、食文化、短歌、俳句など）に関する調査を行い、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | 調査・報告書刊行 | 随時調査実施 | |
| 1-9 | 市内重要遺跡の調査 | 詳細調査がなされていない市内の重要遺跡について、調査を順次行う。 | 市 | 市国 | 継続事業として実施 | | |
| 2-11 | 無形民俗文化財等支援事業 | 地域で継承されてきた無形民俗文化財の保存継承について毎年支援を行う。 | 市地域所有団体 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 2-13 | 無形民俗文化財等記録作成事業 | 市内各地域に残る伝統行事などの無形民俗文化財現状について調査を実施し、聞き取りや写真・映像等の記録を毎年計画的に行う。 | 市地域所有団体 | 市 | 継続事業として実施 | | |

※No.は第7章に対応

(3) 大信文化財保存活用区域

① 概要

市内北部を通る国道294号（旧会津街道）と隈戸川流域を中心とした、緑豊かな里山の景観が広がる区域です。

白河と会津を結ぶ会津街道は、近世の重要な交通路として栄え、上小屋には宿場が置かれました。また、街道を東西に横切る隈戸川に沿って矢吹町へ通じる道が古くから開かれており、これらの道沿いにも集落が形成されてきました。

矢吹町や天栄村につながる道が交わる町屋地区には、町屋遺跡や道目木遺跡などの遺跡が確認されており、古くから人の営みがあったことをうかがわせます。これらの遺跡からは、縄文土器や平安時代の墨書土器など貴重な遺物が多く出土しています。

近世の会津街道は、会津から長沼を経て白河の奥州街道に合流する街道で、会津藩主をはじめとして越後国の新発田藩主、村上藩主など日本海側の諸大名が参勤交代を行う際にも利用されていたため、五街道に次ぐ脇街道として重要視されていました。

街道沿いの集落のなかでも、上小屋地区は、本陣や問屋、旅籠が置かれ、この街道の主要な宿場として栄えました。上小屋地区には、天神乳銀杏・モミなどの古木があるほか、近隣の十日市集落には十日市のちょうちん祭りが伝わっています。

② 主な文化財一覧

| 番号 | 指定状況 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|-------------|-------------|-------|--------|
| 1 | 県指定 | 重要文化財（工芸品） | 熊野神社御正体六面 | 大信下小屋 | 熊野神社 |
| 2 | 県指定 | 天然記念物 | 町屋の二本カヤ | 大信町屋 | 個人 |
| 3 | 市指定 | 重要文化財（考古資料） | 磨消縄文土器 | 大信増見 | 白河市 |
| 4 | 市指定 | 重要文化財（考古資料） | 建長の板碑 | 大信中新城 | 個人 |
| 5 | 市指定 | 天然記念物 | 天神乳銀杏 | 大信隈戸 | 個人 |
| 6 | 市指定 | 天然記念物 | 天神モミ | 大信隈戸 | 個人 |
| 7 | 未指定 | 工芸品 | 長慶寺半鐘 | 大信下小屋 | 長慶寺 |
| 8 | 未指定 | 工芸品 | 正福寺半鐘 | 大信下小屋 | 正福寺 |
| 9 | 未指定 | 有形民俗 | 大信地域の農業生産用具 | 大信町屋 | 白河市 |
| 10 | 未指定 | 有形民俗 | 大信地域の生活用具 | 大信町屋 | 白河市 |
| 11 | 未指定 | 無形民俗 | 十日市ちょうちん祭 | 大信隈戸 | 十日市町内会 |
| 12 | 未指定 | 無形民俗 | 盆踊（中新城） | 大信中新城 | 中新城町内会 |
| 13 | 未指定 | 無形民俗 | 数珠繰り（中新城） | 大信中新城 | 中新城町内会 |
| 14 | 未指定 | 無形民俗 | キウリ天王祭（下新城） | 大信下新城 | 下新城町内会 |
| 15 | 未指定 | 無形民俗 | 数珠繰り（下新城） | 大信下新城 | 下新城町内会 |
| 16 | 未指定 | 無形民俗 | 上新城の数珠繰り | 大信上新城 | 上新城町内会 |
| 17 | 未指定 | 無形民俗 | 町屋の数珠繰り | 大信町屋 | 町屋町内会 |
| 18 | 未指定 | 史跡 | 町屋遺跡 | 大信町屋 | 個人ほか |

※詳細リストは巻末に掲載

③区域における文化財保存・活用の課題

- ・区域内の未指定文化財については、『大信村史』編さん時の調査成果があるものの、社寺に残る文化財や、個人や地域で所蔵する美術工芸品・古文書などの有形文化財については、未把握のものも多く残されていると考えられます。
- ・地域人口の減少により、存続が難しくなりつつある行事が増えるなど、無形民俗文化財の継承が課題となっています。

④区域における文化財保存・活用の方針

- ・未指定文化財の把握に向けて、地域住民の協力を得ながら調査を進めます。
- ・継続が難しくなっている祭礼・行事の記録調査や、継続のための支援を進めます。

⑤拠点施設 ※（ ）内は施設に期待される機能

- 1) 中山義秀記念文学館・白河市立大信図書館（生涯学習拠点、歴史文化の展示）
- 2) ふるさと文化伝承館（地域民俗資料の保管・展示）

⑥区域図（No.は表の番号と共通）



⑦重点的に行う措置

| No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | |
|------|----------------|--|---------------|---------------|-------------------------|-----------|------------|
| | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 |
| 1-2 | 美術工芸品等の調査 | 市内所在の絵画や古文書等について、所有者の協力を得ながら随時調査する。調査成果は、分野やコレクション等のまとまりにより報告書や目録・資料集としての刊行を将来的に検討する。具体的な調査対象として、次のようなものが挙げられる。 ・絵画・工芸品 ・古文書・城絵図 ・古写真・絵はがき等 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 1-3 | 石造物調査 | 市内各所に所在する石碑や灯籠、狛犬等、人々の歴史や信仰を物語る石造物の悉皆調査を行う。調査にあたっては、市民参加も検討する。調査成果は報告書として刊行する。 | 市各地域所有者 市民 | 市 | 調査（東・大信地域） | | 報告書刊行 |
| 1-4 | 社寺調査 | 市内の社寺所蔵文化財の悉皆調査を行う。成果は報告書として刊行する。 | 市所有者 | 市 | 調査（東・大信・白河地域） | | 報告書刊行 |
| 1-5 | 民俗に関する総合調査 | 地域ごとに伝承されている生活文化を体系的に把握し、記録するための民俗調査を実施する。成果は地域ごとにまとめ、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | 調査・刊行（東・大信地域） | | |
| 1-6 | 無形民俗文化財の調査・記録 | 市内の各地域で行われている祭礼・行事について、調査記録を行う。毎年継続的に聞き取りや写真・映像による記録を行う。 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 1-8 | 無形文化財調査 | 白河で営まれてきた生活文化（茶道、華道、書道、食文化、短歌、俳句など）に関する調査を行い、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | 調査・報告書刊行 | 随時調査実施 | |
| 2-11 | 無形民俗文化財等支援事業 | 地域で継承されてきた無形民俗文化財の保存継承について毎年支援を行う。 | 市地域所有団体 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 2-13 | 無形民俗文化財等記録作成事業 | 市内各地域に残る伝統行事などの無形民俗文化財現状について調査を実施し、聞き取りや写真・映像等の記録を毎年計画的に行う。 | 市地域所有団体 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 3-5 | 指定文化財看板作成事業 | 指定文化財のうち、現地解説看板が未整備のものについて、毎年1～2件程度の設置を行う。 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 3-9 | 特別企画展・企画展開催事業 | 白河の歴史文化に関する特別企画展を年1回、企画展を年数回程度開催し、文化財を間近に感じながら歴史文化を学ぶ機会を提供する。特別企画展については展覧会図録を刊行して成果の公開・情報発信に努める。 | 市所有者 | 市 国 財団等 | 継続事業として実施 | | |

※No.は第7章に対応

(4) 東文化財保存活用区域

①概要

市内東部、石川街道および水戸街道沿いを中心とする区域です。

この地域に多く確認されている縄文時代から古代にかけての遺跡からは、古くから人々がこの地で集落を営んできたことが分かります。

江戸時代の文化6年(1809)以降、越後高田藩の飛領を治める陣屋が置かれた釜子は、水戸城下から矢吹へ至る水戸街道の宿場町であり、水戸街道と石川街道が交わる交通の要衝でした。

釜子を中心とした一帯には、街道に沿って集落が形成されてきました。寛永12年(1635)の開山と伝えられる長伝寺や、樹齢300年以上とされる枝垂桜のある満徳寺など、歴史のある寺院が点在する地区でもあります。

区域内には、隣町である浅川町の石工・小松寅吉による狛犬などの特色ある石造物が多く残っており、隣接する東白川郡との交流の足跡といえます。

②主な文化財一覧

| 番号 | 指定状況 | 種別 | 名称 | 所在地 | 所有者等 |
|----|------|------------|--------------|-------|---------------|
| 1 | 市指定 | 重要文化財(建造物) | 日吉神社 | 東蕪内 | 蕪内区 |
| 2 | 市指定 | 重要文化財(彫刻) | 鹿島神社の神殿の彫刻 | 東下野出島 | 下野出島区 |
| 3 | 市指定 | 重要文化財(彫刻) | 木造菩薩形立像 | 東下野出島 | 坂本町内会 |
| 4 | 市指定 | 史跡及び名勝 | 矢越の森 | 東釜子 | 釜子区 |
| 5 | 市指定 | 天然記念物 | 満徳寺のしだれ桜 | 東上野出島 | 満徳寺 |
| 6 | 市指定 | 天然記念物 | たらよの木 | 東深仁井田 | 個人 |
| 7 | 市指定 | 天然記念物 | 石原のしだれ桜 | 東下野出島 | 石原区 |
| 8 | 未指定 | 彫刻 | 墓碑の彫刻(小松寅吉作) | 東下野出島 | 神宮寺 |
| 9 | 未指定 | 彫刻 | 狛犬(小松寅吉作) | 東下野出島 | 鹿島神社 |
| 10 | 未指定 | 彫刻 | 石馬像(小松寅吉作) | 東下野出島 | 坂本観音堂 |
| 11 | 未指定 | 彫刻 | 石祠(小松寅吉作) | 東上野出島 | 佐久間稲荷神社 |
| 12 | 未指定 | 彫刻 | 墓碑の彫刻(小松寅吉作) | 東下野出島 | 神宮寺 |
| 13 | 未指定 | 彫刻 | 狛犬(小林和平作) | 東上野出島 | 近津神社 |
| 14 | 未指定 | 彫刻 | 狛犬(小林和平作) | 東栃本 | 角折神社 |
| 15 | 未指定 | 彫刻 | 木造十一面観音像ほか8件 | 東釜子 | 長伝寺 |
| 16 | 未指定 | 工芸 | 長伝寺梵鐘 | 東釜子 | 長伝寺 |
| 17 | 未指定 | 有形民俗 | 東地域の農業生産用具 | 東釜子 | 白河市 |
| 18 | 未指定 | 有形民俗 | 東地域の生活用具 | 東釜子 | 白河市 |
| 19 | 未指定 | 無形民俗 | 盆踊(釜子) | 東釜子 | 釜子統一青年会 |
| 20 | 未指定 | 無形民俗 | 琴平神社奉納相撲 | 東釜子 | 琴平神社奉納相撲実行委員会 |

※詳細リストは巻末に掲載

③区域における文化財保存・活用の課題

- ・社寺に残る文化財や、個人や地域で所蔵する美術工芸品や古文書など、各種有形文化財については未把握のものや、未調査のものが多く残されていると考えられます。また『東村史』は昭和51年に刊行されており、刊行から時間を経ていることや、文化財の紹介が一部にとどまっていることから、所在する文化財の全体像が不明であり、現状確認や再調査を要するものが多くあります。
- ・地域人口の減少により、存続が難しくなりつつある行事が増えるなど、無形民俗文化財の継承が課題となっています。

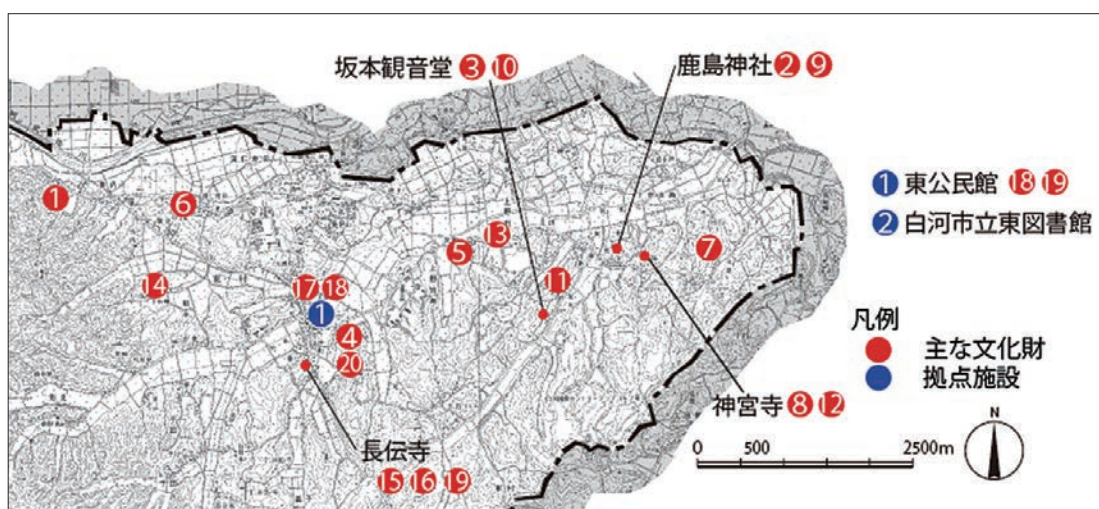
④区域における文化財保存・活用の方針

- ・未指定文化財の把握に向けて、地域住民の協力を得ながら調査を進めます。また、社寺等に所蔵される文化財の悉皆調査、旧村史に掲載されている文化財の現状確認調査などを進めます。
- ・継続が難しくなっている祭礼・行事の記録調査や、継続のための支援を進めます。

⑤拠点施設 ※（ ）内は施設に期待される機能

- 1) 東公民館（生涯学習拠点、考古・民増資料等の保管・展示）
- 2) 白河市立東図書館（生涯学習拠点、地域資料の収集）

⑥区域図（No.は表の番号と共通）



⑦重点的に行う措置

| No. | 措置 | 措置の内容 | 取り組み主体 | 想定される財源 | 実施期間（1～10年目） および実施内容 | | |
|------|----------------|--|---------------|---------|-------------------------|-----------|------------|
| | | | | | 前期 1～4 | 中期 5～7 | 後期 8～10 |
| 1-2 | 美術工芸品等の調査 | 市内所在の絵画や古文書等について、所有者の協力を得ながら随時調査する。調査成果は、分野やコレクション等のまとまりにより報告書や目録・資料集としての刊行を将来的に検討する。具体的な調査対象として、次のようなものが挙げられる。 ・絵画・工芸品 ・古文書・城絵図 ・古写真・絵はがき等 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 1-3 | 石造物調査 | 市内各所に所在する石碑や灯籠、狛犬等、人々の歴史や信仰を物語る石造物の悉皆調査を行う。調査にあたっては、市民参加も検討する。調査成果は報告書として刊行する。 | 市各地域所有者 市民 | 市 | 調査（東・大信地域） | | 報告書刊行 |
| 1-4 | 社寺調査 | 市内の社寺所蔵文化財の悉皆調査を行う。成果は報告書として刊行する。 | 市所有者 | 市 | 調査（東・大信・白河地域） | | 報告書刊行 |
| 1-5 | 民俗に関する総合調査 | 地域ごとに伝承されている生活文化を体系的に把握し、記録するための民俗調査を実施する。成果は地域ごとにまとめ、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | 調査・刊行（東・大信地域） | | |
| 1-6 | 無形民俗文化財の調査・記録 | 市内の各地域で行われている祭礼・行事について、調査記録を行う。毎年継続的に聞き取りや写真・映像による記録を行う。 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 1-8 | 無形文化財調査 | 白河で営まれてきた生活文化（茶道、華道、書道、食文化、短歌、俳句など）に関する調査を行い、報告書として刊行する。 | 市各地域 | 市 | 調査・報告書刊行 | 随時調査実施 | |
| 2-11 | 無形民俗文化財等支援事業 | 地域で継承されてきた無形民俗文化財の保存継承について毎年支援を行う。 | 市各地域所有団体 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 2-13 | 無形民俗文化財等記録作成事業 | 市内各地域に残る伝統行事などの無形民俗文化財現状について調査を実施し、聞き取りや写真・映像等の記録を毎年計画的に行う。 | 市各地域所有団体 | 市 | 継続事業として実施 | | |
| 3-5 | 指定文化財看板作成事業 | 指定文化財のうち、現地解説看板が未整備のものについて、毎年1～2件程度の設置を行う。 | 市所有者 | 市 | 継続事業として実施 | | |

※No.は第7章に対応

第9章 保存・活用の推進体制

1 現状と課題

(1) 市担当課の体制

市の文化財行政は、平成31年度からは市長部局の所管となり、令和3年度現在は建設部文化財課が担当しています。文化財課は文化財保護業務と文化財の展示施設である白河市歴史民俗資料館及び小峰城歴史館の運営業務、埋蔵文化財関係業務を兼ねており、市の文化財関係業務のすべてを所管しています。

これらの業務を担当するにあたり、課内には管理・事務職員5名のほか専門職員として学芸員(歴史・美術・民俗)3名および埋蔵文化財専門職員3名の計11名を配置しています。

しかし、所管業務が多岐にわたることから、体制のさらなる充実が求められます。

(2) 庁内各課との連携体制

文化財の保存・活用にあたっては、都市計画・文化振興・観光・教育など、関係業務を所管する庁内他部局との連携を欠かすことができません。お互いの業務内容と目的を把握したうえで、連携して文化財の保存・活用を進めていく必要があります。

(3) 市民との連携体制

所有者はもちろん、文化財保護指導委員の選任、学生・市民有志などさまざまな立場の人々に協力を得るなどして、官・民・地域総がかりで文化財を保存・活用していく体制づくりを図る必要があります。

2 文化財保存・活用の推進体制

上記の課題をもとに、以下のような体制で、文化財の保存・活用を推進していきます。

(1) 市担当課の体制

文化財課の所管業務は、文化財保護、史跡等維持管理、白河市歴史民俗資料館等の展示・管理運営・資料管理、教育普及、調査研究、付随する事務など、活動が多岐にわたっているため、今後、業務分担や状況に合わせた体制の充実を図っていきます。また、文化財に関する専門的な知識やノウハウの継承のため、計画的な職員の配置を行っていきます。

(2) 庁内の連携体制

以下のように各課の役割を整理したうえで、互いに連携しながら文化財の保存・活用策を進めていきます。

| 課 所 名 | 協力・分担体制 |
|----------------|--|
| 建設部まちづくり推進課 | 「歴史的風致維持向上計画」に基づく歴史的建造物の保存・活用等、歴史まちづくりに関する諸事業 |
| 建設部都市計画課 | 「白河市景観計画」に基づく歴史的景観の保全、南湖湖畔店舗の歴史的風致の維持、小峰城跡・南湖公園の管理 |
| 市長公室文化振興課 | 芸術文化の振興 |
| 市民生活部生活防災課 | 地域防災計画に基づく文化財防火デーの実施や防災体制の整備 |
| 産業部観光課 | 史跡等文化財を活用したユニークメニューなどの開催・促進 |
| 産業部農林整備課 | 南湖公園の森林保全（松くい虫防除） |
| 教育委員会学校教育課 | 歴史・文化再発見事業による歴史文化の教育普及 |
| 教育委員会生涯学習スポーツ課 | 講座等を通じた白河の歴史文化に関する生涯学習の促進 |
| 市立図書館・公民館 | 講座等を通じた白河の歴史文化に関する生涯学習の促進 |
| 市内小中学校 | 文化財や展示施設の見学、歴史文化にかかる出前授業等の実施・促進 |

（3）委員会・有識者との連携

市文化財保護審議会をはじめとする市設置の委員会、および外部の研究施設等と連携し、文化財に関する調査研究、保存・活用の方針などに関する審議・助言を得ながら、文化財の適切な保存・活用を目指します。

| 委員会など名称 | 文化財保存・活用に対する役割 |
|-------------------|-----------------------------------|
| 白河市文化財保護審議会 | 文化財の保存・活用に関する調査審議および建議 |
| 小峰城跡整備指導委員会 | 史跡小峰城跡の史跡整備にかかる指導助言 |
| 小峰城跡石垣検討委員会 | 史跡小峰城跡の石垣修復に関する指導助言 |
| 南湖公園整備指導委員会 | 史跡及び名勝南湖公園の史跡整備にかかる指導助言 |
| 天王山遺跡調査検討委員会 | 史跡天王山遺跡の保存管理及び調査に関する指導助言 |
| 白河市歴史民俗資料館等運営協議会 | 白河市歴史民俗資料館・小峰城歴史館の運営について協議 |
| 白河市歴史的風致維持向上計画協議会 | 白河市歴史的風致維持向上計画に基づく歴史まちづくり事業に関する協議 |
| 白河市景観審議会 | 「白河市景観計画」に基づく歴史的景観の保全に関する協議 |

(4) 県との連携

| 連携課所 | 概 要 |
|-------------------|---|
| 福島県教育庁文化財課 | 国・県指定文化財の諸業務について所管するとともに、県文化財大綱に則った県内市町村との連絡・協力、県と市町村で締結した「災害時相互応援協定」に基づく文化財レスキュー活動を所管している。県の活動は市の文化財行政とも密接に関わってくるため、常に緊密な連携を図っていく。 |
| 福島県文化財センター 白河館 | 展示活動の相互協力、文化財の調査や防災などに関する情報交換等 |
| 福島県立美術館・博物館 | 調査研究情報の交換、イベント等での協力、展示資料の貸借 |

(5) 市民・団体との連携

| 役割分担 | 連携課所 | 概 要 |
|------------------------|--------------------------------|--|
| 市内で文化財の公開普及を行う民間団体の美術館 | 藤田記念博物館 (公益財団法人 藤田教育振興会) | 展示活動や調査研究の相互協力、文化財の調査や防災などに関する情報交換等 |
| 文化財の公開・活用にかかる市内組織・団体 | 白河観光物産協会 | 観光イベント等での協力、情報交換 |
| | 白河商工会議所 | 地域におけるイベントや文化財に関する情報発信 |
| | NPO法人 カルチャー ネットワーク | 文化財や展示に関する情報の広報についての協力など |
| | NPO法人 しらかわ建築サ ポートセンター | 歴史的風致形成建造物をはじめとした市内歴史的建造物の保存修復、被災時の修復等に係る情報交換、技術伝承活動など |
| 文化財の防災に関する団体 | 白河消防署・各地域の地元消防団 | 史跡や建造物などの文化財に対する防災体制や設備の相談等 |
| 文化財の保存・維持管理に関する市民等 | 文化財所有者・所有団体・各地域(町内会等) | 所有文化財の保存管理・防災体制の確認や相談、活用についての連携・相談 |
| | 奥州白河歌念仏踊振興会 | 県指定文化財「奥州白河歌念仏踊」の保存、地元中学生への継承活動等 |

| 役割分担 | 連携課所 | 概 要 |
|-----------------|---------------|---------------------------------|
| 文化財の活用に関する市民団体等 | 白河茶道連盟 | 茶道文化の継承、文化財を活用した茶会等のイベント開催 |
| | NPO法人狛犬ネットワーク | 市内石造物に関する情報交換など |
| | ツーリズムガイド白河 | 小峰城跡など文化財のボランティアガイド |
| | 表郷村の案内人 | 鈴木家住居（市指定文化財）のガイド、表郷地域の文化財情報の普及 |

3 評価方式

市文化財保護審議会において、毎年度の計画の進捗を報告し、計画内容と現状を比較検討の上、評価を行うとともに、計画変更・修正の必要性やその内容についても審議します。審議会の協議をふまえて、必要があれば計画の修正を適宜行います。

資 料

- ・ 指定文化財リスト
- ・ 未指定文化財リスト
- ・ 報告書等刊行物リスト

指定文化財リスト

国指定文化財

令和3年4月1日現在

| No. | 指定別 | 名 称 | 所在地 | 所有者 | 指定年月日 | 備 考 |
|-----|----------------|--|-------------------------|---------------|---|----------|
| 1 | 重要文化財 (古文書) | 白河結城家文書 | 郭内 | 白河市 | 平成8年6月27日 | 小峰城歴史館保管 |
| 2 | 史跡及び 名勝 | 南湖公園 | 南湖ほか | 白河市ほか | 大正13年12月9日 昭和59年6月18日 (追加) 平成21年2月12日 (追加) 平成27年10月7日 (追加) | |
| 3 | 史跡 | 白河関跡 | 旗宿関ノ森ほか | 白河神社 白河市ほか | 昭和41年9月12日 | |
| 4 | 史跡 | 白河舟田・本沼遺跡群 (下総塚古墳・舟田中道遺跡・谷地久保古墳・野地久保古墳) | 舟田中道 本沼岩井戸 本沼野地久保 | 白河市ほか | 平成17年7月14日 平成22年8月5日 (追加) | |
| 5 | 史跡 | 白河官衙遺跡群 (借宿庵寺跡) | 借宿株木 | 白河市ほか | 昭和59年7月21日 平成22年8月5日 (追加、指定名称変更) | |
| 6 | 史跡 | 小峰城跡 | 郭内 | 白河市ほか | 平成22年8月5日 平成24年9月19日 (追加) 平成26年3月18日 (追加) 令和3年3月26日 (追加) | |
| 7 | 史跡 | 白川城跡 | 藤沢ほか | 白河市ほか | 平成28年10月3日 | |
| 8 | 史跡 | 天王山遺跡 | 大岩倉ほか | 個人ほか | 令和3年10月11日 | |

国認定 (重要美術品)

| No. | 指定別 | 名 称 | 所在地 | 所有者 | 指定年月日 | 備 考 |
|-----|----------------|---------------|------|-----|------------|----------|
| 9 | 重要美術品 (工芸品) | 刀 無銘 (名物横須賀江) | 郭内 | 白河市 | 昭和9年12月20日 | 小峰城歴史館保管 |
| 10 | 重要美術品 (工芸品) | 鍍金装笈 | 金屋町 | 龍蔵寺 | 昭和14年2月22日 | |
| 11 | 重要美術品 (工芸品) | 銅鐘 | 年貢町 | 龍蔵寺 | 昭和18年10月1日 | |
| 12 | 重要美術品 (工芸品) | 銅鐘 | 関辺関山 | 満願寺 | 昭和19年7月6日 | |

福島県指定文化財

| No. | 指定別 | 名 称 | 所在地 | 所有者 | 指定年月日 | 備 考 |
|-----|----------------|---|---------------|------------|------------------------------|-----------|
| 13 | 重要文化財 (建造物) | 小峰寺厨子 | 道場町 | 小峰寺 | 昭和54年3月23日 | |
| 14 | 重要文化財 (建造物) | 白河ハリストス正教会聖堂 | 愛宕町 | 白河ハリストス正教会 | 平成5年3月23日 | |
| 15 | 重要文化財 (建造物) | 松風亭蘿月庵 (附)「蘿月」の書がある水盥 「垂桜」の書がある掛軸 | 菅生館 | 南湖神社 | 平成6年3月31日 | |
| 16 | 重要文化財 (絵画) | 紙本著色源翁和尚行状縁起 | 表郷中寺字屋敷 | 常在院 | 昭和45年4月24日 | |
| 17 | 重要文化財 (絵画) | 白河ハリストス正教会のイコン (附)行進用十字架 | 愛宕町 | 白河ハリストス正教会 | 昭和58年3月25日 令和2年3月23日 (追加) | |
| 18 | 重要文化財 (彫刻) | 木造源翁和尚坐像 | 表郷中寺字屋敷 | 常在院 | 昭和43年12月10日 | |
| 19 | 重要文化財 (彫刻) | 木造釈迦如来坐像 | 馬町 | 大統寺 | 平成31年4月19日 | |
| 20 | 重要文化財 (工芸品) | 鉄製鍵 | 中田 | 鹿嶋神社 | 昭和28年10月1日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 21 | 重要文化財 (工芸品) | 銅製雲板 | 表郷番沢字原 | 峰全院 | 昭和28年10月1日 | |
| 22 | 重要文化財 (工芸品) | 瑞花双鳥八棱鏡 | 中田 | 白河市 | 昭和28年10月1日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 23 | 重要文化財 (工芸品) | 金銅装笈 (附)五智如来像 菩薩像 文殊菩薩像 御正体 | 地藏 表郷金山字犬神 | 犬神区 | 昭和43年12月10日 | |
| 24 | 重要文化財 (工芸品) | 銅鐘 | 中田 | 龍蔵寺 | 昭和61年3月31日 | 歴史民俗資料館寄託 |

| No. | 指定別 | 名 称 | 所在地 | 所有者 | 指定年月日 | 備 考 |
|-----|-----------------|--------------------------------------|------------------|-------------------------|-------------|-----------|
| 25 | 重要文化財 (工芸品) | 熊野神社御正体六面 | 大信下小屋 字宮沢 | 熊野神社 | 平成7年3月31日 | |
| 26 | 重要文化財 (考古資料) | 人面付弥生式土器 | 中田 | 白河市 | 昭和36年3月22日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 27 | 重要文化財 (考古資料) | 借宿廃寺跡出土品 (附)借宿廃寺跡出土品拓本等 | 中田 | 白河市 | 平成7年3月31日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 28 | 重要文化財 (考古資料) | 灰釉印花文瓶子 | 中田 | 白河市 | 平成11年3月30日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 29 | 重要文化財 (考古資料) | 天王山遺跡出土品 | 中田 | 白河市 | 平成17年4月15日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 30 | 重要文化財 (歴史資料) | 白河城御櫓絵図 | 中田 | 白河市 | 平成16年3月23日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 31 | 重要有形 民俗文化財 | 絹本著色受苦図 (附)御用留帳 敷教条約 子孫繁昌手引草 老農茶話 | 向新蔵 | 常宣寺 | 昭和36年3月22日 | |
| 32 | 重要無形 民俗文化財 | 関辺のさんじもさ踊 | 関辺 | 白河天道念仏 さんじもさ踊 保存会 | 昭和50年5月30日 | |
| 33 | 重要無形 民俗文化財 | 奥州白河歌念仏踊 | 天神町 | 奥州白河歌念 仏踊振興会 | 平成5年3月23日 | |
| 34 | 天然記念物 | 金山のビャッコイ自生地 | 表郷金山字上 谷地・瀬戸原 | 国土交通省 | 昭和30年12月27日 | |
| 35 | 天然記念物 | 町屋の二本カヤ | 大信町屋字 道目木 | 個人 | 昭和44年4月11日 | |

白河市指定文化財

| No. | 指定別 | 名 称 | 所在地 | 所有者 | 指定年月日 | 備 考 |
|-----|----------------|--|--------------|-------------|-------------------------------------|-----------|
| 36 | 重要文化財 (建造物) | 共楽亭 | 南湖 | 白河市 | 昭和37年2月9日 | |
| 37 | 重要文化財 (建造物) | 丹羽長重廟 | 円明寺 | 白河市 | 昭和39年3月6日 平成22年6月24日 (指定名称変更) | |
| 38 | 重要文化財 (建造物) | 旧小峰城太鼓櫓 | 郭内 | 白河市 | 昭和39年3月6日 | |
| 39 | 重要文化財 (建造物) | 鈴木家住居 | 表郷番沢字桜 下 | 白河市 | 昭和56年2月16日 | |
| 40 | 重要文化財 (建造物) | 日吉神社 | 東蕪内字南屋 敷 | 蕪内区 | 昭和60年4月1日 | |
| 41 | 重要文化財 (建造物) | 旧最勝寺観音堂 (附)棟札、石造露盤、巡礼札及び 六十六部廻国聖納札 | 大鹿島 | 龍蔵寺 鹿嶋神社 | 平成29年3月24日 | |
| 42 | 重要文化財 (絵画) | 十六善神の図 | 年貢町 | 龍蔵寺 | 昭和38年3月9日 | |
| 43 | 重要文化財 (絵画) | (伝) 巫欧堂田善作 ビードロ絵 | 愛宕町 | 関川寺 | 昭和39年3月6日 | |
| 44 | 重要文化財 (絵画) | 十六善神の図 | 愛宕町 | 関川寺 | 昭和41年2月8日 | |
| 45 | 重要文化財 (絵画) | 両界曼荼羅 | 年貢町 | 龍蔵寺 | 昭和51年12月10日 | |
| 46 | 重要文化財 (絵画) | 大音寺仏画(五幅) | 表郷梁森 | 梁森区 | 昭和56年2月16日 | |
| 47 | 重要文化財 (絵画) | 絹本著色仏涅槃図 (附)涅槃像惣壇中施主附諸入用記帳 | 中田 | 大統寺 | 平成17年9月2日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 48 | 重要文化財 (絵画) | 絹本著色如信上人像 | 大工町 | 常瑞寺 | 平成30年3月23日 | |
| 49 | 重要文化財 (絵画) | 絹本著色浄土七祖像・聖徳太子像 | 大工町 | 常瑞寺 | 平成30年3月23日 | |
| 50 | 重要文化財 (絵画) | 紙本著色常宣寺縁起絵巻 (附)常宣寺縁起 | 向新蔵 | 常宣寺 | 令和2年2月20日 | |
| 51 | 重要文化財 (絵画) | 老夫妻像 | 中田 | 白河市 | 令和2年2月20日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 52 | 重要文化財 (彫刻) | 鹿島神社の神殿の彫刻 | 東下野出島字 坂口 | 下野出島区 | 昭和60年4月1日 | |
| 53 | 重要文化財 (彫刻) | 木造柿本人麻呂像 (伝) 頓阿作 | 中田 | 鹿嶋神社 | 昭和63年2月8日 | 歴史民俗資料館寄託 |

| No. | 指定別 | 名 称 | 所在地 | 所有者 | 指定年月日 | 備 考 |
|-----|----------------|-----------------------------|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 54 | 重要文化財 (彫刻) | 木造阿弥陀如来立像 | 道場町 | 小峰寺 | 平成6年3月7日 | |
| 55 | 重要文化財 (彫刻) | 木造地藏菩薩立像 | 道場町 | 小峰寺 | 平成6年3月7日 | |
| 56 | 重要文化財 (彫刻) | 銅造十一面観音立像 | 郭内 | 龍蔵寺 | 平成6年3月7日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 57 | 重要文化財 (彫刻) | 木造阿弥陀如来立像 | 板橋作田 | 極楽寺 | 平成15年4月10日 | |
| 58 | 重要文化財 (彫刻) | 木造菩薩形立像 | 小田川行屋久保 | 宝積院 | 平成19年4月12日 | |
| 59 | 重要文化財 (彫刻) | 木造地藏菩薩立像 (附) 木造十王坐像 | 表郷小松 | 小松町内会 | 平成26年4月17日 | |
| 60 | 重要文化財 (彫刻) | 木造菩薩形立像 | 東下野出島 | 坂本町内会 | 平成27年3月30日 | |
| 61 | 重要文化財 (彫刻) | 木造釈迦如来坐像及び大迦葉・阿難陀立像 | 向新蔵 | 龍興寺 | 平成31年3月29日 | |
| 62 | 重要文化財 (彫刻) | 銅造菩薩立像 | 関辺関山 | 満願寺護持会 | 令和2年12月9日 | |
| 63 | 重要文化財 (工芸品) | 銅鐘 | 愛宕町 | 関川寺 | 昭和39年3月6日 | |
| 64 | 重要文化財 (工芸品) | 桶無鍍写 | 中田 | 鹿嶋神社 | 昭和39年3月6日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 65 | 重要文化財 (工芸品) | 刀 無銘 伝手柄山正繁 | 二番町 | 藤田教育振興会 | 昭和39年3月6日 | |
| 66 | 重要文化財 (工芸品) | 脇差 銘 奥州白川臣手柄山正繁 | 昭和町 | 個人 | 平成6年3月7日 | |
| 67 | 重要文化財 (工芸品) | 脇差 銘 神妙 手柄山甲斐守正繁 | 道場小路 | 個人 | 平成6年3月7日 | |
| 68 | 重要文化財 (工芸品) | 脇差 銘 臣正繁謹作之 | 菅生館 | 南湖神社 | 平成12年4月14日 | |
| 69 | 重要文化財 (工芸品) | 短刀 銘 正繁謹作之 | 菅生館 | 南湖神社 | 平成12年4月14日 | |
| 70 | 重要文化財 (工芸品) | 白河だるまの原型 | 横町 | 個人 | 昭和41年2月8日 | |
| 71 | 重要文化財 (工芸品) | 鹿嶋神社神輿 | 大鹿島 | 鹿嶋神社 | 昭和41年2月8日 | |
| 72 | 重要文化財 (工芸品) | 刈敷坂の十一面観世音像 | 東深仁井田字刈敷坂 | 刈敷坂区 | 昭和60年4月1日 | |
| 73 | 重要文化財 (工芸品) | 銅造十一面観音懸仏 | 郭内 | 龍蔵寺 | 平成6年3月7日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 74 | 重要文化財 (工芸品) | 雲板 | 表郷中寺字屋敷 | 常在院 | 平成17年10月20日 | |
| 75 | 重要文化財 (工芸品) | 木造扁額 聖武皇帝御願所成就山満願寺 | 関辺関山 | 満願寺 | 平成3年1月24日 | |
| 76 | 重要文化財 (工芸品) | 木造扁額 八幡宮 | 金屋町 | 妙関寺 | 平成4年1月27日 | |
| 77 | 重要文化財 (工芸品) | 木造扁額 鬼子母神 (附) 楽翁染書「鬼子母神」 | 金屋町 | 妙関寺 | 平成4年1月27日 | |
| 78 | 重要文化財 (工芸品) | 木造扁額 祈祷所 | 年貢町 | 龍蔵寺 | 平成4年1月27日 | |
| 79 | 重要文化財 (工芸品) | 木造扁額 常宣寺 | 向新蔵 | 常宣寺 | 平成4年1月27日 | |
| 80 | 重要文化財 (工芸品) | 木造扁額 萬徳尊 | 愛宕町 | 関川寺 | 平成9年12月3日 | |
| 81 | 重要文化財 (工芸品) | 銅造十一面観音菩薩坐像懸仏 | 中田 | 矢越神社 釜子区 | 平成24年1月26日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 82 | 重要文化財 (書跡) | 源翁能照大和尚行状之記 | nn | 常在院 | 昭和55年3月14日 | |
| 83 | 重要文化財 (書跡) | 掛軸 (千里啓書) | 表郷金山字竹ノ内 | 個人 | 昭和55年3月14日 | |
| 84 | 重要文化財 (書跡) | 中臣祓 (榊原忠次奉納) | 中田 | 鹿嶋神社 | 平成8年3月29日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 85 | 重要文化財 (書跡) | 中臣祓 (松平定信奉納) | 中田 | 鹿嶋神社 | 平成8年3月29日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 86 | 重要文化財 (書跡) | 六字名号 | 道場町 | 小峰寺 | 平成9年10月16日 | |

| No. | 指定別 | 名 称 | 所在地 | 所有者 | 指定年月日 | 備 考 |
|-----|-----------------|--------------------------------|-----------|-------------|-------------|-----------|
| 87 | 重要文化財 (古文書) | 白川義親証状 (附) 中村常基袖判証状 高田家由緒書上 | 中田 | 個人 | 平成6年3月7日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 88 | 重要文化財 (考古資料) | 磨消縄文土器 | 大信増見字北田 | 白河市 | 昭和46年4月1日 | 大信庁舎保管 |
| 89 | 重要文化財 (考古資料) | 建鉾山祭祀遺跡出土 土師器・滑石製模造品 | 中田 | 白河市 | 平成3年2月28日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 90 | 重要文化財 (考古資料) | 建鉾山祭祀遺跡出土 土師器・滑石製模造品 | 中田 | 白河市 | 平成3年2月28日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 91 | 重要文化財 (考古資料) | 建鉾山祭祀遺跡出土 滑石製模造品 | 表郷高木字上宿 | 個人 | 平成3年2月28日 | |
| 92 | 重要文化財 (考古資料) | 建鉾山祭祀遺跡出土品 | 表郷三森字月桜 | 個人 | 平成7年3月8日 | |
| 93 | 重要文化財 (考古資料) | 建長の板碑 | 大信中新城字入塩沢 | 個人 | 昭和62年4月1日 | |
| 94 | 重要文化財 (考古資料) | 阿弥陀前供養塔 | 大阿弥陀前 | 個人 | 平成8年3月29日 | |
| 95 | 重要文化財 (考古資料) | 大和田前田供養塔 | 大和田前田 | 大和田名儀持 | 平成8年3月29日 | |
| 96 | 重要文化財 (考古資料) | 硬玉製大珠 (町屋遺跡出土) | 中田 | 白河市 | 平成14年4月1日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 97 | 重要文化財 (考古資料) | 道目木遺跡出土 墨書土器一括 | 中田 | 白河市 | 平成14年4月1日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 98 | 重要文化財 (考古資料) | 町屋遺跡出土 縄文土器一括 | 中田 | 白河市 | 平成14年4月1日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 99 | 重要文化財 (考古資料) | 石冠 | 中田 | 白河市 | 平成17年10月20日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 100 | 重要文化財 (歴史資料) | 黒船の図版木 | 本町 | 個人 | 昭和36年3月7日 | |
| 101 | 重要文化財 (歴史資料) | 松平定信居城時における小峰城全図 | 中田 | 白河市 | 昭和36年3月7日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 102 | 重要文化財 (歴史資料) | 丹羽長重居城時における小峰城全図 | 中田 | 白河市 | 昭和36年3月7日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 103 | 重要文化財 (歴史資料) | 戊辰戦直後における小峰城全図 | 郭内 | 個人 | 昭和36年3月7日 | |
| 104 | 重要文化財 (歴史資料) | 奥州白河城下全図 | 中田 | 白河市 | 平成元年8月10日 | 歴史民俗資料館保管 |
| 105 | 重要文化財 (歴史資料) | 南湖名勝図并詩歌 | 二番町 | 藤田教育振興会 | 昭和58年7月22日 | |
| 106 | 重要文化財 (歴史資料) | (伝) 結城宗廣公軍中旗 | 大搦目 | 個人 | 昭和63年2月8日 | |
| 107 | 重要文化財 (歴史資料) | 鬼越新田開発見立絵図 | 中田 | 個人 | 平成31年3月29日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 108 | 重要有形民俗文化財 | 勝善神社の馬産信仰資料 | 表郷社田字前山 | 個人 | 平成17年10月20日 | |
| 109 | 重要有形民俗文化財 | 勝善神社の馬産信仰資料 (高萩勝善神社社殿) | 表郷社田字前山 | 個人 | 平成17年10月20日 | |
| 110 | 重要有形民俗文化財 | 勝善神社の馬産信仰資料 (奉納馬絵幕 社田勝善神社御神馬像) | 表郷社田字白旗 | 社田区 | 平成17年10月20日 | |
| 111 | 重要有形民俗文化財 | 千体仏堂奉納仏像群 (千体仏および木造菩薩立像) " | 中田 | 三番町町内会 | 平成28年4月15日 | 歴史民俗資料館寄託 |
| 112 | 重要無形民俗文化財 | 鹿嶋神社神楽 | 大鹿島 | 鹿嶋神社 | 昭和39年3月6日 | |
| 113 | 重要無形民俗文化財 | 河東田 牛頭天王祭 | 表郷河東田 | 河東田区 | 昭和57年12月22日 | |
| 114 | 重要無形民俗文化財 | 八幡宮下 熊野講 | 表郷八幡 | 社八幡神社 | 昭和57年12月22日 | |
| 115 | 重要無形民俗文化財 | 中ノ沢権現 梵天祭 | 表郷梁森 | 梁森区 (梁森青年会) | 昭和57年12月22日 | |
| 116 | 重要無形民俗文化財 | 堀之内 辻念仏 | 表郷堀之内 | 堀之内辻念仏会 | 昭和57年12月22日 | |
| 117 | 史跡及び名勝 | 矢越の森 | 東釜子字矢越山 | 釜子区 | 昭和60年4月1日 | |
| 118 | 史跡 | 立教館跡 | 会津町 | 白河市 | 昭和36年3月7日 | |

| No. | 指定別 | 名 称 | 所在地 | 所有者 | 指定年月日 | 備 考 |
|-----|-------|---|----------------|---------------|--|-----|
| 119 | 史跡 | 白河藩大名墓所 (丹羽長重墓・松平直矩墓・松平基 知墓 ・松平清照墓) | 円明寺ほか | 白河市ほか | 昭和39年3月6日 平成22年6月24日 (追加、指定名称変更) 平成28年11月18日 (追加) | |
| 120 | 史跡 | 庄司戻し桜(霊桜碑) | 表郷中野字正 司戻 | 中野区 | 昭和55年3月14日 | |
| 121 | 史跡 | 和泉式部庵跡と化粧の井 | 表郷中野字式 部内 | 中野区 | 昭和55年3月14日 | |
| 122 | 史跡 | 建錘山祭祀遺跡 | 表郷高木字高 野峯ほか | 都々古山神 社ほか | 昭和55年3月14日 | |
| 123 | 史跡 | 天王館跡 | 表郷河東田字 天王下 | 河東田区 | 昭和55年3月14日 | |
| 124 | 史跡 | 石阿弥陀の一里塚 | 白坂石阿弥陀 ほか | 白河市ほか | 平成21年8月28日 | |
| 125 | 史跡 | 原古墳群 | 表郷番沢字原 | 個人 | 昭和55年3月14日 | |
| 126 | 史跡 | 鶴子谷古墳群 | 表郷堀之内字 鶴子谷 | 堀之内区 | 昭和55年3月14日 | |
| 127 | 史跡 | 浮屠碑 | 大鹿島 | 鹿嶋神社 | 昭和41年2月8日 | |
| 128 | 史跡 | 磨崖三十三観音及び阿弥陀三尊来迎 像 | 表郷番沢字大 平 | 個人 | 昭和55年3月14日 | |
| 129 | 史跡 | 磨崖三十三観音 | 表郷梁森字石 崎 | 都々古和気 神社ほか | 昭和56年2月16日 | |
| 130 | 史跡 | (伝) 金壳吉次兄弟の墓 | 白坂皮籠 | 白河市 財務省 | 平成8年3月29日 | |
| 131 | 史跡 | (伝) 一町仏供養塔 (附) 広瀬典の碑 | 旗宿東山 | 個人 | 平成8年3月29日 | |
| 132 | 史跡 | 境の明神 | 白坂明神ほか | 個人 境神社 | 平成24年1月26日 | |
| 133 | 史跡 | 作事稲荷 | 郭内 | 個人 | 平成25年4月11日 | |
| 134 | 史跡 | 貞順院及び松平定業墓 | 向新蔵 | 常宣寺 | 平成25年4月11日 | |
| 135 | 史跡 | 天神山(附)天神神社 | 天神町 | 天神神社 | 平成26年4月17日 | |
| 136 | 史跡 | 関川寺館跡 | 愛宕町 | 関川寺 | 平成27年3月30日 | |
| 137 | 天然記念物 | 乙姫桜 | 金屋町 | 妙関寺 | 昭和38年1月18日 | |
| 138 | 天然記念物 | 天神乳銀杏 | 大信隈戸字山 小屋 | 個人 | 昭和46年4月1日 | |
| 139 | 天然記念物 | 天神モミ | 大信隈戸字山 小屋 | 個人 | 昭和46年4月1日 | |
| 140 | 天然記念物 | 高野槇 | 表郷中野字柳 橋向 | 個人 | 昭和55年3月14日 | |
| 141 | 天然記念物 | 山藤 | 表郷番沢字原 | 峰全院 | 昭和55年3月14日 | |
| 142 | 天然記念物 | 五葉松 | 表郷社田字玉 岡 | 社田区 | 昭和55年3月14日 | |
| 143 | 天然記念物 | カナヤマザサ叢生地 | 表郷金山字小 手山ほか | 社川沿岸土 地改良区 | 昭和55年3月14日 | |
| 144 | 天然記念物 | 菩提樹 | 表郷金山字犬 神 | 犬神区 | 昭和55年3月14日 | |
| 145 | 天然記念物 | 枅 | 表郷金山字竹 ノ内 | 個人 | 昭和55年3月14日 | |
| 146 | 天然記念物 | 槻(月夜見の桜) | 表郷三森字月 桜 | 三森区 | 昭和55年3月14日 | |
| 147 | 天然記念物 | 満徳寺のしだれ桜 | 東上野出島字 反町 | 満徳寺 | 昭和60年4月1日 | |
| 148 | 天然記念物 | たらようの木 | 東深仁井田字 千代ノ岡 | 個人 | 昭和60年4月1日 | |
| 149 | 天然記念物 | 石原のしだれ桜 | 東下野出島字 油田 | 石原区 | 平成8年4月1日 | |

未指定文化財リスト

| No | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|----|-----|--------------------|-----|------------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 1 | 建造物 | 上の片野屋建造物群 | 桜町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 2 | 建造物 | 藤屋建造物群 | 二番町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 3 | 建造物 | 今井醤油店建造物群 | 天神町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 4 | 建造物 | 旧脇本陣柳屋旅館 蔵座敷 | 本町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 5 | 建造物 | 大谷忠吉本店（白陽酒造）建造物群 | 本町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 6 | 建造物 | 奈良屋呉服店建造物群 | 一番町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 7 | 建造物 | 大谷家住宅建造物群 | 中町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 8 | 建造物 | 千駒酒造建造物群 | 年貢町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 9 | 建造物 | 松井薬局建造物群 | 天神町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 10 | 建造物 | 亀平商店建造物群 | 本町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 11 | 建造物 | 松河屋建造物群 | 天神町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 12 | 建造物 | 松島家蔵座敷建造物群 | 旭町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 13 | 建造物 | 会津屋建造物群 | 旭町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 14 | 建造物 | 小峰城外堀土塁跡及び林家住宅建造物群 | 郭内 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 15 | 建造物 | 遠藤家住宅建造物群 | 本町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 16 | 建造物 | 櫻井呉服店建造物群 | 道場町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 17 | 建造物 | 根本家住宅建造物群 | 本町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 18 | 建造物 | 菓子舗玉屋建造物 | 本町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 19 | 建造物 | 大野屋染物店建造物 | 新蔵町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 20 | 建造物 | 飯村家住宅建造物群 | 本町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 21 | 建造物 | 大崎家住宅建造物群 | 本町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 22 | 建造物 | 長田美容院建造物群 | 年貢町 | 歴史的風致形成建造物 | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | |
| 23 | 建造物 | 勝軍地藏堂 | 愛宕町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 24 | 建造物 | 渡邊だるま店建造物群 | 横町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 25 | 建造物 | 仁平麴店建造群 | 天神町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |
| 26 | 建造物 | 渡邊だるま店だるま作業所 | 横町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | |

| No | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|----|-----|------------------|-------|------------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 27 | 建造物 | 渡邊家土蔵 | 横町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | |
| 28 | 建造物 | 澤野家住宅建造物群 | 道場小路 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 29 | 建造物 | 旧神歯科医院 | 馬町裏 | 歴史的風致形成建造物 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 30 | 建造物 | 旧商工会議所建造物 | 中町 | 歴史的風致形成建造物 | | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 31 | 建造物 | 山崎家建造物 | 旭町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 32 | 建造物 | 旧明治政府指定米倉庫 | 田町 | 歴史的風致形成建造物 | | | | | | ○ | | ○ | | | | |
| 33 | 建造物 | 本家富川屋染物店建造物群 | 新蔵町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | |
| 34 | 建造物 | 河和家人住宅建造物 | 横町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 35 | 建造物 | 旧松井呉服店建造物 | 天神町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | |
| 36 | 建造物 | 大木家住宅建造物群 | 天神町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 37 | 建造物 | ヤマボシ醤油店 | 年貢町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | ○ | ○ | | | | |
| 38 | 建造物 | 真田家蔵座敷 | 田町 | 歴史的風致形成建造物 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 39 | 建造物 | 鹿嶋神社隨身門・回廊 | 大 | 歴史的風致形成建造物 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 40 | 建造物 | 旧西白河郡役所 | 五郎窪 | 未指定 | | | | | | ○ | | ○ | | | | |
| 41 | 建造物 | 熊野神社本殿 | 舟田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 42 | 建造物 | 角折神社本殿 | 舟田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 43 | 建造物 | 日枝神社本殿 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 44 | 建造物 | 琴平神社本殿・拝殿 | 七番町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 45 | 建造物 | 羽黒神社本殿 | 借宿前田山 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 46 | 建造物 | 羽黒神社本殿 | 借宿新地山 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 47 | 建造物 | 稲荷神社本殿 | 松並 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 48 | 建造物 | 八幡神社本殿 | 小田川 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 49 | 建造物 | 白河神社本殿・拝殿 | 旗宿 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 50 | 建造物 | 常宣寺本堂・山門 | 向新蔵 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 51 | 建造物 | 関川寺本堂・庫裡 | 愛宕町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 52 | 建造物 | 小野薬師堂 | 小田川 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 53 | 建造物 | 最勝寺弥勒堂 | 大 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 54 | 建造物 | 星野家門 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 55 | 建造物 | 白河駅舎 | 郭内 | 未指定 | | | | | | ○ | | ○ | | | | |
| 56 | 絵画 | 紙本紺地著色善光寺式阿弥陀三尊図 | 白坂字白坂 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 57 | 絵画 | 紙本著色円順和尚像 | 白坂字白坂 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 58 | 絵画 | 絹本著色千手観音図 | 本町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 59 | 絵画 | 達磨図（松平定信） | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 60 | 絵画 | 松平定信の絵画作品 | | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

| No | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|----|----|---|-----|------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 61 | 絵画 | 楽翁公白河御下屋敷真景図(谷文晁) | 中田 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 62 | 絵画 | 桜紅葉図(谷文晁) | 郭内 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 63 | 絵画 | 谷文晁の絵画作品 | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 64 | 絵画 | 結城宗広像(蒲生羅漢) | 愛宕町 | 未指定 | | ○ | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 65 | 絵画 | 仏涅槃図(蒲生羅漢) | 中田 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 66 | 絵画 | 鉄拐仙人図(蒲生羅漢) | 中田 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 67 | 絵画 | 琴棋書画図屏風(蒲生羅漢) | 二番町 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 68 | 絵画 | 釈迦十六善神図(蒲生羅漢) | 二番町 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 69 | 絵画 | 墨竹図自画賛(蒲生羅漢) | 二番町 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 70 | 絵画 | 仏涅槃図(蒲生羅漢) | 中田 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 71 | 絵画 | 十六羅漢図(蒲生羅漢) | 向寺 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 72 | 絵画 | 蒲生羅漢の絵画作品 | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 73 | 絵画 | 富嶽図(白雲) | 二番町 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 74 | 絵画 | 夏木重陰図(白雲) | 二番町 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 75 | 絵画 | 白雲の絵画作品 | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 76 | 絵画 | 庭松寿諸歌鑑帖(亜欧堂田善ほか) | 中田 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 77 | 絵画 | 大日本金龍山之図(亜欧堂田善) | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 78 | 絵画 | 亜欧堂田善の絵画・版画作品 | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 79 | 絵画 | 秋草図(巨野泉祐) | 中田 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 80 | 絵画 | 広瀬蒙斎像(巨野泉祐) | 中田 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 81 | 絵画 | 巨野泉祐の絵画作品 | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 82 | 絵画 | 星野文良の絵画作品 | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 83 | 絵画 | 伊勢物語・西行物語図屏風(高久隆古) | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 84 | 絵画 | 高久隆古の絵画作品 | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 85 | 絵画 | 諸尊画卷(竹沢養溪) | 道場町 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 86 | 絵画 | 山水図(伝本多忠義) | 中田 | 未指定 | | | | | | | | | | | | |
| 87 | 絵画 | 白河藩関係絵師の絵画作品(岡本茲煇、竹沢養溪、藤原広恒、久松南湖、馬弓碧潭、小河原峻山、佐竹永邨、川崎香溪等) | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 88 | 絵画 | 関根正二の絵画作品 | | 未指定 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 89 | 絵画 | 鉢に林檎(長谷部英一) | 中田 | 未指定 | | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 90 | 絵画 | 長谷部英一の絵画作品 | | 未指定 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 91 | 絵画 | 斎藤正夫の絵画作品 | | 未指定 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 92 | 絵画 | 福田利秋の版画作品 | | 未指定 | | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 93 | 絵画 | 阿部家旧蔵絵画作品 | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 94 | 彫刻 | 銅造地藏菩薩坐像 | 愛宕町 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | | |
| 95 | 彫刻 | 木造孝養太子立像 | 大工町 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 96 | 彫刻 | 木造阿弥陀如来立像 | 大工町 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 97 | 彫刻 | 木造地藏菩薩坐像 | 横町 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 98 | 彫刻 | 木造釈迦如来坐像 | 向寺 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |

| No. | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|-----|-----|------------------|---------|------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 99 | 彫刻 | 木造役行者坐像 | 向寺 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 100 | 彫刻 | 木造阿弥陀如来坐像 | 搦目 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 101 | 彫刻 | 木造弥勒如来坐像 | 田島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 102 | 彫刻 | 木造不動明王二童子立像 | 小田川 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 103 | 彫刻 | 木造地藏菩薩坐像 | 萱根 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 104 | 彫刻 | 木造聖観音菩薩立像 | 借宿 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 105 | 彫刻 | 木造大日如来坐像 | 板橋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 106 | 彫刻 | 木造阿弥陀如来立像 | 板橋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 107 | 彫刻 | 木造不動明王立像 | 双石 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 108 | 彫刻 | 木造大日如来坐像 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 109 | 彫刻 | 木造千手観音像ほか8件 | 本町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 110 | 彫刻 | 木造不動明王立像 | 表郷犬神 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 111 | 彫刻 | 木造阿弥陀如来立像 | 表郷梁森 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 112 | 彫刻 | 木造釈迦如来立像ほか4件 | 表郷番沢 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 113 | 彫刻 | 木造十一面観音像ほか8件 | 東釜子 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 114 | 彫刻 | 木造阿弥陀如来像ほか3件 | 大信中新城 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 115 | 彫刻 | 木造聖観音菩薩立像 | 年貢町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 116 | 彫刻 | 木造如意輪観音菩薩坐像ほか19件 | 年貢町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 117 | 彫刻 | 木造阿弥陀三尊像ほか | 向新蔵 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 118 | 彫刻 | 木造川瀬作兵衛坐像ほか2件 | 向新蔵 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 119 | 彫刻 | 東日本大震災で被災した市内石造物 | 市内 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 120 | 彫刻 | 小松寅吉・小林和平等制作の石造物 | 市内 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 121 | 彫刻 | 墓碑の彫刻（小松寅吉） | 東下野出島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 122 | 彫刻 | 灯籠（小松寅吉） | 借宿（新地山） | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 123 | 彫刻 | 狛犬（小松寅吉） | 借宿（新地山） | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 124 | 彫刻 | 石祠（小松寅吉） | 田島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 125 | 彫刻 | 大黒天像（小松寅吉） | 東深仁井田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 126 | 彫刻 | 石扉・玉垣（小松寅吉） | 借宿（新地山） | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 127 | 彫刻 | 狛犬（小松寅吉） | 舟田町後 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 128 | 彫刻 | 狛犬（小松寅吉） | 七番町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 129 | 彫刻 | 狛犬（小松寅吉） | 東下野出島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 130 | 彫刻 | 石馬像（小松寅吉） | 東下野出島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 131 | 彫刻 | 墓碑の彫刻（小松寅吉） | 向寺 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 132 | 彫刻 | 灯籠（小松寅吉） | 大久保 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 133 | 彫刻 | 石祠（小松寅吉） | 東上野出島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 134 | 彫刻 | 石祠（小林和平） | 田島結城館 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 135 | 彫刻 | 墓碑の彫刻（小松寅吉） | 東下野出島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 136 | 彫刻 | 石馬像（高坂庄司） | 東下野出島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 137 | 彫刻 | 狛犬（小林和平） | 東上野出島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 138 | 彫刻 | 狛犬（小林和平） | 東栃本 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 139 | 彫刻 | 狛犬（梅澤敬明・智明） | 東深仁井田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 140 | 彫刻 | 灯籠（梅澤敬明） | 東下野出島 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | ○ |
| 141 | 工芸品 | 関川寺梵鐘 | 愛宕町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | |

| No. | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|-----|-----|---|------|------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 142 | 工芸品 | 常宣寺梵鐘 | 向新蔵 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | |
| 143 | 工芸品 | 大統寺梵鐘 | 馬町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | |
| 144 | 工芸品 | 龍興寺梵鐘 | 向新蔵 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | |
| 145 | 工芸品 | 皇徳寺梵鐘 | 大工町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | |
| 146 | 工芸品 | 常瑞寺梵鐘 | 大工町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | |
| 147 | 工芸品 | 長伝寺梵鐘 | 東釜子 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 148 | 工芸品 | 長慶寺半鐘 | 大信 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 149 | 工芸品 | 正福寺半鐘 | 大信 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 150 | 工芸品 | 峰全院梵鐘 | 表郷番沢 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 151 | 工芸品 | 峰全院半鐘 | 表郷番沢 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 152 | 工芸品 | 聯芳寺半鐘 | 向寺 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | | |
| 153 | 工芸品 | 法泉寺半鐘 | 表郷社 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 154 | 工芸品 | 常在院半鐘 | 表郷中寺 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 155 | 工芸品 | 鰐口 | 本町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 156 | 工芸品 | 鰐口2口 | 天神町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 157 | 工芸品 | 鰐口2口 | 愛宕町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 158 | 工芸品 | 鰐口 | 向新蔵 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 159 | 工芸品 | 鰐口2口 | 道場町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 160 | 工芸品 | 鰐口 | 鍛冶町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 161 | 工芸品 | 鰐口 | 巡り矢 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 162 | 工芸品 | 鰐口 | 金屋町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 163 | 工芸品 | 鰐口 | 年貢町 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 164 | 工芸品 | 鰐口2口 | 大 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 165 | 工芸品 | 鰐口 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 166 | 工芸品 | 鰐口 | 久田野 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 167 | 工芸品 | 鰐口 | 白坂 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 168 | 工芸品 | 鰐口 | 白坂 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 169 | 工芸品 | 鰐口 | 小田川 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 170 | 工芸品 | 鰐口 | 双石 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 171 | 工芸品 | 鰐口 | 旗宿 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 172 | 工芸品 | 銅馨 | 金屋町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 173 | 工芸品 | 銅馨 | 愛宕町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 174 | 工芸品 | 銅製灯籠 | 大 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | |
| 175 | 工芸品 | 樺色羅紗地水玉模様陣羽織 | 郭内 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 176 | 工芸品 | 阿部家装束・陣羽織 | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 177 | 工芸品 | 阿部家旧蔵刀剣 | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 178 | 工芸品 | 白河ゆかりの刀工の作刀（手柄山正繁、固山宗次ほか一族、阿武隈川宗寛、澤原重胤、福島義宗、石堂重次・是盛、立花義秀ほか一族など） | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 179 | 工芸品 | 白河焼茶碗 | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 180 | 工芸品 | 葵梅鉢紋硯屏 | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 181 | 工芸品 | 阿部家旧蔵陶磁器・金工品・漆工品 | | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 182 | 工芸品 | 川崎ブッペの人形作品 | | 未指定 | | | | | | ○ | | | ○ | | | |

| No. | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|-----|-------|-----------------|-----|------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 183 | 書跡・典籍 | 書「古閑蹟」(松平定信) | 菅生館 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 184 | 書跡・典籍 | 松平定信の書作品 | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 185 | 書跡・典籍 | 和歌「うらやまし」(西郷頼母) | 中田 | 未指定 | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 186 | 書跡・典籍 | 白河の歌壇・俳壇関係資料 | | 未指定 | | | ○ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 187 | 古文書 | 徳川家斉領知判物 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 188 | 古文書 | 松平義知宛行状 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 189 | 古文書 | 松平忠弘書状 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 190 | 古文書 | 松平定信書状 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 191 | 古文書 | 丹羽長重書状 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 192 | 古文書 | 広瀬典探訪書写文書 | 中田 | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 193 | 古文書 | 川瀬家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 194 | 古文書 | 内山家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 195 | 古文書 | 須釜家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 196 | 古文書 | 田村家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 197 | 古文書 | 岩淵家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 198 | 古文書 | 菊池家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 199 | 古文書 | 入沢家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 200 | 古文書 | 金沢家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 201 | 古文書 | 大河原家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 202 | 古文書 | 大戸家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 203 | 古文書 | 薄井家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 204 | 古文書 | 矢部家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 205 | 古文書 | 借宿区有文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 206 | 古文書 | 郷家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 207 | 古文書 | 小林家文書(白河焼関係資料) | 中田 | 未指定 | | | ○ | ○ | | | ○ | | ○ | | | |
| 208 | 古文書 | 柳下家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 209 | 古文書 | 廣橋家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 210 | 古文書 | 双石家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 211 | 古文書 | 佐藤家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 212 | 古文書 | 坂口家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 213 | 古文書 | 石倉家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 214 | 古文書 | 永野家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 215 | 古文書 | 小峰城絵図類 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 216 | 古文書 | 藤田新次郎家文書 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 217 | 古文書 | 吾妻家文書 | 福島市 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 218 | 古文書 | 旧大屋村役場文書 | 福島市 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | | | ○ | |
| 219 | 古文書 | 高木区有文書 | 福島市 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 220 | 古文書 | 龍蔵寺文書 | 年貢町 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 221 | 古文書 | 遠藤家文書 | | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |

| No. | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|-----|------|-------------------------------------|------|------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 222 | 古文書 | 石岡家文書 | | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 223 | 古文書 | 鈴木家文書 | | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 224 | 古文書 | 天神町提灯祭り関係記録 | 天神町 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 225 | 古文書 | 熊野神社文書 | | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | | | |
| 226 | 古文書 | 関辺区有文書 | 関辺 | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 227 | 古文書 | 西田家文書 | | 未指定 | | | ○ | | | ○ | | | ○ | | | |
| 228 | 古文書 | 戊辰戦争関連文書 | | 未指定 | | | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 229 | 歴史資料 | 関山 下馬碑 | 関山関山 | 未指定 | ○ | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 230 | 歴史資料 | 学田新田村 皮籠村 秣場論所一件裁許 絵図 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | | ○ | | | |
| 231 | 歴史資料 | 感札（凶作の節施物せしめ奇特に候） | | 未指定 | | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 232 | 歴史資料 | 小峰城木製鬼瓦 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | ○ | | | | ○ | | | |
| 233 | 歴史資料 | 白河口合戦絵巻 | 中田 | 未指定 | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 234 | 歴史資料 | 陣笠（九曜紋付き） | 中田 | 未指定 | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 235 | 歴史資料 | 木箱（薩州四番隊金穀方） | 中田 | 未指定 | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 236 | 歴史資料 | 木箱（「長州三番隊二分捕（カ）蠟」等墨書） | 中田 | 未指定 | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 237 | 歴史資料 | 戊辰戦記絵巻物 | 中田 | 未指定 | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 238 | 歴史資料 | 福島県ヨリ大蔵省エ差出ニ相成候白河城 郭内絵図面之写 | 中田 | 未指定 | | | ○ | | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 239 | 歴史資料 | 大正11年南湖神社鎮座祭奉仕記念写真 | 菅生館 | 未指定 | | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 240 | 歴史資料 | 伊藤隆三郎（抱月庵）関係資料 | | 未指定 | | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 241 | 歴史資料 | 白河の文壇（中山義秀、大谷忠一郎など） 関係資料 | | 未指定 | ○ | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 242 | 歴史資料 | 白河関（歌枕としての詩歌句、紀行等） 関係の文学作品に関する資料 | | 未指定 | ○ | | | | | | | | ○ | | | |
| 243 | 歴史資料 | 古関蹟碑 | 旗宿 | 未指定 | ○ | | | ○ | | | | | ○ | | | |
| 244 | 考古資料 | 銃弾（稻荷山伐採木より発見・小峰城跡 出土） | 中田 | 未指定 | | | | | ○ | | | | ○ | | | |
| 245 | 考古資料 | 岩越二郎コレクション | 中田 | 未指定 | ○ | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 246 | 考古資料 | 藤田定市コレクション | 中田 | 未指定 | ○ | | | | | ○ | | | ○ | | | |
| 247 | 考古資料 | 板碑（小峰城三重槽跡出土） | 中田 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 248 | 考古資料 | 板碑 | 鍛冶町 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 249 | 考古資料 | 板碑5基 | 藤沢山 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 250 | 考古資料 | 板碑（鹿嶋河川敷出土） | 中田 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 251 | 考古資料 | 板碑（前桜岡遺跡出土） | 中田 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 252 | 考古資料 | 板碑 | 搦目 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 253 | 考古資料 | 線刻阿弥陀如来来迎像板碑 | 大 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 254 | 考古資料 | 板碑 | 久田野 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 255 | 考古資料 | 板碑2基 | 大和田 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 256 | 考古資料 | 磨崖板碑および板碑2基 | 大和田 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 257 | 考古資料 | 板碑 | 久田野 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 258 | 考古資料 | 浮彫阿弥陀如来立像板碑 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 259 | 考古資料 | 板碑4基 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 260 | 考古資料 | 浮彫阿弥陀三尊来迎像板碑（西ノ内地区 伝来）他板碑6基 | 中田ほか | 未指定 | | | | | | | | | ○ | ○ | | |

| No. | 種 別 | 名 称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|-----|------|-----------------------|----------|------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 261 | 考古資料 | 板碑 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 262 | 考古資料 | 板碑 | 白坂 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 263 | 考古資料 | 板碑（武光地藏） | 小田川 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 264 | 考古資料 | 板碑 | 小田川 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 265 | 考古資料 | 板碑 | 萱根 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 266 | 考古資料 | 板碑（舟田後川原出土） | 中田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 267 | 考古資料 | 板碑2基 | 舟田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 268 | 考古資料 | 板碑3基 | 双石 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 269 | 考古資料 | 板碑 | 双石 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 270 | 考古資料 | 板碑 | 板橋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 271 | 考古資料 | 板碑 | 借宿 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 272 | 考古資料 | 板碑 | 借宿 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 273 | 考古資料 | 板碑2基 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 274 | 考古資料 | 板碑（結城館出土） | 中田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 275 | 考古資料 | 板碑4基 | 旗宿 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 276 | 考古資料 | 石造供養塔（五輪塔、宝篋印塔、板碑型墓碑） | 市内各所 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 277 | 考古資料 | 一字一石経塔 | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 278 | 考古資料 | 一字一石経塔 | 年貢町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 279 | 考古資料 | 一字一石経塔 | 愛宕町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 280 | 考古資料 | 一字一石経塔 | 巡り矢 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 281 | 考古資料 | 妙経塚 | 大 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 282 | 考古資料 | 一石経（最勝経） | 関辺 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 283 | 考古資料 | 一字一石経塔および一字一石経 | 向新蔵 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 284 | 考古資料 | 摩崖仏（諸仏9体ほか） | 向寺 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 285 | 考古資料 | 摩崖仏（不動明王立像） | 羅漢前 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 286 | 考古資料 | 鹿嶋神社毘森磨崖碑 | 大 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 287 | 考古資料 | 石仏2躯（小峰城三重櫓石垣出土） | 中田 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 288 | 有形民俗 | 白河地域の農業生産用具 | 中田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 289 | 有形民俗 | 白河地域の生活用具 | 中田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 290 | 有形民俗 | 表郷地域の農業生産用具 | 表郷金山 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 291 | 有形民俗 | 表郷地域の生活用具 | 表郷金山 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 292 | 有形民俗 | 東地域の農業生産用具 | 東釜子 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 293 | 有形民俗 | 東地域の生活用具 | 東釜子 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 294 | 有形民俗 | 大信地域の農業生産用具 | 大信町屋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 295 | 有形民俗 | 大信地域の生活用具 | 大信町屋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 296 | 有形民俗 | 全国各地のだるまコレクション | 中田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | | |
| 297 | 有形民俗 | 社田の鍬柄講道具および郷蔵 | 表郷社田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 298 | 無形民俗 | 十日市ちょうちん祭 | 大信隈戸字十日市 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 299 | 無形民俗 | 舞い込んだ（本沼） | 本沼 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 300 | 無形民俗 | 八雲神社子供みこし祭り（泉岡） | 白坂泉岡 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 301 | 無形民俗 | 盆踊（竹ノ内） | 表郷金山竹ノ内 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | | |

| No. | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | |
|-----|------|-------------------|---------|------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 |
| 302 | 無形民俗 | 盆踊（梁森） | 表郷金山字梁森 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 303 | 無形民俗 | 盆踊（中新城） | 大信中新城 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 304 | 無形民俗 | 数珠繰り（中新城） | 大信中新城 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 305 | 無形民俗 | キウリ天王祭（下新城） | 大信下新城 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 306 | 無形民俗 | 数珠繰り（下新城） | 大信下新城 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 307 | 無形民俗 | 盆踊（釜子） | 東釜子 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ |
| 308 | 無形民俗 | 琴平神社奉納相撲 | 東釜子 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ |
| 309 | 無形民俗 | 板倉の天道念仏 | 東板倉前 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | |
| 310 | 無形民俗 | 下羽原の数珠繰り | 表郷下羽原 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 311 | 無形民俗 | 天神神社祭礼 | 表郷金山 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 312 | 無形民俗 | 番沢の念仏講 | 表郷番沢 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 313 | 無形民俗 | 借宿のあわしまさま | 借宿 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 314 | 無形民俗 | 旗宿の天王祭 | 旗宿 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 315 | 無形民俗 | 皮籠の子供神輿 | 白坂字皮籠 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 316 | 無形民俗 | 舟田のどったらぶち | 舟田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 317 | 無形民俗 | 舟田の天王様 | 舟田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 318 | 無形民俗 | 深渡戸のむじなぶち | 深渡戸 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 319 | 無形民俗 | 上新城の数珠繰り | 大信上新城 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ |
| 320 | 無形民俗 | 町屋の数珠繰り | 大信町屋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | ○ |
| 321 | 無形民俗 | 板橋の天王様 | 板橋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 322 | 無形民俗 | 板橋の虫送り | 板橋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 323 | 無形民俗 | 温泉八幡神社例祭 | 板橋 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 324 | 無形民俗 | 堀之内の熊野講 | 表郷堀之内 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 325 | 無形民俗 | 入方のどうらんぶち | 入方 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 326 | 無形民俗 | 入方の数珠繰り | 入方 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 327 | 無形民俗 | 大日堂祭礼 | 鍛冶町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 328 | 無形民俗 | 上羽郷の熊野講 | 上羽郷 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 329 | 無形民俗 | 日和田の数珠繰り | 日和田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 330 | 無形民俗 | 堂山の数珠繰り | 堂山 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 331 | 無形民俗 | 犬神の如来様 | 表郷金山字犬神 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 332 | 無形民俗 | 愛宕神社祭礼 | 新蔵町 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 333 | 無形民俗 | 白河提灯祭り（鹿嶋神社祭礼渡御祭） | 大鹿島 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | ○ | | |
| 334 | 無形民俗 | 河東田のしめ縄製作技術 | 表郷河東田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 335 | 無形民俗 | 郷渡のしめ縄の製作技術 | 関辺郷渡 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 336 | 無形民俗 | 戊辰戦争戦死者の慰霊 | 市内各所 | 未指定 | | | | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 337 | 無形民俗 | 白河の祭囃子 | 市内各所 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 338 | 無形民俗 | 小田川の虫送り | 小田川 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | |
| 339 | 無形民俗 | 河東田の愛宕様 | 表郷河東田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 340 | 無形民俗 | 河東田の天道念仏 | 表郷河東田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | ○ | |
| 341 | 無形民俗 | 中新城の奉納太鼓 | 大信中新城 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ |

| No. | 種別 | 名称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | |
|-----|------|----------------------|---------------|------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 |
| 342 | 無形民俗 | 中新城の愛宕様 | 大信中新城 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | ○ | |
| 343 | 無形民俗 | 形見の天王祭 | 東形見 | 未指定 | | | | | | | | ○ | | | | ○ |
| 344 | 無形民俗 | 社田の熊野講 | 表郷社田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 345 | 無形民俗 | 社田の鍬柄講 | 表郷社田 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | | | |
| 346 | 史跡 | 宗祇戻し | 旭町一丁目 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 347 | 史跡 | 人忘れずの山 | 借宿新地山 | 未指定 | ○ | | | | | | | ○ | | | | |
| 348 | 史跡 | 会津街道 | 大信豊地字 瀬戸地内 | 未指定 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 349 | 史跡 | 結城宗広墓 | 愛宕町 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 350 | 史跡 | 桜山別荘跡 | 金勝寺 | 未指定 | | | | ○ | | ○ | | ○ | | | | |
| 351 | 史跡 | 三年立古墳 | 本沼三年立 | 未指定 | ○ | | | | | | | ○ | | | | |
| 352 | 史跡 | 戊辰戦争石碑群 戊辰戦争戦死者墓・供養碑 | 市内 | 未指定 | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 353 | 史跡 | 羅漢山石切丁場 | 羅漢 | 未指定 | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 354 | 史跡 | 羅漢山築城稻荷神社（藤兵衛稻荷） | 羅漢 | 未指定 | | | ○ | | | | | ○ | | | | |
| 355 | 史跡 | 羅漢山人住居跡 | 羅漢 | 未指定 | | | | ○ | | | | ○ | | | | |
| 356 | 史跡 | 結城宗広墓 | 愛宕町 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 357 | 史跡 | 稻荷山古戦場跡 | 九番町 | 未指定 | | | | | ○ | | | ○ | | | | |
| 358 | 史跡 | 町屋遺跡 | 大信町屋 | 未指定 | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 359 | 史跡 | 切岸館跡 | 小田川 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 360 | 史跡 | 殿上山館跡 | 小田川 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 361 | 史跡 | 小屋ヶ上館跡 | 大和田 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 362 | 史跡 | 館山城跡 | 大和田 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 363 | 史跡 | 新小萱館跡 | 萱根 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 364 | 史跡 | 築瀬館跡 | 上ノ台 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 365 | 史跡 | 菅生館跡 | 菅生館 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 366 | 史跡 | 本沼館跡 | 本沼 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 367 | 史跡 | 舟田館跡 | 舟田 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 368 | 史跡 | 羽黒館跡 | 本沼 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 369 | 史跡 | 百目木館跡 | 舟田 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 370 | 史跡 | 新地山館跡 | 借宿 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 371 | 史跡 | 龍害館跡 | 田島 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 372 | 史跡 | 結城ヶ館跡 | 田島 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 373 | 史跡 | 薬師ヶ館跡 | 双石 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 374 | 史跡 | 鍛冶屋敷館跡 | 白坂 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 375 | 史跡 | 下黒川館跡 | 白坂 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 376 | 史跡 | 小屋山館跡 | 旗宿 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 377 | 史跡 | 前田館跡 | 豊地 | 未指定 | | ○ | | | | | | ○ | | | | |
| 378 | 史跡 | 高野館跡 | 東栃本 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| 379 | 史跡 | 館山館跡 | 表郷小松 | 未指定 | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 380 | 史跡 | 硯石館跡 | 表郷番沢 | 未指定 | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 381 | 史跡 | 八ツ峰館跡 | 表郷番沢 | 未指定 | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 382 | 史跡 | 阿瀬美館跡 | 表郷八幡 | 未指定 | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 383 | 史跡 | 櫛山館跡 | 表郷堀之内 | 未指定 | | ○ | | | | | | | ○ | | | |

| No. | 種 別 | 名 称 | 所在地 | 指定状況 | 歴史文化の特徴 | | | | | | | 文化財保存活用区域 | | | | | |
|-----|---------------|------------|-------|--------|---------|-------|----------|------|------|----------|-------|-----------|----|----|----|---|---|
| | | | | | みちのくの入口 | 白河結城家 | 歴代藩主と城下町 | 松平定信 | 戊辰戦争 | 近代化と文化振興 | 産業と諸職 | 暮らしと祈り | 白河 | 表郷 | 大信 | 東 | |
| 384 | 史跡 | 堀之内館跡 | 表郷堀之内 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | ○ | | |
| 385 | 史跡 | 三森館跡 | 表郷三森 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | ○ | | |
| 386 | 史跡 | 城のこし館跡 | 表郷梁森 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | ○ | | |
| 387 | 史跡 | 衣館跡 | 東燕内 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 388 | 史跡 | 形見館跡 | 東形見 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 389 | 史跡 | 千田館跡 | 東千田 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 390 | 史跡 | 手代館跡 | 東釜子 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 391 | 史跡 | 河内山館跡 | 東釜子 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 392 | 史跡 | 反町館跡 | 東上野出島 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 393 | 史跡 | 反田館跡 | 東上野出島 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 394 | 史跡 | 坂本館跡 | 東下野出島 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 395 | 史跡 | 水野館跡 | 東下野出島 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| 396 | 史跡 | 大山館跡 | 大信隈戸 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 397 | 史跡 | 東堂山館跡 | 大信下小屋 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 398 | 史跡 | 八幡山館跡 | 大信増見 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 399 | 史跡 | 古館跡 | 大信町屋 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 400 | 史跡 | 新城館跡 | 大信中新城 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 401 | 史跡 | 飯土用館跡 | 大信豊地 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 402 | 史跡 | 富沢城跡 | 大信下小屋 | 未指定 | | ○ | | | | | | | | | | ○ | |
| 403 | 史跡及び 天然記念物 | 転寝の森 | 大鹿島 | 未指定 | ○ | | | | | | | | | ○ | | | |
| 404 | 天然記念物 | 鹿嶋神社の森 | 大鹿島 | 県緑の文化財 | | | ○ | | | | | | | ○ | | | |
| 405 | 天然記念物 | 従二位のスギ | 旗宿関の森 | 県緑の文化財 | ○ | | | | | | | | | | | | |
| 406 | 天然記念物 | 南湖公園のサクラ並木 | 南湖 | 県緑の文化財 | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | | |
| 407 | 天然記念物 | 南湖公園のマツ並木 | 南湖 | 県緑の文化財 | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | | |
| 408 | 天然記念物 | 金山のトチノキ | 表郷金山 | 県緑の文化財 | | | | | | | | | ○ | | ○ | | |
| 409 | 文化的景観 | 白棚線旧路線跡 | 市内各所 | 未指定 | ○ | | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | |

報告書等刊行物リスト

| No. | 書名 | 発行者 | 発行年 |
|-------------|--|--------------------|--------------|
| 白河市関連の自治体史等 | | | |
| 1 | 白河市史 上 | 白河市教育委員会 | 昭和43年 (1968) |
| 2 | 白河市史 中 | 白河市教育委員会 | 昭和46年 (1971) |
| 3 | 白河市史 下 | 白河市教育委員会 | 昭和46年 (1971) |
| 4 | 白河市史 第一巻 通史編1 原始・古代・中世 | 白河市 | 平成16年 (2004) |
| 5 | 白河市史 第二巻 通史編2 近世 | 白河市 | 平成18年 (2006) |
| 6 | 白河市史 第三巻 通史編3 近代・現代 | 白河市 | 平成19年 (2007) |
| 7 | 白河市史 第四巻 資料編1 自然・考古 | 白河市 | 平成13年 (2001) |
| 8 | 白河市史 第五巻 資料編2 古代・中世 | 白河市 | 平成3年 (1991) |
| 9 | 白河市史 第六巻 資料編3 近世Ⅰ | 白河市 | 平成元年 (1989) |
| 10 | 白河市史 第七巻 資料編4 近世Ⅱ | 白河市 | 平成5年 (1993) |
| 11 | 白河市史 第八巻 資料編5 近代・現代 | 白河市 | 平成8年 (1996) |
| 12 | 白河市史 第九巻 各論編1 民俗 | 白河市 | 平成2年 (1990) |
| 13 | 白河市史 第十巻 各論編2 文化・旧町村沿革・人物 | 白河市 | 平成4年 (1992) |
| 14 | 大信村史 第1巻 通史編 | 白河市 | 平成18年 (2006) |
| 15 | 大信村史 第2巻 資料編 (上巻) | 大信村 | 平成16年 (2004) |
| 16 | 大信村史 第2巻 資料編 (下巻) | 大信村 | 平成17年 (2005) |
| 17 | 大信村史 第3巻 民俗編 | 大信村 | 平成13年 (2001) |
| 18 | 表郷村史 第1巻 通史編 | 白河市 | 平成25年 (2013) |
| 19 | 表郷村史 第2巻 資料編 | 白河市 | 平成23年 (2011) |
| 20 | 表郷村史 第3巻 民俗編 | 白河市 | 平成20年 (2008) |
| 21 | 東村史《上》 | 東村教育委員会 | 昭和51年 (1976) |
| 22 | 東村史《下》 | 東村教育委員会 | 昭和51年 (1976) |
| 23 | 白河市史資料集(1) 1.寛文歳中町在家数人別改 并高反別中分書付改 2.白河城下御制札之覚 3.新銭御高札写 | 白河市史編さん委員会 | 昭和38年 (1963) |
| 24 | 白河市史資料集(2) 1.古切支丹之類族救命帳 2.古切支丹類族死失帳 3.歳々宗門御改人数調控 4.宗旨手形之事 | 白河市史編さん委員会 | 昭和38年 (1963) |
| 25 | 白河市史資料集(3) 会津領時代編 1.蒲生氏郷書状 2.領内老人書上 3.その他 白河領時代編 1.榊原忠次御掟目 2.領内大庄屋書上 3.松平定信告諭書 4.その他 | 白河市史編さん委員会 | 昭和38年 (1963) |
| 26 | 白河市史資料集(4) 御所替一件書類 日光社参条目 | 白河市史編さん委員会 | 昭和39年 (1964) |
| 27 | 白河市史資料集(5) 文化6年御替地一件 同年御廻米割付 | 白河市史編さん委員会 | 昭和41年 (1966) |
| 28 | 白河市史資料集(6) 文化六年巳年ヨリ文政六未年マデ公私諸用留 天保七丙申年備米議定帳 | 白河市史編さん委員会 | 昭和42年 (1967) |
| 29 | 白河市史資料集(7) 古代・中古編 | 白河市史編さん委員会 | 昭和42年 (1967) |
| 30 | 白河市史資料集(8) 公私諸用留 | 白河市史編さん委員会 | 昭和42年 (1967) |
| 31 | 白河市史資料集(9) 白河藩庄屋文書 第一輯 佐久間男留集 | 白河市史編さん委員会 | 昭和43年 (1968) |
| 32 | 白河市史資料集(10) 初期検地編 附 土方覚書 | 白河市史編さん委員会 | 昭和43年 (1968) |
| 33 | 御用留 (文政5年) 川瀬文書 第1集 | 白河市立図書館 | 昭和58年 (1983) |
| 34 | 表郷村郷土資料集第1集 1.浅川騒動見聞記 2.天狗騒動 3.戊辰騒動 附解説 村の騒動略年表 | 表郷村郷土誌編纂委員会 | 昭和39年 (1964) |
| 35 | 表郷村郷土資料集第2集 古文書 | 表郷村郷土誌編纂委員会 | 昭和40年 (1965) |
| 36 | 表郷村郷土資料集第3集 鑄工・法器銘 | 表郷村郷土誌編纂委員会 | 昭和39年 (1964) |
| 37 | 表郷村郷土資料集第4集 出土品 美術工芸 板碑 道標石 その他 | 表郷村郷土誌編纂委員会 編集局 | 昭和40年 (1965) |
| 38 | 表郷村郷土資料集第5集 民俗 | 表郷村教育委員会 | 昭和42年 (1967) |
| 39 | 表郷村郷土資料集第6集 助郷 | 表郷村教育委員会 | 昭和42年 (1967) |
| 40 | 表郷村郷土資料集第7集 農民生活史 | 表郷村教育委員会 | 昭和43年 (1968) |
| 41 | 表郷村郷土資料集第8集 民俗資料解説 | 表郷村教育委員会 | 昭和44年 (1969) |
| 42 | 表郷村郷土資料集第9集 布告・諭告 | 表郷村教育委員会 | 昭和45年 (1970) |
| 43 | 表郷村郷土資料集第10集 三森用水今昔 | 表郷村教育委員会 | 昭和45年 (1970) |
| 44 | 表郷村郷土資料集第11集 慶応戊辰の戦禍 | 表郷村教育委員会 | 昭和47年 (1972) |
| 45 | 表郷村郷土資料集第12集 芦野宿助郷一件顛末 | 表郷村教育委員会 | 昭和48年 (1973) |
| 46 | 表郷村郷土資料集第13集 天明・天保大さきん覚書 | 表郷村教育委員会 | 昭和49年 (1974) |
| 47 | 表郷村郷土資料集第14集 昔の旅・道中記 | 表郷村教育委員会 | 昭和50年 (1975) |
| 48 | 表郷村郷土資料集第15集 昔史実、巷説、地名考 | 表郷村教育委員会 | 昭和51年 (1976) |
| 49 | 表郷村郷土資料集第16集 西国霊場巡拝道中記・源翁和尚行状縁起 絵詞 | 表郷村教育委員会 | 昭和52年 (1977) |
| 50 | 表郷村郷土資料集第17集 国、県指定 重文、美術品 史跡、石仏、 遺跡 | 表郷村教育委員会 | 昭和53年 (1978) |

| No. | 書名 | 発行者 | 発行年 |
|-------------------|--|--------------------------------|--------------|
| 51 | 表郷村郷土資料集第18集 近世文書の解き方 | 表郷村教育委員会 | 昭和54年 (1979) |
| 52 | 表郷村郷土資料集第19集 郷土の寺院、神社と由緒 | 表郷村教育委員会 | 昭和56年 (1981) |
| 53 | 表郷村郷土資料集第20集 中ノ沢権現 奉幣梵天祭 | 表郷村教育委員会 表郷村文化のふるさとづくり推進委員会 | 昭和56年 (1981) |
| 54 | 表郷村郷土資料集第21集 郷土地名考 方言・訛語 | 表郷村教育委員会 | 昭和57年 (1982) |
| 55 | 表郷村郷土資料集第22集 八幡・宮下熊野講 堀之内・辻念仏・河東田・牛頭天王祭 中野・風祭 | 表郷村教育委員会 表郷村文化のふるさとづくり推進委員会 | 昭和58年 (1983) |
| 56 | 表郷村郷土資料集第23集 金石文・碑誌 | 表郷村教育委員会 | 昭和58年 (1983) |
| 57 | 表郷村郷土資料集第24集 民話・伝説・わらべ歌 | 表郷村教育委員会 | 昭和59年 (1984) |
| 58 | 表郷村郷土資料集第25集 大岡Ⅰ 一瓦窯と塚群調査概報Ⅰ | 表郷村教育委員会 | 昭和60年 (1985) |
| 59 | 表郷村郷土資料集第26集 表郷村の文化財 一瓦窯と塚群調査概報Ⅰ | 表郷村教育委員会 | 昭和62年 (1987) |
| 60 | 表郷村郷土資料集第27集 古代祭祀遺跡 建鉢山 | 表郷村教育委員会 | 昭和63年 (1988) |
| 61 | 表郷村郷土資料集第28集 民俗文化財 | 表郷村教育委員会 | 平成1年 (1989) |
| 62 | 表郷村郷土資料集第29集 民俗文化財Ⅱ | 表郷村教育委員会 | 平成2年 (1990) |
| 63 | 表郷村郷土資料集第30集 炭鉱史 | 表郷村教育委員会 | 平成3年 (1991) |
| 64 | 表郷村郷土資料集第31集 水と生活 | 表郷村教育委員会 | 平成4年 (1992) |
| 65 | 表郷村郷土資料集第32集 白棚鉄道の推移 その1 | 表郷村教育委員会 | 平成5年 (1993) |
| 66 | 表郷村郷土資料集第33集 白棚鉄道の推移 その2 | 表郷村教育委員会 | 平成6年 (1994) |
| 67 | 表郷村郷土資料集第34集 表郷の生いたち | 表郷村教育委員会 | 平成7年 (1995) |
| 68 | 表郷村郷土資料集第35集 教育の推移 その1 | 表郷村教育委員会 | 平成8年 (1994) |
| 69 | 表郷村郷土資料集第36集 教育の推移 その2 | 表郷村教育委員会 | 平成9年 (1997) |
| 70 | 表郷村郷土資料集第37集 落穂集 | 表郷村教育委員会 | 平成10年 (1998) |
| 71 | 表郷村郷土資料集第38集 史実を追って | 表郷村教育委員会 | 平成11年 (1999) |
| 72 | 表郷村郷土資料集第39集 落穂集 その2 | 表郷村教育委員会 | 平成12年 (2000) |
| 73 | 表郷村郷土資料集第40集 馬頭観音 | 表郷村教育委員会 | 平成13年 (2001) |
| 74 | 表郷村郷土資料集第41集 石碑・石仏 | 表郷村教育委員会 | 平成14年 (2002) |
| 75 | 表郷村郷土資料集第42集 表郷村の植物Ⅰ | 表郷村教育委員会 | 平成15年 (2003) |
| 76 | 表郷村郷土資料集第43集 表庄屋日記 | 表郷村教育委員会 | 平成16年 (2004) |
| 77 | 表郷村郷土資料集第44集 古文書目録 | 表郷村教育委員会 | 平成17年 (2005) |
| 78 | 表郷村郷土資料集第45集 表郷村の植物Ⅱ (樹木編) | 表郷村教育委員会 | 平成17年 (2005) |
| 埋蔵文化財調査報告書 | | | |
| 79 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第1集 福島県白河市白河観音山横穴古墳群発掘調査概報 | 白河市教育委員会 | 昭和48年 (1973) |
| 80 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第2集 南掘切・高山・道南北試掘調査概報 | 白河市教育委員会 | 昭和53年 (1978) |
| 81 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第3集 高山・南掘切遺跡Ⅱ | 白河市教育委員会 | 昭和56年 (1981) |
| 82 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第4集 郭内横穴墓群 発掘調査報告書Ⅰ | 白河市教育委員会 | 昭和56年 (1981) |
| 83 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第5集 郭内横穴墓群 発掘調査報告書Ⅱ | 白河市教育委員会 | 昭和57年 (1982) |
| 84 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第6集 道南北遺跡 南掘切地区発掘調査報告Ⅲ | 白河市教育委員会 | 昭和57年 (1982) |
| 85 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第8集 白河小峰城趾 一本丸跡と石垣の調査報告Ⅰ | 白河市教育委員会 | 昭和58年 (1983) |
| 86 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第10集 南掘切Ⅳ 高山・南掘切地区発掘調査報告Ⅳ | 白河市教育委員会 | 昭和59年 (1984) |
| 87 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第12集 白河小峰城趾Ⅱ 一北小路門の調査報告Ⅰ | 白河市教育委員会 | 昭和59年 (1984) |
| 88 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第15集 下黒川遺跡 ほ場整備に伴う発掘調査 | 白河市教育委員会 | 昭和62年 (1987) |
| 89 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第16集 白河城 (小峰城) 三重櫓跡 発掘調査概報 | 白河市教育委員会 | 昭和64年 (1989) |
| 90 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第16集 的石山横穴墓群 一東北地方南部地域に於ける奈良時代前期横穴墓の調査Ⅰ | 白河市教育委員会 | 平成2年 (1990) |
| 91 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第18集 小峰城 (白河城) 二の丸跡地区発掘調査報告 | 白河市教育委員会 建設省東北地方建設局 | 平成4年 (1992) |
| 92 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第19集 結城ヶ館跡発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成7年 (1995) |
| 93 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第20集 市内遺跡詳細分布調査報告書 下総塚古墳・舟田中道遺跡・百目木館跡・舟田境遺跡 | 白河市教育委員会 | 平成9年 (1997) |
| 94 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第21集 白河駅前地下自由通路建設関連発掘調査報告書Ⅰ (小峰城跡) | 白河市教育委員会 白河市建設部都市計画課 | 平成9年 (1997) |
| 95 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第22集 白河遺跡地図 | 白河市教育委員会 | 平成10年 (1998) |
| 96 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第23集 夕日遺跡 古墳時代集落の調査 | 白河市教育委員会 株式会社白河グリーンパーク | 平成11年 (1999) |

| No. | 書名 | 発行者 | 発行年 |
|-----|---|-------------------------|-------------|
| 97 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第24集 前桜岡遺跡 | 白河市教育委員会 | 平成11年(1999) |
| 98 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第25集 連発掘調査報告書Ⅱ 小峰城跡 | 白河市教育委員会 | 平成11年(1999) |
| 99 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第26集 上根田ヶ入遺跡 | 白河市教育委員会 | 平成5年(1993) |
| 100 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第27集 跡発掘調査報告書1 舟田境遺跡 | 白河市教育委員会 福島県南農林事務所 | 平成12年(2000) |
| 101 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第28集 連発掘調査報告書 小峰城跡 | 白河市教育委員会 白河市建設部都市計画課 | 平成12年(2000) |
| 102 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第29集 連発掘調査報告書Ⅲ 小峰城跡 | 白河市教育委員会 白河市建設部都市計画課 | 平成12年(2000) |
| 103 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第30集 下総塚古墳発掘調査報告書(第4次調査) | 白河市教育委員会 | 平成13年(2001) |
| 104 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第31集 跡発掘調査報告書2 舟田中道遺跡Ⅰ | 白河市教育委員会 福島県南農林事務所 | 平成13年(2001) |
| 105 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第32集 跡発掘調査報告書3 百目木館跡 | 白河市教育委員会 福島県南農林事務所 | 平成14年(2002) |
| 106 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第33集 跡発掘調査報告書4 舟田中道遺跡Ⅱ | 白河市教育委員会 福島県南農林事務所 | 平成14年(2002) |
| 107 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第34集 転坂遺跡発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成14年(2002) |
| 108 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第35集 下総塚古墳発掘調査概報(第5次調査) | 白河市教育委員会 | 平成14年(2002) |
| 109 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第36集 谷地久保古墳発掘調査報告書(第3次調査) | 白河市教育委員会 | 平成14年(2002) |
| 110 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第37集 谷津田川流域水車跡群発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 福島県南建設事務所 | 平成15年(2003) |
| 111 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第38集 境の明神遺跡確認調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成15年(2003) |
| 112 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第39集 下総塚古墳発掘調査報告書(第6次調査) | 白河市教育委員会 | 平成15年(2003) |
| 113 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第40集 借宿廃寺跡確認調査報告書Ⅰ | 白河市教育委員会 | 平成16年(2004) |
| 114 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第41集 谷地久保古墳発掘調査報告書(第4次調査) | 白河市教育委員会 | 平成17年(2005) |
| 115 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第42集 観音山横穴墓群発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成17年(2005) |
| 116 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第43集 芳野遺跡試掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成17年(2005) |
| 117 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第44集 借宿廃寺跡確認調査報告書Ⅱ | 白河市教育委員会 | 平成17年(2005) |
| 118 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第45集 借宿廃寺跡確認調査報告書Ⅲ | 白河市教育委員会 | 平成18年(2006) |
| 119 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第46集 南湖公園確認調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成19年(2007) |
| 120 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第47集 借宿廃寺跡確認調査報告書Ⅳ | 白河市教育委員会 | 平成19年(2007) |
| 121 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第48集 芳野遺跡発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成20年(2008) |
| 122 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第49集 学田新田用水堀発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成20年(2008) |
| 123 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第50集 借宿廃寺跡確認調査報告書Ⅴ | 白河市教育委員会 | 平成20年(2008) |
| 124 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第51集 小峰城跡発掘調査報告書—民間集合住宅建設に伴う調査— | 白河市教育委員会 | 平成20年(2008) |
| 125 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第52集 野地久保古墳確認調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成22年(2010) |
| 126 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第53集 小峰城跡試掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成22年(2010) |
| 127 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第54集 大塚遺跡試掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成22年(2010) |
| 128 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第55集 借宿廃寺跡 | 白河市教育委員会 | 平成22年(2010) |
| 129 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第56集 小峰城跡発掘調査報告書 三重櫓跡・前御門跡の調査 | 白河市教育委員会 | 平成22年(2010) |
| 130 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第57集 小峰城跡復元報告書 三重櫓・前御門 | 白河市教育委員会 | 平成22年(2010) |
| 131 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第58集 桜山遺跡試掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成22年(2010) |
| 132 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第59集 白川城跡確認調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成23年(2011) |
| 133 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第60集 桜山遺跡発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成23年(2011) |
| 134 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第61集 舟田境遺跡(第3次調査)・大塚遺跡発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成24年(2012) |
| 135 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第62集 会津街道跡発掘調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成24年(2012) |
| 136 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第63集 白河藩大名墓所調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成24年(2012) |
| 137 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第64集 小峰城跡確認調査報告書 | 白河市教育委員会 | 平成24年(2012) |
| 138 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第65集 小峰城跡発掘調査報告書—店舗付集合住宅建設に伴う発掘調査— | 白河市教育委員会 | 平成25年(2013) |
| 139 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第66集 白川城跡確認調査報告書Ⅱ | 白河市教育委員会 | 平成25年(2013) |
| 140 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第67集 小峰城跡発掘調査報告書—城山公園整備に伴う調査— | 白河市教育委員会 | 平成25年(2013) |
| 141 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第68集 小峰城跡発掘調査報告書—旧商工会議所解体に伴う発掘調査— | 白河市教育委員会 | 平成25年(2013) |

| No. | 書名 | 発行者 | 発行年 |
|-----|--|--------------------------|-------------|
| 142 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第69集 白川城跡確認調査報告書Ⅲ | 白河市教育委員会 | 平成26年(2014) |
| 143 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第71集 小峰城跡発掘調査報告書 城山公園整備に伴う調査2 | 白河市教育委員会 | 平成27年(2015) |
| 144 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第72集 白川城跡 | 白河市教育委員会 | 平成28年(2016) |
| 145 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第73集 町屋遺跡発掘調査報告書 国道294号改良工事に伴う調査 | 白河市教育委員会 | 平成28年(2016) |
| 146 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第74集 小峰城跡発掘調査報告書 城山公園整備に伴う調査3 | 白河市教育委員会 | 平成28年(2016) |
| 147 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第75集 小峰城跡発掘調査報告書 一福島森林管理署白河支署新築工事に伴う調査一 | 白河市教育委員会 | 平成28年(2016) |
| 148 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第76集 小峰城跡発掘調査報告書 城山公園整備に伴う調査4 | 白河市教育委員会 | 平成29年(2017) |
| 149 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第77集 小峰城跡災害復旧事業報告書1 一搦手門跡一 | 白河市教育委員会 | 平成29年(2017) |
| 150 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第78集 小峰城跡災害復旧事業報告書2 本丸南面・清水門跡 | 白河市教育委員会 | 未刊 |
| 151 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第79集 小峰城跡発掘調査報告書 城山公園整備に伴う調査5 | 白河市教育委員会 | 平成30年(2018) |
| 152 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第80集 小峰城跡発掘調査報告書 竹之丸 | 白河市教育委員会 | 未刊 |
| 153 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第81集 地屋前遺跡発掘調査報告書 主要地方道塙・泉崎線改良工事に伴う調査 | 白河市教育委員会 福島県南建設事務所 | 平成31年(2019) |
| 154 | 白河市埋蔵文化財調査報告書第82集 南湖公園試掘調査報告書2 | 白河市教育委員会 | 平成31年(2019) |
| 155 | 福島県表郷村滝ノ森遺跡調査報告 | 表郷村教育委員会 | |
| 156 | 表郷村文化財調査報告書 桜平A遺跡他発掘調査報告書 | 表郷村教育委員会 | 昭和62年(1987) |
| 157 | 表郷村文化財調査報告書第3集 瀬戸原遺跡 | 表郷村教育委員会 福島県白河農地事務所 | 平成2年(1990) |
| 158 | 表郷村文化財調査報告書第4集 深渡戸B横穴群発掘調査報告 | 表郷村教育委員会 | 平成3年(1991) |
| 159 | 表郷村文化財調査報告書第5集 三森遺跡 | 表郷村教育委員会 | 平成5年(1993) |
| 160 | 表郷村文化財調査報告書第6集 三森遺跡 一平成六年度発掘調査概報一 | 表郷村教育委員会 | 平成7年(1995) |
| 161 | 建鉾山Ⅱ 一三森遺跡の発掘調査一 | 表郷村教育委員会 | 平成9年(1997) |
| 162 | 表郷村文化財調査報告書第7集 三森遺跡発掘調査報告Ⅱ 一建鉾山周辺の調査一 | 表郷村教育委員会 | 平成11年(1999) |
| 163 | 大信村文化財報告書 後沢地区土地改良事業 町屋遺跡分布調査報告 | 大信村教育委員会 | 昭和58年(1983) |
| 164 | 道目木遺跡 | 大信村教育委員会 | 平成6年(1994) |
| 165 | 大信村文化財調査報告書第3集 町屋遺跡試掘調査報告書 | 大信村教育委員会 | 平成8年(1996) |
| 166 | 大信村文化財調査報告書第4集 町屋遺跡試掘調査報告書2 | 大信村教育委員会 | 平成10年(1998) |
| 167 | 大信村文化財調査報告書第5集 入塩沢B遺跡試掘調査報告書 | 大信村教育委員会 | 平成11年(1999) |
| 168 | 大信村文化財調査報告書第6集 入塩沢B遺跡発掘調査報告書 | 大信村教育委員会 | 平成11年(1999) |
| 169 | 大信村文化財調査報告書第7集 三戸内入遺跡試掘調査報告書 | 大信村教育委員会 | 平成13年(2001) |
| | | | |
| | 文化財関係計画書・報告書等 | | |
| 170 | 史跡名勝南湖公園 保存管理計画書 | 白河市教員委員会 | 昭和57年(1982) |
| 171 | 史跡名勝南湖公園 第2次保存管理計画書 | 白河市教育委員会 | 平成20年(2008) |
| 172 | 史跡名勝南湖公園 整備基本計画 | 白河市教育委員会 | 平成29年(2017) |
| 175 | 南湖のいきもの植物編・動物編 | 福島県南建設事務所 白河市建設部都市計画課 | 平成20年(2008) |
| 176 | 史跡 小峰城跡 保存管理計画書 | 白河市教育委員会 | 平成26年(2014) |
| 177 | 史跡 小峰城跡 整備基本計画書 | 白河市教育委員会 | 平成27年(2015) |
| 178 | 国指定史跡 小峰城跡 東日本大震災による被害と復旧状況 | 白河市教育委員会 | 平成29年(2017) |
| 179 | 国指定史跡 小峰城跡 東日本大震災による被害と復旧状況 | 白河市教育委員会 | 平成30年(2018) |
| 180 | 史跡 白河舟田・本沼遺跡群、白河官衙遺跡群保存活用計画書 | 白河市教育委員会 | 平成29年(2017) |
| 186 | 鶴子山D遺跡分布調査報告 | 白河市教育委員会 | 平成4年(1992) |
| 187 | 白河関(国指定史跡)・南湖・阿武隈川を主とした白河地方の植物 | 白河市 | 平成16年(2004) |
| 188 | 丹羽長重廟 修復工事報告書 | 白河市教育委員会 | 平成27年(2015) |
| 189 | 旧脇本陣柳屋旅館 蔵座敷 修復工事報告書 | 白河市 | 平成31年(2019) |
| 191 | 第15回 全国城跡等石垣整備調査研究会 記録集 | 実行委員会事務局 (白河市教育委員会) | 平成30年(2018) |
| 192 | 第15回 全国城跡等石垣整備調査研究会 資料集 | 実行委員会事務局 (白河市教育委員会) | 平成30年(2018) |

| No. | 書名 | 発行者 | 発行年 |
|---------------------------------------|--|---------------------------|--------------|
| 193 | 第15回 全国城跡等石垣整備調査研究会 震災からの学び —東日本大震災における石垣修復の中間報告— 基調講演・報告資料 | 白河市教育委員会 | 平成30年 (2018) |
| 194 | ジャッコイ | 表郷村教育委員会 | 昭和47年 (1972) |
| 文化財パンフレット等 | | | |
| 195 | 白河市の文化財 | 白河市教育委員会 | 昭和57年 (1982) |
| 196 | 白河市の文化財 | 白河市教育委員会 | 平成10年 (1998) |
| 197 | 白河市の文化財 | 白河市教育委員会 | 平成23年 (2011) |
| 198 | 白河市文化財パンフレット 国指定史跡 舟田地区遺跡群 ～ほ場整備に伴う発掘調査～ | 白河市教育委員会 | 平成15年 (2003) |
| 199 | 白河市文化財パンフレット 谷津田川流域水車跡群発掘調査概要 | 白河市教育委員会 | 平成13年 (2001) |
| 200 | 白河市文化財パンフレット 国指定史跡及び名勝 南湖公園 | 白河市教育委員会 | 平成22年 (2010) |
| 201 | 白河市文化財パンフレット 国指定史跡 小峰城跡 | 白河市教育委員会 | 平成23年 (2011) |
| 202 | 白河市文化財パンフレット 国指定史跡 白河舟田・本沼遺跡群 白河官衙遺跡群 | 白河市教育委員会 | 平成23年 (2011) |
| 203 | 白河のあゆみ | 白河市企画調整課 | 平成2年 (1990) |
| 白河市歴史民俗資料館・小峰城歴史館(旧白河集古苑) 展覧会図録 | | | |
| 204 | 関根正二展 郷土白河が生んだ幻視の画家 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和54年 (1979) |
| 205 | 今井珠泉展 郷土白河出身の日本画家 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和56年 (1981) |
| 206 | 福田利秋版画展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和57年 (1982) |
| 207 | 松平定信公展 襲封二百年記念 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和58年 (1983) |
| 208 | 白河市教育文化功労賞受賞記念 斎藤正夫展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和59年 (1984) |
| 209 | 白河焼と白河ゆかりの陶芸家 現代陶器展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和61年 (1986) |
| 210 | 資料で見る小学校の歴史—白河小学校創立百周年記念— | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和61年 (1986) |
| 211 | 結城宗広公と中世の白河展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和62年 (1987) |
| 212 | 写真で見る白河のあゆみ—白河市制40周年記念企画展— | 白河市歴史民俗資料館 | 平成1年 (1989) |
| 213 | 人間国宝 色彩の美 芹沢銈介展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成4年 (1992) |
| 214 | 阿部家の名品 | 白河市教育委員会 | 平成5年 (1993) |
| 215 | 白河結城文書 | 白河市教育委員会 | 平成5年 (1993) |
| 216 | 高久隆古 —その画業を探る— | 白河市歴史民俗資料館 | 平成6年 (1994) |
| 217 | —白河地方の文化財— 祈りの造形 | 白河市教員委員会 | 平成7年 (1995) |
| 218 | 丹羽長重と小峰城 ※第3版 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成12年 (2000) |
| 219 | 武家の文化 近世大名阿部家の遺宝 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成8年 (1996) |
| 220 | 重要文化財指定記念 中世結城家文書 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成8年 (1996) |
| 221 | 大正期の夭折画家 長谷部英一 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成9年 (1997) |
| 222 | 定信と画僧白雲 —集古十種の旅と風景— | 白河市歴史民俗資料館 | 平成10年 (1998) |
| 223 | 白河市制施行50周年記念特別企画展 白河を駆け抜けた作家たち | 白河市歴史民俗資料館 | 平成11年 (1999) |
| 224 | 定信と庭園 —南湖と大名庭園— | 白河市歴史民俗資料館 | 平成13年 (2001) |
| 225 | 白河市歴史民俗資料館リニューアルオープン記念特別企画展 斎藤正夫 油彩画の世界 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成16年 (2004) |
| 226 | 復興祈願! 七転び八起き・開運招福 白河だるまと全国のだるま | 白河市歴史民俗資料館 | 平成25年 (2013) |
| 227 | 行田市・桑名市・白河市友好都市締結15周年記念合同企画展 武門の縁 —忍・桑名・白河、幕末への軌跡— | 行田市・桑名市・白河市 合同企画展実行委員会 | 平成25年 (2013) |
| 228 | 再興第98回院展 内閣総理大臣賞受賞記念 今井珠泉展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成26年 (2014) |
| 229 | 桑名市博物館開館30周年記念・白河市合併10周年記念 桑名市・白河市合同特別企画展 大定信展 —松平定信の軌跡— | 桑名市・白河市合同企画 展実行委員会 | 平成27年 (2015) |
| 230 | 松平家と松浦家 —葵姫の婚礼調度と松浦家の名宝— | 白河市歴史民俗資料館 | 平成28年 (2016) |
| 231 | 重要文化財 白河結城家文書 ※第2版 | 小峰城歴史館 | 令和1年 (2019) |
| 232 | 文晁門人 蒲生羅漢 —白河のまちを飾った絵師— | 白河市歴史民俗資料館 | 平成29年 (2017) |
| 233 | 戊辰戦争と白河 —武士と庶民、それぞれの戦いと慰霊— | 白河市歴史民俗資料館 | 平成30年 (2018) |
| 234 | 史跡小峰城跡石垣修復完了・小峰城歴史館開館記念 白河藩主 七家二十一代 | 白河市歴史民俗資料館 | 令和1年 (2019) |
| 235 | 今井珠泉寄贈作品展 | 白河市歴史民俗資料館 | 令和3年 (2021) |
| 白河市歴史民俗資料館・小峰城歴史館(旧白河集古苑) 展覧会配布パンフレット | | | |
| 236 | 五月節句 絵のぼり粉本展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和55年 (1980) |
| 237 | 現代日本版画展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和55年 (1980) |
| 238 | 日本のだるま展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和56年 (1981) |

| No. | 書名 | 発行者 | 発行年 |
|--|--|-------------------|--------------|
| 239 | 新発見の考古資料 昭和47年度～57年度 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和58年 (1983) |
| 240 | 白河藩主 阿部家文書と秋風展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和59年 (1984) |
| 241 | 松平定信公と白河ゆかりの文人画家たち | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和59年 (1984) |
| 242 | 羅漢山人展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和61年 (1986) |
| 243 | 集団「シラカワ」美術展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和61年 (1986) |
| 244 | 今井珠泉氏寄贈作品展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和62年 (1987) |
| 245 | 城郭絵図と町割図展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和63年 (1988) |
| 246 | 戊辰戦争と幕末にみる白河展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和63年 (1988) |
| 247 | 白河ゆかりの歌人たち (江戸後期～明治) 奥の細道紀行三百周年記念企画展 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和63年 (1988) |
| 248 | 福田利秋寄贈作品展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成1年 (1989) |
| 249 | 永遠の画学生 四方田草炎デッサン展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成2年 (1990) |
| 250 | 佐竹永郎とゆかりの画人展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成3年 (1991) |
| 251 | 日仏児童生徒絵画交流展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成4年 (1992) |
| 252 | 亜欧堂田善－銅版画の世界－ 松平定信に見いだされた絵師 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成6年 (1994) |
| 253 | 俳人 中島山麗展 つれづれなるままの十七文字 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成8年 (1996) |
| 254 | 白河城下の町絵図 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成10年 (1998) |
| 255 | 定信の書道楽 ～雅と剛～ | 白河市歴史民俗資料館 | 平成13年 (2001) |
| 256 | 福田利秋遺作版画展－描かれた風景・かたち・心－ | 白河市歴史民俗資料館 | 平成13年 (2001) |
| 257 | 描かれた仏たち ～白河地方の仏教絵画～ | 白河市歴史民俗資料館 | 平成14年 (2002) |
| 258 | 平成14年度福島県立博物館 移動博物館 武家のこころ・かたち | 白河集古苑 福島県立博物館 | 平成14年 (2002) |
| 259 | 阿部忠秋と松平定信 桑名市・行田市・白河市友好都市締結5周年記念企画展－行田・桑名ゆかりの大名－ | 白河市歴史民俗資料館 | 平成15年 (2003) |
| 260 | 幕末・明治期の画人 小河原峻山とその系譜－羅漢・碧潭・文晁－ | 白河市歴史民俗資料館 | 平成17年 (2005) |
| 261 | 福島県立美術館 移動美術館 近代日本画の名品展 鑑賞のてびき | 白河市歴史民俗資料館 | 平成17年 (2005) |
| 262 | 刀剣美術展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成18年 (2006) |
| 263 | 桑名市・白河市友好都市締結10周年記念・松平定信生誕250年記念生誕250年 松平定信展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成20年 (2008) |
| 264 | 今井珠泉画伯 新寄贈・寄託作品展 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成23年 (2011) |
| 265 | 小峰城絵図の世界 | 白河市歴史民俗資料館 | 平成23年 (2011) |
| 266 | 新島八重と戊辰白河口の戦い－ゆずれない心・それぞれの矜持－ | 白河集古苑 | 平成24年 (2012) |
| 267 | 新島八重の生涯と白河－白河がつなぐ故郷への想い－ | 白河集古苑 | 平成25年 (2013) |
| 268 | 松平定信とその時代－藩主定信をめぐる人とモノ－ | 白河集古苑 | 平成28年 (2016) |
| 269 | 福島県立美術館の名画たち－関根正二と洋画・日本画の名品－ | 小峰城歴史館 福島県立美術館 | 令和2年 (2020) |
| 白河市歴史民俗資料館・小峰城歴史館(旧白河集古苑)文書目録・報告書・その他刊行物 | | | |
| 270 | 藤田新次郎家寄託資料目録(白河市歴史民俗資料館資料目録第1集) | 白河市歴史民俗資料館 | 平成4年 (1992) |
| 271 | 広瀬典採訪書写文書(白河市歴史民俗資料館資料目録第2集) | 白河市歴史民俗資料館 | 平成4年 (1993) |
| 272 | 瓦師 小林家文書(白河市歴史民俗資料館資料目録第3集) | 白河市歴史民俗資料館 | 平成15年 (2003) |
| 273 | 川瀬家文書目録I(白河市歴史民俗資料館資料目録第4集) | 白河市歴史民俗資料館 | 平成17年 (2005) |
| 274 | 白河城下 町絵図調査報告書(白河市歴史民俗資料館調査報告書第1集) | 白河市歴史民俗資料館 | 平成15年 (2003) |
| 275 | 白河の仏画調査報告書(白河市歴史民俗資料館調査報告書第2集) | 白河市歴史民俗資料館 | 平成16年 (2004) |
| 276 | 白河市内戊辰戦争戦死者墓・供養碑調査報告書(白河市歴史民俗資料館調査報告書第3集) | 白河市歴史民俗資料館 | 平成30年 (2018) |
| 277 | 白河城御櫓絵図調査報告書(白河市歴史民俗資料館調査報告書第4集) | 白河市歴史民俗資料館 | 令和3年 (2021) |
| 278 | 白河市歴史民俗資料館年報 昭和54・55年度 | 白河市歴史民俗資料館 | 昭和56年 (1981) |
| 279 | 白河市歴史民俗資料館・小峰城歴史館 年報第1号 | 白河市歴史民俗資料館 | 令和2年 (2020) |
| 福島県(教育委員会・歴史資料館・文化財センター白河館等)刊行物 ※白河に関連する資料が掲載されているものを抜粋した。 | | | |
| 280 | 福島県文化財調査報告書第4集 | 福島県教育委員会事務局 | 昭和30年 (1955) |
| 281 | 福島県文化財調査報告書第6集 一県指定文化財一 | 福島県教育委員会事務局 | 昭和32年 (1957) |
| 282 | 福島県文化財調査報告書第9集 一県指定文化財一 | 福島県教育委員会 | 昭和38年 (1963) |
| 283 | 福島県文化財調査報告書第19集 福島県指定文化財調査報告書 | 福島県教育委員会 | 昭和45年 (1970) |
| 284 | 福島県文化財調査報告書第38集 福島県の金工品 一文化財基礎調査報告書3一 | 福島県教育委員会 | 昭和48年 (1973) |
| 285 | 福島県文化財調査報告書第41集 福島県の民家(Ⅳ.東白・西白) | 福島県教育委員会 | 昭和48年 (1973) |

| No. | 書名 | 発行者 | 発行年 |
|------------|--|---------------------------|-------------|
| 286 | 福島県文化財調査報告書第43集 福島県の建造物 一文化財基礎調査報告書4一 | 福島県教育委員会 | 昭和49年(1974) |
| 287 | 福島県文化財調査報告書第52集 福島県の彫刻 一文化財基礎調査報告書5一 | 福島県教育委員会 | 昭和50年(1975) |
| 288 | 福島県文化財調査報告書第55集 福島県の絵画・書跡 文化財基礎調査報告書6 | 福島県教育委員会 | 昭和51年(1976) |
| 289 | 福島県文化財調査報告書第56集 福島県の絵馬 文化財基礎調査報告書7 | 福島県教育委員会 | 昭和52年(1977) |
| 290 | 福島県文化財調査報告書第62集 福島県指定文化財調査報告書 | 福島県教育委員会 | 昭和53年(1978) |
| 291 | 福島県文化財調査報告書第72集 福島県の民家(V.第2回緊急調査報告・付前回分県中) | 福島県教育委員会 | 昭和54年(1979) |
| 292 | 福島県文化財調査報告書第76集 福島県の祭礼 文化財基礎調査報告書 | 福島県教育委員会 | 昭和55年(1980) |
| 293 | 福島県文化財調査報告書第77集 福島県古文書所在確認調査報告 | 福島県教育委員会 | 昭和55年(1980) |
| 294 | 福島県文化財調査報告書第88集 福島県の伝統工芸技術 文化財基礎調査報告書(白河ダルマ) | 福島県教育委員会 | 昭和56年(1981) |
| 295 | 福島県文化財調査報告書第90集 福島県の民謡 民謡緊急調査報告書 | 福島県教育委員会 | 昭和56年(1981) |
| 296 | 福島県文化財調査報告書第121集 「歴史の道」調査報告書 奥州道中 白坂境明神一貝田 | 福島県教育委員会 | 昭和58年(1983) |
| 297 | 福島県文化財調査報告書第126集 福島県の年中行事 | 福島県教育委員会 | 昭和58年(1983) |
| 298 | 福島県文化財調査報告書第138集 「歴史の道」調査報告書 白河街道 若松一白河 | 福島県教育委員会 | 昭和59年(1984) |
| 299 | 福島県文化財調査報告書第261集 福島県の民俗芸能 福島県民俗芸能緊急調査報告書 | 福島県教育委員会 | 平成3年(1991) |
| 300 | 福島県文化財調査報告書第348集 福島県の近代和風建築(福島県近代和風建築総合調査報告書) | 福島県教育委員会 | 平成10年(1998) |
| 301 | 福島県文化財調査報告書第361集 福島県文化財センター白河館(仮称)遺跡発掘調査報告書 一里段A遺跡(1次調査) | 福島県教育委員会 財団法人福島県文化センター | 平成12年(2000) |
| 302 | 福島県文化財調査報告書第425集 福島県の祭り・行事 一福島県祭り・行事調査報告書一(白河市11・表郷村12・東村5・大信村4) | 福島県教育委員会 | 平成17年(2005) |
| 303 | 福島県文化財調査報告書第448集 福島県の民俗技術 福島県民俗技術調査報告書 | 福島県教育委員会 | 平成20年(2008) |
| 304 | 福島県文化財調査報告書第468集 福島県の近代化遺産～福島県近代化遺産(建造物)総合調査報告書～ | 福島県教育委員会 | 平成22年(2010) |
| 305 | 福島県立博物館調査報告書第8集 明戸遺跡発掘調査概報 | 福島県教育委員会 | 昭和59年(1984) |
| 306 | 福島県の文化財目録 | 福島県教育委員会 | 昭和47年(1972) |
| 307 | 福島県の文化財目録 | 福島県教育委員会 | 昭和48年(1973) |
| 308 | 福島県の文化財目録 | 福島県教育委員会 | 昭和52年(1977) |
| 309 | 福島県の文化財目録 | 福島県教育委員会 | 昭和55年(1980) |
| 310 | 福島県の中世城館跡 | 福島県教育委員会 | 昭和63年(1988) |
| 311 | 福島県の文化財 一県指定文化財要録一 | 福島県教育委員会 | 昭和61年(1986) |
| 312 | 福島県の文化財 一国指定文化財要録一 | 福島県教育委員会 | 平成1年(1989) |
| 313 | ふくしまの建造物(松風亭羅月庵) | 福島県教育委員会 | 平成17年(2005) |
| 314 | 福島県史資料所在目録第1集 一明治・大正期の福島県庁文書一 | 福島県 | 昭和40年(1965) |
| 315 | 福島県史資料所在目録第6集 一主として県南地方の近世文書一 | 福島県 | 昭和45年(1970) |
| 316 | 歴史資料館収蔵資料目録 第2集 | 財団法人福島県文化センター | 昭和48年(1973) |
| 317 | 歴史資料館収蔵資料目録 第17集 | 財団法人福島県文化センター | 昭和63年(1988) |
| 318 | 歴史資料館収蔵資料目録 第34集 | 財団法人福島県文化振興事業団 福島県歴史資料館 | 平成15年(2003) |
| 319 | 歴史資料館収蔵資料目録 第38集 | 財団法人福島県文化振興事業団 福島県歴史資料館 | 平成19年(2007) |
| 320 | 歴史資料館収蔵資料目録 第45集 | 財団法人福島県文化振興事業団 福島県歴史資料館 | 平成26年(2014) |
| 321 | 歴史資料館収蔵資料目録 第50集 | 財団法人福島県文化振興事業団 | 平成31年(2019) |
| 322 | 白河市天王山遺跡の時代(平成30年度指定文化財展図録) | 福島県文化財センター白河館 | 平成30年(2018) |
| その他報告書・目録等 | | | |
| 323 | 番沢の民俗 福島県西白河郡表郷村番沢 | 東京女子大学文学部民俗学調査団 | 昭和63年(1988) |
| 324 | 史料館所蔵史料目録第73集 陸奥国白河郡栃本村根本家文書目録 | 史料館(国文学研究資料館) | 平成13年(2001) |
| 325 | 福島県重要文化財松風亭羅月庵 保存修理工事報告書 | 南湖神社 | 平成15年(2003) |

白河市文化財保存活用地域計画

発行 白河市建設部文化財課

発行年月日 令和4年3月11日

印刷 (有)ワタベ印刷所



Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

令和3年度文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）